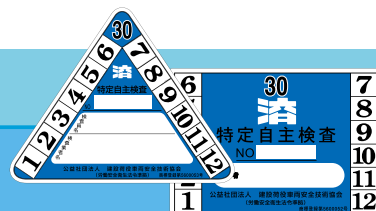


建設荷役車両



VOL.40 No.236

第**236**号
2018-7

平成30年7月1日発行（隔月1回1日発行）



公益
社団法人

建設荷役車両安全技術協会
SAFETY ASSOCIATION OF CONSTRUCTION AND LOADING VEHICLES

URL <http://www.sacl.or.jp>



とくじけんくん

ORタイヤ販売開始!!

いつものタイヤで交換しようかな？

ちょっと待って！

その前に一度お問い合わせ下さい！

圧倒的コストパフォーマンスで
貴社の経費節約に
貢献いたします!!

スキッドステアローダ用

570×12	6PR
23×8.50-12	6PR
27×8.50-15	6PR
10×16.5	6PR
12×16.5	8PR

ホイールローダー用

12.5/70-16	6PR	20.5-25	20PR
15.5/60-18	8PR	23.5-25	20PR
16.9-24	10PR	26.5-25	28PR
17.5-25	16PR	29.5-25	28PR

スキッドステアローダ用

ホイールローダー用

他、サイズ多数取り揃え

※大型建機用ホイール多数サイズ取り揃えております。
※注入ウレタンによるノーパンク化も対応。

MRC 丸中ゴム工業株式会社

本社：名古屋市瑞穂区二野町 4-11

TEL:052-889-5556 FAX:052-889-5558

名古屋営業所：名古屋市瑞穂区二野町 4-11

TEL:052-889-1777 FAX:052-883-2511

東京支店：座間市小松原 2-17-16

TEL:046-256-8206 FAX:046-256-8208

仙台営業所：仙台市宮城野区中野 5-3-8

TEL:022-387-0020 FAX:022-786-0440

大阪営業所：摂津市鳥飼中 3-6-60

TEL:072-650-5650 FAX:072-650-3650

(公社)建設荷役車両安全技術協会
広報委員会 行

FAX : 03-3221-3665

機関誌『建設荷役車両』をご愛読いただきありがとうございます。
皆さまのお役にたてる誌面づくりのために
アンケートにご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

※この用紙はホームページの「会員限定ページ」
からもダウンロードできます。
(URL <http://www.sacl.or.jp/>)

回答有効期限：2018年8月31日

- ◆ 下記の記事について、あてはまるものを一つ選んで□に✓を入れてください。
お読みになった記事は“おもしろい”、“どちらともいえない”、“つまらない”のうち一つを
お読みにならなかった記事は読んでいないを選んでください。

番号	記事カテゴリ	読んだ(あてはまるものを一つ選んでください) おもしろい	どちらともいえない	つまらない	読んで いない
①	広報	☐	☐	☐	☐
②	実践講座 (そこが知りたい働き方改革)	☐	☐	☐	☐
③	コーヒーブレイク・随想	☐	☐	☐	☐
④	技術解説	☐	☐	☐	☐
⑤	経済情報	☐	☐	☐	☐
⑥	我が社のセールスポイント	☐	☐	☐	☐
⑦	イラスト災害事例	☐	☐	☐	☐
⑧	製品紹介	☐	☐	☐	☐
⑨	取材記事 (読売テレビ新社屋建設現場)	☐	☐	☐	☐

- ◆ 協会のWebサイトや広告品について、あてはまるものを一つずつ選んで✓を入れてください。

番号	広告アイテム等	知っている	見た気がする	知らない
⑩	ポスター、チラシ	☐	☐	☐
⑪	協会Webサイト(www.sacl.or.jp)	☐	☐	☐
⑫	PRステッカー“特自検はお済みですか?”	☐	☐	☐

ポスター、チラシ

協会Webサイト(www.sacl.or.jp)

PRステッカー“特自検はお済みですか?”



- ◆ 本誌全般の感想や、取り上げてほしい話題、講座のテーマなどありましたらご記入ください。

- ◆ お手数ですが、下記情報をご記入ください。

フリガナ ●名 前:	●年齢:	●性別:
	歳	男・女
●勤務先名称:	●役職:	
●勤務先所在地: 〒□□□-□□□□ 都 道 府 県		
TEL: ()		
●職種: (最も近いものを一つ選んで✓を入れてください。)		
代表・役員 ☐	営業 ☐	サービス ☐
設計・技術開発等 ☐	現業・製造等 ☐	総務・経理等 ☐
その他 ☐		

※ 抽選で10名様に図書カードを贈呈いたします。結果発表は発送をもって代えさせていただきます。
※ ご記入いただいた個人情報は抽選品発送及び個人が特定できない形の集計・調査に使用させていただきます。



ご協力ありがとうございました

建設荷役車両安全技術協会
SAFETY ASSOCIATION OF CONSTRUCTION AND LOADING VEHICLES

2018/7月号



- ◆ 平成29年特定自主検査済標章等頒布状況
- ◆ 取材記事『読売テレビ新社屋建設工事現場』を訪ねて
- ◆ 平成29年度『考案賞の入賞作品』について
- ◆ 平成30年度『考案賞』対象考案の募集について



機関誌モニターアンケートにご協力下さい。
(巻頭綴込み)

用紙はホームページからも入手できます。(会員限定ページに掲載)

2018/7月号



- ◆ 平成29年特定自主検査済標章等頒布状況
- ◆ 取材記事『読売テレビ新社屋建設工事現場』を訪ねて
- ◆ 平成29年度『考案賞の入賞作品』について
- ◆ 平成30年度『考案賞』対象考案の募集について



機関誌モニターアンケートにご協力下さい。
(巻頭綴込み)

用紙はホームページからも入手できます。(会員限定ページに掲載)

建設荷役車両

2018-07 VOL.40 No.236

INDEX

■ 巻頭言

『落穂拾い』の精神 小平 正芳 4

■ 広報

平成29年（1月～12月）特定自主検査済標章等頒布状況 5

常設委員会活動報告 8

■ 技術解説

全周囲モニターシステム「グッドビューア」の紹介 … 直 広明、宍道 康彦 17

■ そこが知りたい！「実践 働き方改革 労務管理講座」

「働き方改革」とは？ 中辻 めぐみ 21

■ 現場取材シリーズ

読売テレビ新社屋建設工事現場を訪ねて 森田 康太郎 32

グラビア－読売テレビ新社屋建設工事 41

■ 安全・技術講座

我が社のセールスポイント 福島県支部 郡山自動車工業 株式会社 47

■ シリーズ特集Ⅸ

作業中の災害事例 53

■ 随想

趣味を大切に 小林 憲文 57

■ コーヒーブレイク

第110話 ザルムブラウに満たされ、ベルヴェデーレに癒される

..... 寺 岡 晟 59

■ 製品紹介 65

ペイロード搭載の油圧ショベル2機種を新発売／ホイールローダー「WA480-8」
／電動フォークリフト「gene B (ジェネビー)」に3トン系ハイキャパシティ車

■ 経済情報－1

緊急レポート：アベノミクス5年と今後の10の政策提言

..... みずほ総合研究所提供 68

■ 経済情報－2

サミットで生じた決定的亀裂、2020年代の不安を暗示

..... みずほ総合研究所提供 70

建荷協の動き..... 72

平成30年度支部別検査者の研修・教育の予定表..... 74

■ お知らせ

各種研修の受講料及び修了証再交付手数料..... 82

協会発行図書等のご案内..... 83

特定自主検査者資格取得者名簿（平成30年4月1日～平成30年5月31日）… 87

☆平成29年度の考案賞入賞作品の紹介..... 90

☆「考案賞」対象考案の募集について..... 101

支部一覧..... 105

編集後記..... 106



『落穂拾い』の精神 (失敗の中から経験を拾う)

公益社団法人建設荷役車両安全技術協会

理事 小平 正芳

株式会社日立物流 グリーンロジスティクス推進部 部長

企業にとって「安全」は最も重要なものであり、ゴールの無い永遠の課題でもあると言えます。

今回、その「安全」についての考え方である「落穂拾い」の精神について紹介させて戴きます。

弊社は、(株)日立製作所の物流部門から1950年に分離、設立した会社ですが、その日立の品質第一の精神に「落穂拾い」があります。

これは日立の製品事故の原因追及に「落穂拾い」という名をつけたものであり、旧約聖書にある、夫に死別したルツという若い女性が慣れない異国の地で弱者や貧しい者への救済措置である、「落穂拾い」という仕事に身を費やし、姑に良く仕えたという美しい物語から引用されたもので、その本位は「失敗の中から経験を拾う」という意味です。「落穂」は失敗を指し、「拾う」とは失敗を隠さず、向き合うことであり、要約すれば、失敗をきちんと反省して、その原因を明らかにして、その後に役立てることが重要であるとの考えです。

その基本理念は、論語にある孔子の弟子の曹氏（そうし）が一日に三度反省したという教えに倣い、

以下の3つの自省であります。

1. 他社、他人に対して不親切ではないか？

■ 常に相手の立場に立ち、誠意を尽くす。

2. 納品のクレームに不信はないか？

■ 臭いものに蓋をせず、クレームには真心を持って直ちに処置をとり、その修復に全力を挙げる。次にその失敗の経験を生かし、品質向上と再発防止を図る。そして同じ失敗を他人にも繰り返さないようにする。

3. 外に向かって空理空論を吐いてはいないか？

■ 失敗についての弁明、事理究明、再発防止策については、真実に基づいて解明し、確実に実況できる策を立てる。

そして、この上記の基本理念のもと、技術的な原因究明のみならず、事故やトラブルに至ったプロセス的、組織的、心理的要因についても徹底的に追求し、抜本的な再発防止策を検証することが求められます。

当社もこの「落穂拾い」の精神を受け継ぎ、安全品質活動の基本理念としています。

また、個人的にも「失敗から学び、経験を拾う」「相手の立場に立ち誠意を尽くす」といった、どの分野でも通ずるこの「落穂拾い」の精神を実践するよう心掛けています。

平成29年（1月～12月） 特定自主検査済標章等頒布状況

公益社団法人建設荷役車両安全技術協会

本表は標章等の頒布を通じて、特定自主検査の実情を把握するために集計したものです。

なお、下記の点にご留意下さい。

1. 資料は、特定自主検査済標章が暦年更新のため、平成29年用標章の集計数となっております。
2. 検査業者用標章は、不特定多数の顧客の検査を見込んでいるために実施台数より多いのが普通です。
3. 事業内検査標章は標章頒布に際して、検査資格者の確認、事業主の実施台数の申告に基づき必要枚数のみ頒布しますので、頒布枚数は実施台数に近い数値と考えてよいと思います。
4. 出荷標章及び月例検査済シールは、29年度（29.4.1～30.3.31）中に支部の売上に基づき精算した数量です。
5. 出荷標章は特定自主検査済標章のように暦年更新でなく、何時でも購入することができ、まとめて購入するので、年間購入枚数＝年間新車台数と見なすことはできません。傾向を知る程度でご覧下さい。

総 括 表

（単位：枚数）

No.	名 称	29年実績	28年実績	対前年比 (%)
1	検査業者用標章	1,327,727	1,304,032	102
2	事業内用標章	618,942	601,336	103
計		1,946,669	1,905,368	102
No.	名 称	29年度実績	28年度実績	対前年比 (%)
3	出荷標章	180,881	177,007	102
4	月例検査済シール	8,130	8,482	96

(単位：枚)

支部名	1. 検査業者用標章			2. 事業内用標章		
	29年	28年	対前年比	29年	28年	対前年比
北海道	56,839	56,475	101%	47,583	45,778	104%
青森県	24,137	23,486	103%	7,507	7,251	104%
岩手県	31,520	30,480	103%	7,310	7,209	101%
宮城県	29,983	29,013	103%	19,120	18,728	102%
秋田県	15,308	14,851	103%	5,394	5,385	100%
山形県	15,998	15,676	102%	4,202	4,448	94%
福島県	35,053	36,386	96%	8,406	8,679	97%
茨城県	38,071	37,273	102%	12,462	12,319	101%
栃木県	33,521	32,817	102%	6,740	6,774	99%
群馬県	31,273	30,375	103%	14,937	14,798	101%
埼玉県	65,050	63,158	103%	19,685	20,932	94%
千葉県	41,645	40,535	103%	22,238	21,154	105%
東京都	51,135	50,987	100%	109,391	102,194	107%
神奈川県	53,211	52,600	101%	31,291	28,918	108%
新潟県	37,043	36,813	101%	6,956	7,252	96%
富山県	22,626	22,377	101%	4,361	4,488	97%
石川県	17,086	16,693	102%	3,936	4,088	96%
福井県	14,058	13,737	102%	4,047	4,019	101%
山梨県	10,473	10,464	100%	2,922	2,952	99%
長野県	35,366	35,060	101%	5,690	5,767	99%
岐阜県	28,194	27,672	102%	5,340	5,561	96%
静岡県	56,543	56,012	101%	66,086	62,579	106%
愛知県	93,994	92,534	102%	19,751	19,430	102%
三重県	29,703	28,458	104%	6,427	6,433	100%
滋賀県	21,018	20,911	101%	3,111	3,021	103%
京都府	17,075	16,836	101%	6,079	5,761	106%
大阪府	68,304	67,138	102%	25,667	27,950	92%
兵庫県	45,662	44,783	102%	13,008	13,038	100%
奈良県	8,169	7,653	107%	7,067	4,290	165%
和歌山県	11,142	11,041	101%	5,739	5,714	100%
鳥取県	7,004	6,989	100%	2,657	2,609	102%
島根県	9,036	9,101	99%	3,388	3,583	95%
岡山県	25,547	25,176	101%	13,584	13,470	101%
広島県	36,713	36,020	102%	13,929	13,542	103%
山口県	15,699	15,593	101%	7,519	7,321	103%
徳島県	10,295	10,211	101%	3,519	3,268	108%
香川県	14,513	14,069	103%	4,663	4,315	108%
愛媛県	20,513	20,133	102%	5,808	5,734	101%
高知県	8,127	8,026	101%	2,545	2,462	103%
福岡県	43,500	41,801	104%	22,348	21,610	103%
佐賀県	8,093	8,015	101%	4,602	4,602	100%
長崎県	12,130	12,013	101%	3,460	3,481	99%
熊本県	15,981	15,049	106%	9,002	8,872	101%
大分県	13,771	13,385	103%	4,248	4,254	100%
宮崎県	17,120	16,492	104%	2,432	2,537	96%
鹿児島県	20,686	20,284	102%	6,305	6,369	99%
沖縄県	9,799	9,381	104%	6,480	6,397	101%
合計	1,327,727	1,304,032	102%	618,942	601,336	103%

(単位：枚)

支部名	3. 出荷標章			4. 月例検査済シール		
	29年	28年	対前年比	29年	28年	対前年比
北海道	6,520	5,490	119%	5	25	20%
青森県	750	1,230	61%	70	38	184%
岩手県	1,550	1,474	105%	37	51	73%
宮城県	4,245	6,810	62%	270	249	108%
秋田県	1,305	910	143%	22	27	81%
山形県	1,390	1,410	99%	28	46	61%
福島県	3,360	3,925	86%	73	91	80%
茨城県	12,337	8,529	145%	289	133	217%
栃木県	3,160	3,260	97%	404	349	116%
群馬県	3,270	3,395	96%	251	297	85%
埼玉県	13,509	11,968	113%	804	712	113%
千葉県	5,235	5,030	104%	1,419	1,054	135%
東京都	11,201	12,570	89%	1,130	1,592	71%
神奈川県	4,320	5,854	74%	405	894	45%
新潟県	7,525	8,610	87%	68	23	296%
富山県	1,151	1,130	102%	0	4	－
石川県	1,255	1,250	100%	0	30	－
福井県	950	850	112%	10	27	37%
山梨県	680	622	109%	45	23	196%
長野県	2,530	3,317	76%	5	35	14%
岐阜県	1,450	1,140	127%	60	27	222%
静岡県	4,700	5,260	89%	634	355	179%
愛知県	11,508	11,882	97%	298	336	89%
三重県	2,200	2,495	88%	189	232	81%
滋賀県	3,225	1,890	171%	66	39	169%
京都府	1,248	1,680	74%	57	103	55%
大阪府	20,396	21,220	96%	207	532	39%
兵庫県	3,565	5,310	67%	44	46	96%
奈良県	450	340	132%	8	7	114%
和歌山県	400	620	65%	14	23	61%
鳥取県	405	230	176%	0	0	－
島根県	241	320	75%	8	2	400%
岡山県	2,400	1,910	126%	47	32	147%
広島県	15,925	10,075	158%	365	359	102%
山口県	1,215	1,180	103%	32	4	800%
徳島県	510	600	85%	5	12	42%
香川県	930	1,105	84%	14	23	61%
愛媛県	1,485	1,070	139%	10	15	67%
高知県	615	483	127%	1	0	－
福岡県	12,866	13,420	96%	341	230	148%
佐賀県	2,080	1,810	115%	90	55	164%
長崎県	439	380	116%	36	47	77%
熊本県	1,740	1,260	138%	98	123	80%
大分県	970	820	118%	28	55	51%
宮崎県	1,055	880	120%	24	91	26%
鹿児島県	1,360	1,040	131%	107	33	324%
沖縄県	1,260	953	132%	12	1	1200%
合計	180,881	177,007	102%	8,130	8,482	96%

活動報告

常設委員会活動報告

ー平成29年度活動状況及び平成30年度事業計画の構想ー

公益社団法人建設荷役車両安全技術協会

■ 特自検委員会 ■

I 平成30年度事業計画に基づく活動状況

1. 標章頒布時等に活用できる窓口資料の開発・検討に取り組んだ。

窓口資料及び、巡回指導時に活用できる「特定自主検査記録表の記入要領（抜粋版）」を26,000部作成し検査記録表の適正な記入について活用し、強調月間に向けてさらに5,000部増刷し、抜粋版の普及に努めた。

また、「巡回指導申込書」を改訂し、全国版を本部ホームページに公開し、各支部においても支部版をプリントアウト出来るようサイボウズに公開した。

2. 「特定自主検査セミナー」を積極的に開催した。

特定自主検査セミナーは17支部において22回開催し、検査業者491社、664名の参加、事業内検査事業所424社、502名の参加で合計915社、1,166名の参加があった。

3. 新任巡回指導員の集合教育を本部において2回開催した。

新任巡回指導員の教育研修会を、2回実施した。本部講師は第1回目が鈴木、吉田講師、第2回目が鈴木、蓬田講師で行われた。鈴木講師においては今年度が最後の講義となり、「検査業者業務点検コース」の開発から関わって頂き、「新任巡回指導員研修」においても本部講師を長年務めて頂き、当協会の事業に多大な貢献を頂いた。

受講者数は合計で30名であった。

- ・第1回7月6, 7日 受講者数 16名
- ・第2回9月7, 8日 受講者数 14名

4. 巡回指導活性化のため、活動の少ない支部に対する本部支援策を検討した。

本部が行う巡回指導活動量の少ない支部へどのような支援をするか検討するため、活動量が少ないと思われる支部にアンケートを行ったが、巡回指導員は管理職等が多く職責上多忙であり、巡回指導に多くの時間をとられないことができないとの報告が多かった。

本部への要望としては、ウェブサイトの活用、指導員のレベル合わせ、他支部実施状

況の情報提供等が多く、本部主催で巡回指導の実施状況等を情報交換できる場の提供をブロックごとに行うこととした。

5. 「特定自主検査強調月間」を効果的に展開した。

平成29年度の特定自主検査強調月間においては、45支部において巡回指導が実施され延べ指導日数465日、訪問社数1,493社であった。巡回指導員は延べ737名、行政の同行担当官106名、その他団体等の参加者94名の動員で延べ937名による巡回指導が実施された。また、今年度作成した「特定自主検査記録表の記入要領（抜粋版）」を36支部において活用し巡回指導時に検査記録表の適正な記入指導に対して効果があった。

Ⅱ 平成30年度の主な事業計画

1. 標章頒布時等に活用できる窓口資料の開発・検討に取り組む。
2. 「特定自主検査セミナー」を積極的に開催する。
3. 新任巡回指導員の集合教育を本部において2回開催する。
4. ブロック別巡回指導情報交換会を開催する。
5. 「特定自主検査強調月間」を効果的に展開する。

■ 検査・整備技術委員会 ■

Ⅰ 平成29年度事業計画に基づく活動状況

1. 検査・整備技術委員会の活動状況

委員会開催日	実施事項
5月15日	今年度事業を推進する分科会活動の方針決定等
9月22日	今年度事業の中間報告及び来年度事業についての意見交換等
11月22日	整備技術情報の現場訪問調査
2月19日	「考案賞」の2次審査

2. 各分科会の活動状況

4 分科会を設置し、事業を推進した。

分科会名	開催月日	実施事項
整地・運搬・積込み用機械、掘削用機械及び解体用機械の特自検マニュアル及び能力向上教育用テキスト改訂分科会	6 月14日	整地・運搬・積込み用機械、掘削用機械及び解体用機械の特自検マニュアル及び能力向上教育用テキストを同時改訂し、能力向上教育用テキストにおいては当該機械の新しいモデルや機構等の解説を新たに追加した。
	9 月14日	
	12月11日	
	2 月 6 日	
原動機の特定自主検査マニュアル改訂分科会	6 月21日	原動機の特定自主検査マニュアル改訂を行った。
	9 月20日	
	12月15日	
フォークリフト安全運転テキスト改訂分科会	6 月29日	フォークリフト安全運転テキストの改訂を行った。
	9 月30日	
	12月19日	
検査整備基準値表改訂分科会	6 月12日	油圧式ショベル、トラクターショベル、ブル・ドーザー検査整備基準値表の改訂を行った。
検査整備基準値表改訂分科会	6 月20日	解体用機械検査整備基準値表の概要の改訂を行った。

3. 機関誌「技術解説」の掲載

検査・整備技術委員に依頼し下記技術解説を機関誌に掲載した。

企業名	解説名	掲載月
日本車輛製造(株)	中型杭打機 DHJ-45の開発	平成29年 7 月 230号
コベルコ建機(株)	油圧ショベル10型シリーズの(新)機能紹介	平成29年 9 月 231号
オカダアイヨン(株)	サイレントTS-Sカッターについて	平成29年12月 232号
(株)豊田自動織機	燃料電池(FC)フォークリフトの紹介	平成30年 3 月 234号

Ⅱ 平成30年度事業計画の構想

(1) 検査・整備技術の向上

ア 検査・整備技術資料の整備充実

(ア) 特自検マニュアルを改訂する。

- ① 特自検マニュアル(基礎工事用機械)
- ② 特自検マニュアル(不整地運搬車)
- ③ 特自検マニュアル(検査機器)

(イ) 能力向上教育用テキストを改訂する。

- ① 能力向上教育テキスト(基礎工事用機械)
- ② 能力向上教育テキスト(不整地運搬車)

(ウ) 特定自主検査記録表記入要領の改訂を行う。

(エ) 今年度改訂するマニュアル等の改訂内容について年度始め、事前に意見要望を集める。

イ 検査・整備技術情報の調査推進

(ア) 次の情報を収集し「機関誌」に掲載する。

- ① 新しい製品、機構及び部品に関するもの
- ② 検査、整備に関するもの
- ③ 検査機器、技術に関するもの

(イ) 機関誌の「技術解説」をメーカーに依頼し毎号掲載する。

ウ 建設荷役車両の安全向上に関する知識の普及促進

定期自主検査記録表(特定自主検査記録表、月次)を改訂する。

- ① フォークリフト 3 種
- ② トラクターショベル(ホイール式)
- ③ 油圧ショベル(クローラ式)
- ④ 解体用機械
- ⑤ 振動ローラー
- ⑥ 建柱車
- ⑦ ジブ・リーダー・ワイヤロープ
- ⑧ 高所作業車(トラック式)
- ⑨ 下部走行体(トラック)
- ⑩ コンクリートポンプ車

エ 検査・整備関連考案情報の募集、評価及び公表

「考案賞」対象考案の募集、評価及び公表を行なう。

■ 研修委員会 ■

I 平成29年度事業計画に基づく活動状況

ア 資格取得研修の充実及び計画的実施の促進

- (ア) 資格取得研修の年間計画の策定及び機関誌等への広報。

年間計画を機関誌及びホームページで広報した。

資格取得研修の開催回数を見ると本年度4月から2月まででは208回と、前年同期の203回と比べ2.5%増加した。本年度の資格取得研修受講者数は、3,102名と前年同期3,184名に比べ2.6%減で推移している。

資格取得研修修了証発行数については、本年度は2,723件と前年同期の2,889件と比べて5.7%の減少となっている。

- (イ) 広域担当講師及び検査実習担当講師の制度の創設、並びに定着。

広域担当研修講師については、支部からの講師派遣要請に基づき都度対応した。検査実習担当講師については、研修委員会での議論及びベテラン講師交流研修会でのグループ討議などを通じて具体化の検討を行った。

- (ウ) 資格取得マニュアル・能力向上テキストの改訂に伴う、指導書・スライド等の見直し。(車両系建設機械(締固め用))

車両系建設機械(締固め用)のスライドを見直した。資格取得研修及び能力向上教育の指導書を全面的に改訂した。

- (エ) 検査員研修監査。

15支部で監査を実施した。

イ 能力向上教育、実務研修、安全教育の充実及び計画的実行

- (ア) 能力向上教育等の年間計画の策定及び機関誌等への広報。

年間計画を機関誌及びホームページで広報した。

能力向上教育等の実施結果を見ると、本年度4月から2月までの能力向上教育の受講者数は2,930名と前年同期の2,881名に比べ1.7%の増加となった。

実務研修の本年度受講者数は1,677名と昨年同期の1,739名に対し3.6%の減少となった。

安全教育については、本年度の受講者数は1,275名と前年同期の1,360名と比べ6.2%の減少となった。

ウ 研修講師の養成・レベル向上

- (ア) 新任講師研修

新たに講師登録された方々を対象に「新任講師研修会」を開催し、検査実習や具体的な講義手法について研修を行った。

日 時：平成29年10月23日(月)13時～24日(火)15時
平成29年11月16日(木)13時～17日(金)15時

場 所：建荷協会議室及び日本教育会館

受講者数：36名

(イ) ベテラン講師の交流・研修会

経験3年以上の講師を対象に「ベテラン講師交流・研修会」を開催した。

日 時：平成30年2月22日(木)13時～23日(金)12時

場 所：日本教育会館

受講者数：18名

グループ討議のテーマとして「検査実習の添削指導のあり方」を取り上げた。

(ウ) 実務研修「検査業者業務点検コース」講師養成研修

新たな講師養成のため、研修を開催した。

日 時：平成29年8月7日(月)13時～8日(火)15時

場 所：建荷協会議室

受講者数：17名

(エ) 「建機付属クレーン部分の定期自主検査者安全教育」講師養成研修

新たな講師養成のため、研修を開催した。

日 時：平成29年5月12日(金)13時～18時

場 所：日本教育会館

受講者数：33名

Ⅱ 平成30年度事業計画の構想

ア 資格取得研修の充実及び計画的実施の促進

(ア) 資格取得研修の年間計画を、機関誌、HPに広報する。

(イ) 広域担当研修講師及び検査実習担当研修講師の制度を推進する。

(ウ) 資格取得マニュアル・能力向上テキストの改訂に伴って、指導書・スライド等の見直しを行う。(車両系建設機械(整地・運搬・積込み用、掘削用及び解体用)、原動機)

(エ) 検査員研修の監査を行う。

イ 能力向上教育、実務研修、安全教育の充実及び計画的実行

(ア) 能力向上教育等の年間計画を、機関誌、HPに広報する。

(イ) 車両系建設機械(基礎工事用)など開催回数の少ない能力向上教育の開催を支援する。

ウ 研修講師の養成・レベル向上

- (ア) 新任講師研修を実施する。
- (イ) 「ベテラン講師交流・研修会」を開催し、研修・教育のレベル向上を図る。
- (ウ) 実務研修「検査業者業務点検コース」の講師研修会を開催する。
- (エ) 「建機付属クレーン部分の定期自主検査者安全教育」の講師養成講座を開催する。
- (オ) 講師の研修時の負担軽減を図ることを目指した教材のあり方の検討を行う。

エ 離島における各種研修等の開催要望への対応

- (ア) 離島における各種研修・教育等に係る経費を助成する。

■ 広報委員会 ■

I 平成29年度事業計画に基づく活動状況

1. 広報委員会の開催状況

- (1) 広報委員会（定例） 9回開催から6回に変更

No.	開催日	主な実施事項
1	5月19日	・平成30年版標語(スローガン)の選考
2	7月21日	・平成30年版年間ポスターの制作について協議
3	9月15日	・平成30年版年間リーフレットの制作について協議
4	12月8日	・平成30年度事業計画(案)について協議
5	1月12日	・平成30年度現場・工場取材見学会について協議
6	3月23日	・平成30年度イラスト災害事例掲載分の選考

- (2) 広報委員会（分科会）

開催なし

- (3) 広報委員会による取材見学会

No.	開催日	主な実施事項
1	4月14日	現場取材見学：ハッ場ダム本体建設工事
2	11月17日	工場取材見学：豊田自動織機トヨタL&F高浜工場

2. 平成29年度事業計画に基づく活動状況

- (1) 特自検PR資料の制作と活用

- (ア) 特自検PR資料の制作・配布

- ① ポスター、リーフレット、ステッカー等の制作・配布した。(平成28年度実績)
- (a)平成29年度特自検強調月間用リーフレット 9月初旬配布 162,000枚(160,000枚)
 - (b)平成29年度特自検強調月間用ステッカー・9月初旬配布 13,000枚(13,000枚)
 - (c)平成29年度強調月間用有償のぼり・・・9月初旬配布 5,000枚(550枚)
 - (d)平成30年版特自検年間ポスター・・・12月初旬配布 16,000枚
(16,000枚)
 - (f)平成30年版特自検年間リーフレット・・・12月初旬配布 325,000枚
(332,000枚)
- ② 年間ポスター案選考について、昨年度より実施した実際に使用可能なモデルを想定し、そのモデルの宣材写真によるポスター応募案9点(1社3点)の中から広報委員並びに本・支部職員の投票による決定方法により、本年度は支部長も投票に参加して貰い実施した。
- ③ 年間リーフレットの特自検対象機械のイラストの更新を行った。(追加:1機種)
- ④ 特自検PR用のぼりについて、昨年度まで希望会員を対象に有償で配布していたものを本年度は、整備・検査業、ディーラー会員並びに検査業検査資格登録のリース・レンタル業会員を対象に無償配布した。(制作枚数:6,000枚、配布枚数:5,000枚、残数1,000枚委託倉庫在庫)
- ⑤ 協会ロゴ入りクリアファイルを50,000枚制作し追加補充した。
- (イ) 協賛団体の行事、各種会議等の機会を通じ、リーフレット等の特自検PR資料を配布し、特自検の普及促進を図った。
- 平成29年版年間リーフレットを5団体 10,000枚配布

イ 機関誌に関するニーズの把握及び掲載内容の充実

- (ア) 機関誌モニターアンケートの調査方法、調査項目・内容について見直しを行った。
- (イ) 「職場の安全・環境改善講座」新シリーズ題材について調査・検討を行った。

ウ 情報発信の充実

特自検強調月間のPR

- (ア) 特自検強調月間の広告を業界向け新聞・雑誌等への掲載
 - ・日刊工業新聞他 物流・運輸・倉庫関係業界紙11紙、建通新聞1グループ(33紙)に掲載した。
- (イ) 建荷協並びに特自検制度のPR活動等
 - ・中災防、建災防、港湾災防、林災防、労働調査会等の刊行物に建荷協並びに特自検のPR広告を掲載した。
- (ウ) 本部ホームページのリニューアルの検討・実施
 - ・現状のメニュー・コンテンツ構成・内容の見直しを実施した。

Ⅱ 平成30年度事業計画に関する構想

1. 広報活動の推進

ア. 特自検PR資料の制作と活用

- (ア) 年間ポスターの制作
- (イ) 年間リーフレットの制作
- (ウ) 強調月間PR資料(リーフレット、ステッカー)の制作

2. 機関誌の掲載内容の充実

- (ア) 機関誌掲載記事コンテンツの見直し並びに新企画の調査・検討

3. 情報発信の充実

(ア) 特自検強調月間のPR

- 広告掲載媒体(業界新聞・業界誌等)の検討及び業界に特化した広告内容等の検討並びに広告の実施
- (イ) 本部ホームページのリニューアルの検討及び実施

技術解説

全周囲モニターシステム 「グッドビューア」の紹介

直 広明、宍道 康彦*

1. はじめに

フォークリフト稼働中に、周辺の作業者がひかれる人身事故が毎年発生し、監督する企業には、災害ゼロが第一に求められている。平成28年のフォークリフトに起因する死亡事故および休業4日以上事故件数は約2,000件（図1）で、そのうち「追突され」、「後方ひかれ」（図2）など、作業者のひかれ事故が全体の約67%を占めている。（安全衛生情報センタ労働災害データベースより）

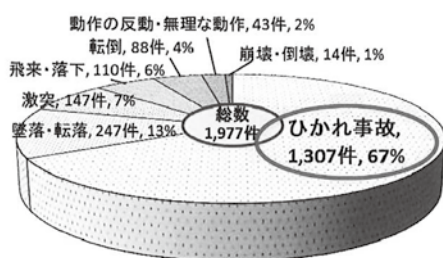


図1 平成28年フォークリフト労働災害発生状況

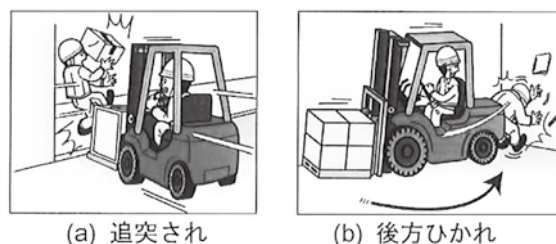


図2 フォークリフトの事故例
（公社）建設荷役車両安全技術協会

フォークリフトは非常に便利な荷役機械であり物流の合理化・運搬作業の省力化には欠かせないが、次のような特徴がある。

- (1) 作業者と混在する作業場で、使用されることが多い。
- (2) 荷物を前方に積み運搬するので、視野確保のため後進走行が多い。
- (3) 後輪操舵のため旋回時に車両後部が大きく左右に振れる。

そのため、運転者から作業者が見えにくい、または、見えないなどの状況が起きやすく、フォークリフトと作業者の接触による災害が発生しやすい。特に、大型フォークリフトにおいては、図3のように、荷物を持った時の前方や、旋回や後進の時のウェイト

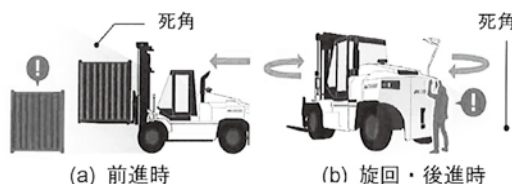


図3 運転者の死角

* 三菱ロジスネクスト株式会社 技術本部 コンポーネント・先行技術部

付近は、完全に死角となり、運転には細心の注意が必要とされる。

このようにフォークリフトは、死角が多いため、人身事故に限らず、「大切な荷物をぶつけて壊してしまう」「カウンタウエイトをぶつけて周囲の物を破損させる」といった、物損事故も多い。

このような状況を改善するには、死角をなくし、周囲の状況がすぐに把握できることが肝要である。そこで、乗用車において一般的になりつつある全周囲モニターシステムを、フォークリフト用に最適化し、『グッドビューア』の名称で2017年4月からオプション販売を開始した。死角の多い中・大型フォークリフト（6t～30t）及びリーチスタッカーを対象として搭載し、お客様の安全確保および荷役品質の向上に大きく寄与している。

本稿では、このシステムの概要について紹介する。

2. システム概要

2.1 システム構成

本システムの構成は、乗用車向けシステムと同様に、車両の前後・左右に4台のカメラを配置し、コントローラで画像を処理することにより、車両上方から見たような、俯瞰映像に変換し、モニタに表示するものとなっている。

(1) 車載コントローラ

車両の左右と後方の3方向のカメラ映像を、俯瞰画像に合成しモニタに出力する。また、前後進レバーの信号により、モニタ下部に前方画像と後方画像を切替え出力する。

表1 主な仕様

コントローラ仕様

入力	4-6chビデオ入力
出力	800×600(SVGA)
動作温度	-45～85℃
電源	12/24V
消費電力	6W

カメラ仕様

視野角	185°
出力	720×576 (PAL)
動作温度	-45～85℃
防水防塵	IP6K9K

モニタ仕様

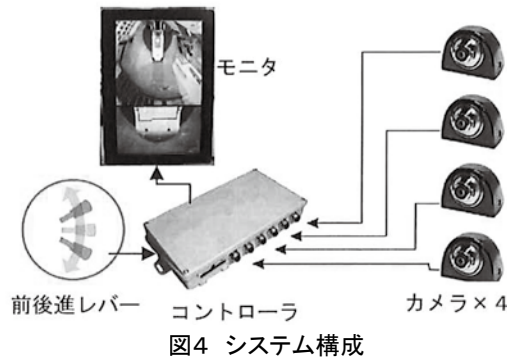
画面サイズ	10.4inch
輝度	1500cd/m ²
視覚範囲	-80～80°（水平・垂直）
動作温度	-20～70℃
防水防塵	IP65相当

(2) カメラ（4台）

魚眼カメラで、半球状の広い範囲の映像を捉える。

(3) モニタ

高輝度モニタにより、太陽光下でも視認が可能。



2.2 機器搭載例

図5にフォークリフトへの機器搭載例を示す。

俯瞰画像用にヘッドガードの左右と後方ブラケットの3箇所にカメラを配置する。前方カメラは、マスト下部連結材に配置し、前方確認用に単独で使用する。

またカメラおよびモニタは、風雨に曝されることを考慮し、防水仕様となっている。

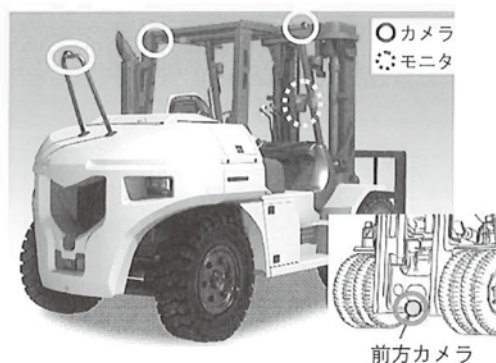


図5 機器搭載例

2.3 動作

本システムの動作を図6に示す。

左右+後方の3つのカメラで得られた、画像は、コントローラ独自のアルゴリズムにより、リアルタイムでそれぞれ地面（平面）へと展開され俯瞰画像に合成される。

前方カメラの画像については、前方に大きな荷物を積む場合カメラが隠れてしまうことがあるため、俯瞰画像の生成には使用せず、単独画面として俯瞰画像とあわせて表示する。

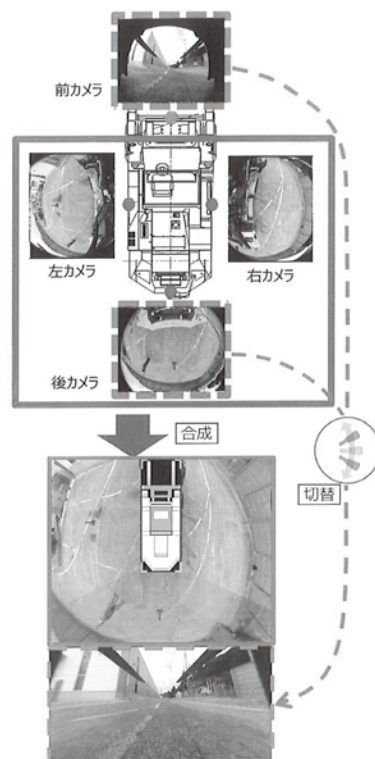


図6 システムの動作（前進時）

2.4 特長

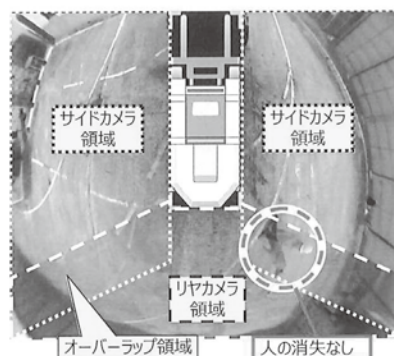
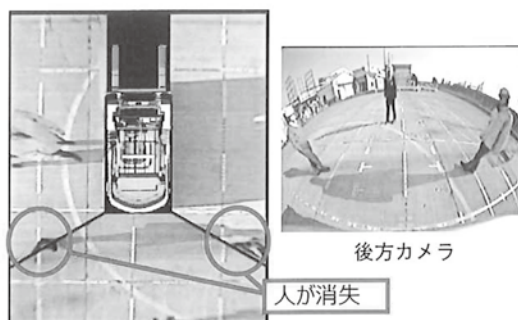
(1) 俯瞰映像により死角が大幅に減少

車両に搭載した複数台のカメラ画像を合成することにより、上空から見下ろしたような俯瞰映像を表示することが出来る。これにより大型車で死角となる車両近傍の状況を、一目で把握することが可能となった。

(2) カメラのつなぎ目の死角ゼロ

乗用車向けシステムでは、前後・左右の画像につなぎ目があるシステムもあるが、図7のようにカメラで人を捉えているにも関わらず、俯瞰画像に変換したとき、つなぎ目で人が消失してしまう場合がある。

後方部を大きく振って旋回するフォークリフトにおいては、後方のつなぎ目で人や障害物が消失しないことが特に重要となる。そこで、本システムでは、左右と後方画像のつなぎ目に、オーバーラップ領域を設け、人が消失しないようにした。(図8)



(3) 前後画像の自動切替で死角なし

モニタ下部の表示映像は、前後進レバーと連動して自動切替を行う。

前進時はフォーク下からの前方カメラ画像を表示することで、大きな荷を持った時の前方視界を確保した。(図9(a))

また、中立時・後進時は、(図9(b))のように、俯瞰画像ではウエイトのコーナー部が死角となるが、ウエイトを見下ろした画像を表示することで、ウエイトコーナー部の死角をなくした。これにより、ウエイトコーナーに隠れた作業者を確認でき、発車時の安全確認性が向上する。

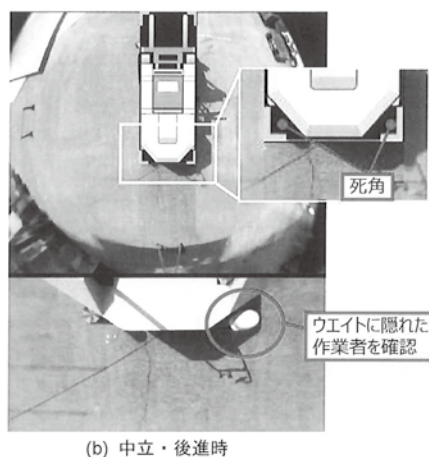
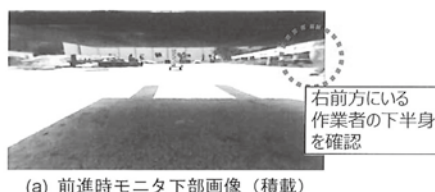


図9 前後画像切替

3. おわりに

全周囲モニターシステム『グッドビューア』の概要を紹介した。

本システムは、運転者の死角をなくし、フォークリフト周辺の作業人や障害物を確認しやすくする安全確認補助システムである。本システムを導入することで、周囲の安全確認を一目で行え、お客様の安全意識が向上し、作業場の事故防止が図れるものと考えている。

今後も、お客様の作業現場の事故防止に寄与できる商品開発に努めていきたい。

そこが知りたい! 「実践 働き方改革 労務管理講座」

第1回

「働き方改革」とは？ ～今さら聞けない働き方改革～

社会保険労務士法人中村・中辻事務所

代表社員 中辻めぐみ[※]

小誌では、このコーナーにおきまして、労務管理の面から見た「働き方改革」を皆様にお届けすることとなりました。政府主導で行っている「働き方改革」ですが、まだまだ浸透しているとは言い難い状況です。そのため、企業で働き方改革の支援を行っている特定社会保険労務士である中辻めぐみ氏に、労務管理の視点で見た企業事例などを紹介してもらうことになりました。成功事例だけでなく、失敗事例、さらに改革に至る背景や苦労した点なども含めて伝えてもらいます。また大がかりな仕組みだけでなく、スモールステップでの取り組みなど、示唆に富む取り組みの方法も今後、紹介していく予定です。

今回から執筆を担当させていただきます。ここでは、実務に沿った内容を盛り込み、皆様の職場の働き方改革の一助となるよう、分かりやすい解説に務めます。

1. はじめに

「時代は大きく変わろうとしている。変革を恐れず新たな成長の途（みち）を目指すのか、世界の先行企業の下請けの途を取るのか。日本は今、歴史的な分岐点にいる。」

さて、いきなり壮大な文章から始まりましたが、これは「日本再興戦略2016」に記載されているものです。

筆者は、社会保険労務士として企業の労務管理の支援を日々行っていますが「働き方改革」の名のもと、企業の働かせ方や社員自身の働き方を見直す時期に来ていると、ひしひしと感じています。企業の労務管理を通し見えてくるものはたくさんありますが、その中でも以下のことが重要であると考えています。

- ① 今、まさに変化が求められていることに早く気づくこと
- ② 企業の経営課題として取り組むこと
- ③ 管理職・一般社員を含む全ての層に対し腹落ちしてもらうこと
- ④ 社員一人一人が自発的な取り組みができるようになること
- ⑤ この一連の流れを実現させること

①～⑤を円滑に進める上で「トップの本気度」は欠かせません。これらのことは連載を通じてお伝えしていき、特に今回と次回は多くの企業が頭を悩ましている長時間労働について取り上げてみたいと思います。

本題に入る前に、まずは「働き方改革」について改めて考えてみたいと思います。

2. 今さら聞けない「働き方改革」

さて、ここで皆さんに質問です。働き方改革とは何か？と説明するとしたならば、どの説明が適切でしょうか？次の選択肢から考えてみて下さい。

- ① 長時間労働の削減
- ② WLB^{*}の実現
- ③ 生産性の向上

「うーん??」と考えて頂いた方、ありがとうございます。

……実はすべて正解です（笑）「なんだ、それ！」とお叱りを受けそうですが、ここはちょっとだけお待ちください。後でネタばらしをしますので…。

話を元に戻します。「働き方改革」とは「今の働き方を見直すということ」とも説明できますが、実行するに当たっては、その先にあるものを見据えていくことが重要だと思っています。

この後、企業事例をもとにお伝えをさせていただきますが、ややもすれば「長時間労働の削減」だけに焦点が当たってしまい「社員からの反発」を招くことにもなりかねません。

そのため「働き方改革」を何のために行うのか、行ったらどのような結果を導き出したいのか、といったことを見据えて舵を切って頂きたいのです。

仮に恒常的な長時間労働がある企業であった場合、「長時間労働の削減」を行いつつも、そこがゴールではなくその結果「WLBの実現」や、ゆとりある時間の中で生み出される「生産性の向上」などを見据えて頂きたいと思います。

そのため先の質問の選択肢に①長時間労働の削減、②WLBの実現、③生産性の向上を記載しました。これら3つは、今の働き方を変える際に、最終的にどのようなゴールを目指すのか、その際の重要な指標として頂きたいと思います。

3. 長時間労働の抑制の背景

さて、それでは今回と次回のテーマである長時間労働についてお伝えします。健康障害を引き起こしたり、企業のリスクとなったりすることは皆様よくご承知のことだと思います。

^{*}WLB (work-life balance)：ワーク・ライフ・バランス「仕事と生活の調和」

一方「分かってはいるのだけど、長時間労働となってしまうている。」という企業が多いのも事実です。

これは今に始まったことではなく、長時間労働の問題は以前からありました。しかし冒頭の「日本再興戦略2016」の言葉にあるとおり、まさに私たちは「歴史的な分岐点」にいます。

その背景には先に述べた健康障害や企業リスクだけでなく、国際社会から見た中でも我が国の生産性の低さ、労働人口の減少、どの国も経験したことのない超高齢化社会への突入など様々な問題が山積しているからです。まさに待ったなしで「働き方改革」が叫ばれるようになったのです。

4. 長時間労働の抑制に動く国の施策

さて、ここで最近の国の施策を時系列でお伝えしていきたいと思います。

日本再興戦略改訂2014年に「働き過ぎ防止のための取り組み強化」が盛り込まれ、2014年6月に「過労死等防止対策推進法」が成立、その後同年11月に施行されました。

この流れを受けて、労働基準監督署が月100時間を超えると考えられる残業を行っている事業場に対する監督指導の徹底を行いました。（その後「月80時間超え」が対象となりました。）

筆者の顧問先も36協定で100時間超えの企業がありましたので、その頃から労働基準監督署の調査が多くなってきました。

以前から筆者は「100時間超えは、健康障害を発生させるリスクが高いです。労使で話し合って特別条項の締結をしていたとしても、ここまで働かせて問題ないという認識ではなく、この時間を少しでも減らすように致しましょう。」と顧問先にお伝えしていたこともあり、労働時間の管理は徹底していたので、是正勧告を監督官から出されることは（ほぼ）ありませんでした。そのような事業場においても、100時間超えの残業に関しては、監督官から健康障害のリスクのご指摘があり、働き方そのものを見直す必要があると考える企業側が増えてきたのもこの時期です。

日本再興戦略改訂2015年でも、引き続き「働き過ぎ防止のための取組強化」が盛り込まれたほか、同年7月には関連通達の「過労死等の防止のための対策に関する大綱の作成について」が発出されています。

さらに冒頭に記載した日本再興戦略2016でも、長時間労働の是正が盛り込まれています。

同年秋に、大手広告代理店の新入社員のうつ病での労災認定が世の中に知られる

ことになります。2016年12月26日に『「過労死等ゼロ」緊急対策』が発出されました。

図1にありますとおり、3つの軸を中心に2017年より実施されています。

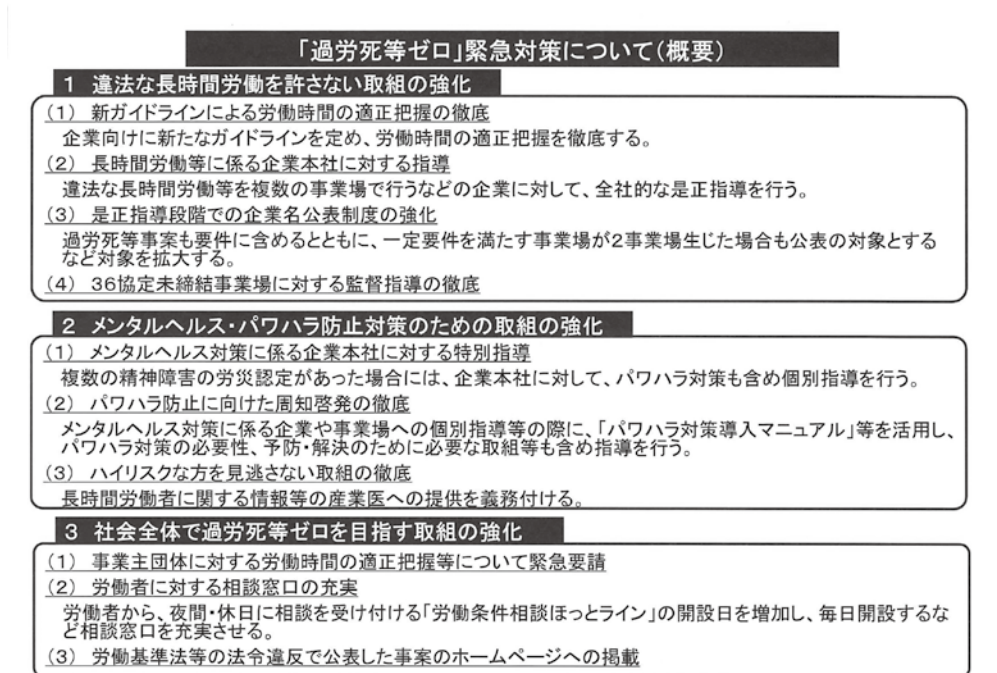


図1 「過労死等ゼロ」緊急対策 抜粋

その他、ここに記載されている内容が現在も引き続き取組強化されていることから、具体的にどのようにしていくかは今後の連載の中でも取り上げていく予定です。

さて、お話を戻しますが、2017年3月に「働き方改革実行計画」が発出され、「長時間労働の是正」などの9つの柱を立てられています。「法改正による時間外労働の上限規制の導入」などを今後取り入れるとされています。

執筆現在（平成30年5月30日）は、まだ決定ではありませんが、いずれにしても、本決まりとなったら、今までは特別条項の締結の上限時間が実質青天井であったものが、単月100時間未満、平均して80時間以内（ともに休日労働を含んだ時間）となります。

現行は告示であったものが法律に格上げされ、罰則による強制力を持つようになります。また、労使の合意があったとしても先の上限規制を超えることはできなくなります。

建設業などは、しばらく猶予があるようですが、今のうちから意識し働き方の見直しを考えておくことをお勧めします。

5. 「見かけ上のコンプライアンス」になっていないか？

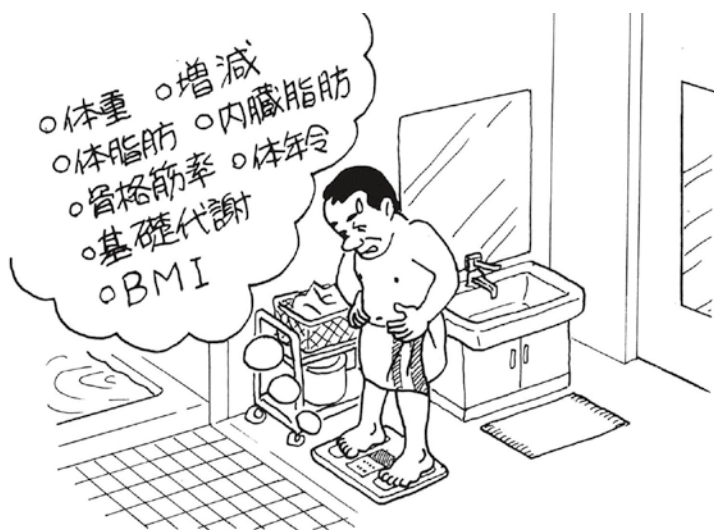
先ほど、労働時間の適正把握の徹底が、今後の長時間労働の抑制には欠かせない、とお伝えしました。

その理由をお話しておきたいと思います。

少しお話はそれますが、皆様は健康のためにダイエットをされたことがありますか？今は巷に「痩せる」と銘打った飲み物やサプリメントなどがあふれています。筆者も思わず「飲むだけで痩せるなら…」と思いこっそり試しましたが、結果は効果なし。（ま、当たり前ですね。）やはりシンプルでかつ健康的なものは、適度な食事と運動と思うのです。

その時に大切なのが「数」です。今の体重と体脂肪をしっかりと頭に叩き込み、そこから自分の基礎代謝、摂取する毎日のカロリー、運動カロリー、そして毎日の体重と体脂肪の数値の推移を見て、コントロールしていくわけです。

このことを、長時間労働の削減で置き換えますと、今の実際の残業時間数の把握、部署や個人がどれだけの時間で終わる業務量を抱えているのか、仮に抱えきれない業務量であるとするならば、その業務量をどれだけ減らせばいいのか、もしくは人員をどれだけ増やせばいいのかを考えていく必要があります。



ここまで記載すると「当たり前だよ」とのご意見が出そうですね。

そうです、当たり前なのです。

しかし筆者が今までご支援してきた企業様の中には「実際の残業時間数の把握」が徹底されていないところもありました。残業時間数が正確に把握できなければ、具体的にどのようなことで残業時間が発生しているのかが分かりません。削減する方法も見えてこないのです。

実際の例をいくつかご紹介しましょう。

36協定で「45時間」と定めており、勤務表の時間だけを見ればその時間に収まっていますが、実態はそうではないというケースです。

第1週、第2週は24時までの残業を部署全員が行っているのに、第3週、4週、5週になると定時で全員が帰っています。そして合計時間が45時間に収まる、ないしは44時間などと記載されています。翌月はまた第1週、2週は同じような深夜残業、後半の週は定時に帰り、45時間ぴったり。

タイムカードのない会社もあります。手書きでの出勤簿では、9時から18時と一気に書き上げたと思われるような筆跡、印鑑も毎日が全く同じ方向、朱肉の陰影も同じで内心「これ、一日で書いたんだろうなあ…」と思われるようなものもありました。

また別の企業では、特別条項を締結しており月45時間と上限の時間が月80時間、年間700時間となっていました。同一の部署に「上半期は毎月80時間、下半期が毎月36.5時間、年間で699時間の残業実績」となっている方たちが複数いるということもありました。

もちろん、労働時間管理を徹底した結果であり、実態と合致していることもあります。しかし残念ながら「見かけ上のコンプライアンス」であることもあり、このような労働時間管理では、本当の残業時間が見えてこないのです。

さらに申せば、企業側のリスクとして、36協定を超えて働かせていれば労働基準法32条違反になりますし、実態はもっと残業をしていたとしても、勤怠に記録していなければ、賃金に反映されませんから、割増賃金の未払いとなり37条違反にもなります。

いわゆる「過労死ライン」と呼ばれる恒常的な長時間労働であった場合は、脳心臓疾患や精神障害等の労災リスクも潜んでいます。



6. 「単に労働時間を短く！」の失敗事例

長時間労働の削減をする際には、このようなリスクをまずは経営層に伝えることが重要です。しかし…です。ここは筆者の苦い経験をもとに、同じ轍を踏まないよう社内で施策を行う際に、お考え頂きたいことがあります。

- (1) 犯人探しではないこと
 - (2) 目的と目標を明確にすること

労災認定された企業がありました。恒常的な長時間労働があった部署で、ある社員がその日も遅い時間に働いていたところ、突然、心筋梗塞で倒れ病院に搬送されました。家族や会社の皆さんの祈りも届かず、そのまま息を引き取った悲しい事案です。その時に社長は「自分はこの十字架を一生抱えて生きていく。二度と同じことを起こしたくない。」と決断されたそうです。

筆者の事務所に、長時間労働削減のためのコンサルを依頼された時に、切々と語って下さいました。まだ「働き方改革」という言葉もなかった10数年前のお話です。具体的な方法も分からないものの手探りでその方法を考えていきました。

その中でも社長のたつてのお願いで「残業をすると言っても、残業をする部署がある。これは管理職のコンプライアンスの問題だ。そこで労災のリスクや法令を守ることの重要性を厳しく伝えて欲しい。」と言われました。

筆者はそのリクエストに応えるべく、当該部署の管理職を集め厳しくお伝えたのです。すると参加者の方たちの最初のにかやかな顔から、途中で表情が曇りだし、結果的には憤怒の表情に変わっていらっしました。

筆者も心の中では「あれ？大丈夫かな？」と思っていましたが、社長のご希望に沿った内容でもあり、かつ、筆者自身も管理職の方に理解して頂きたいという想いもありました。

ところが「説明は以上ですが、何かご質問はありますか？」と言うと腕組みをして聞いていた方が手を挙げて「言っていることは分かります。私たちだって部下を早く帰してやりたい。自分たちも早く帰りたい。でも、この仕事をどうやって終えろと言うのですか？仕事の量は変わらない、早く帰れ？矛盾していますよね！」と言われ、周りの方が口々に「そうだ、そうだ！」と言われました。

その時に、筆者は大きな過ちを犯したことに気づきました。「この方法は間違っていた、私は説き伏せようとしてしまったのだ。」と。「あなたは間違っている、社長（それを伝える私）が正しい、だから言う通りにしなさい。」という非言語のメッセージを送ってしまっており、それが参加された方には伝わっていたのです。

先にお伝えした(1)の部分です。

「誰が悪い」「その部署が悪い」という決めつけで長時間労働を削減しようとする、このようなハレーションを起こしやすくなります。さらに言えば、長時間労働となっている本人たちが、自己犠牲の中でその時間を捻出し、会社のためにと頑張って働いてくれている気持ちに寄り添うことも重要だと感じました。

連載を通じ、このことは何度も折に触れてお話しすることになると思いますが、働き方を変えることは意識と行動を変えることです。その意識と行動を変えることは、自分自身でさえも難しいことです。まして「人」や「組織」を変えることは、相当なエネルギーが必要であることは、想像に難くありません。



また「長時間労働を削減する」を目的としてしまうと、これもまたハレーションが起きやすくなります。例えば先のように「会社のためにやっている」と思っている方には、その働き方を否定されたように感じます。また「長時間労働は頑張っている証」と思っている方は、その価値観を覆すことを強いられているようで、拒否反応を起こすでしょう。さらに言えば「生活給」となっている方は「賃金が下がる」と現実的な部分で受け入れることができなくなります。

そこで考えるべくは「本当の目的は何かを考える」ということです。筆者が考える目的は、本稿の2でお伝えした「WLBの実現」と「生産性の向上」です。その過程において「長時間労働の削減を目標とする」といった立てつけとすると皆さんにも理解してもらいやすくなるのではないのでしょうか？

7. 生産性の向上が目的

ひと昔前は「WLBを実現する」というと「みんなが忙しい中、さっさと自分都合で帰る」「自分優先で組織は二の次」というイメージが少なからずあったようです。

しかし今や、仕事以外の時間を持つことが、生産性の向上に繋がるという意識が広まってきています。

例えば、今は活字離れと言われますが、皆様は年間にどれだけの本を読めますか？本は時代や国境を越え、かつ、めったに会うことのできない著名人の言葉を直接目にすることができるとても貴重なものです。仕事を離れた時間に、本を開くことによって、心の琴線に触れる言葉に出会う、それがまた日々の原動力になるという間接的なものから、仕事のアイデアがひらめくという直接的なものもあります。

また自然の中に身を置くことで、五感が研ぎ澄まされていくことに気づきます。ゴルフをされる方はよくお分かりかと思いますが、頬にあたる風の感触、芝生のおい、木々が揺れる際の葉っぱの音や鳥の鳴き声などに包まれます。ショットをすることは練習場で打ち込むことと変わりはありませんが、やはりゴルフ場で感じる爽快感とは異なるものがあるはずです。

また家族や友人と過ごす時間も大切にしたいものです。なかなか時間が取れない方は、忙しい時間の中をこんな風に過ごしてみませんか？

朝だけでも一緒に食事をする、家事を分担してお互いを支える、何気ない会話を楽しむ、日々変わっていく子供の成長を喜ぶ、離れて暮らす親に電話1本かけてみる、友人と久しぶりに会ってみる、これらのことを意識して行くと、充足感を覚えるでしょうし、改めて今まで自分が仕事一辺倒であったことに気づくことでしょう。

一見すると仕事と全く異なる時間ですが、この「ゆとり」や「仕事以外の経験」が創造力を生むのです。

ある企業で男性社員が、奥さんの出産をきっかけに残業を制限して、急いで家に帰るようになりました。周囲の人は「専業主婦の奥さんなのに、夫が手伝わなければならないのか。」と冷ややかに見ていたそうです。（この考え方は偏っていると思いますが…。）

しかし、その彼は定めた時間に帰るために様々な工夫をしています。仕事の段取りも格段に速くなり、以前よりも短い時間であるにも関わらず質の高いアウトプットをするようになってきたのです。

さらに今までは後輩に対して厳しい態度を取ることが多かったのに、随分と優しくかつ丁寧に指導をするようになりました。理由を聞くと「子供は自分の思うようにならないことを知った。でも愛情を注げば、その分、通じることも知った。改めて自分自身の人間関係の構築方法を振り返り改善しなければいけない、と感じたから。」というものでした。

結果的に後輩との関係性も良くなり、生産性の高い仕事をする方法を周囲にも伝えて行きました。他の社員も早く帰れるようになったため、平日にジムに通って体力づくりをしたり、習い事をして教養を高めたりするようになりました。

周囲のWLBの充実にも貢献したことになるのですが、それだけでなくお互い自分が経験している余暇の時間で得た情報を自然に話し合うようになり、それがきっかけでランチに行くようになり、その中で仕事の工夫や新しい情報の共有などを行い、結果的に職場環境の改善に繋がるような提案をしてくれるようになったのです。

その会社では今まで「自分で考えなさい!」と社長がさんざん指導してもできなかったことさえも、自発的に建設的な意見を言う社員が増えてきたのです。逆に言えば、長時間労働による疲労困憊した状態では、考えようにも今の仕事が精いっぱい、本来考えるべき大切な時間を見失っていたとも考えられます。

まさに一人の男性社員の育児をきっかけに、波紋が広がるように周囲にも良い影響を与えた事例です。



8. 6回を通じてお伝えすること

このようなことを、今後は進めて頂きたいと思っています。また労働時間の短縮だけでなく、手戻りのない仕事や事故を起こさないことも極めて重要です。

今回はその点も含めて、お伝えさせて頂く予定です。以下のとおり連載を通じて働き方改革を進めていくにはどうすれば良いか、労務管理の実務面を解説していきます。

【6回連載 タイトル】

1. 「働き方改革」とは？（今月）
2. これって労働時間？
3. ハラスメントが引き起こす心の健康障害
4. ワークライフバランスの充実が生産性の向上に！
5. 今までの取組を社内外に発信！
6. 社員が活き活きと働き続けるために

それでは、また次回、誌面でお目にかかりたいと思います！

※：【中辻めぐみ氏の紹介】

大分労働基準局に労働事務官（当時）として入局。以来、労災保険業務に携わり「脳・心臓疾患」「精神障害等」の給付業務を行う。現在は「メンタルヘルス」「安全衛生部門」「セクハラ・パワハラ」「過重労働対策」「働き方改革」を中心に企業に向けてコンサルティングを行なっている。講師活動は年間90本以上、企業、官庁などに向けて多数。

（肩書・資格）

- ・社会保険労務士法人中村・中辻事務所 代表社員 / 株式会社インフィニティ 取締役
- ・特定社会保険労務士（東京都社会保険労務士会所属）
- ・産業カウンセラー・衛生管理者

（就任委員）

- ・厚生労働省労働基準局 労働条件政策課 「職場のパワーハラスメントのポータルサイト」企画委員/厚生労働省労働基準局安全衛生部 計画課 「安全衛生有料企業公表制度周知啓発事業検討委員会」委員/厚生労働省労働基準局 労働条件政策課「労働条件関係セミナー実施事業検討委員会 委員」/
- ・東京都産業労働局「職場のメンタルヘルス対策推進事業」委員
- ・東京商工会議所「健康経営アドバイザー支援ワーキンググループ委員」
- ・千葉県職員セクハラ・パワハラ相談等処理アドバイザー 他多数



（執筆・著書）

- ☐ 「産業医ガイド」基本管理業務からメンタルヘルスまで 日本産業衛生学会関東産業医部会（編）共著：日本医事新報社
- ☐ 「プロに聞く『職場のうつ』メンタルヘルス対策」共著：労働調査会
- ☐ 産業カウンセリング養成講座テキスト（第13章「産業社会の動向と人事労務管理」を担当）：社団法人日本産業カウンセラー協会
- ☐ 平成25年度 社労士制度推進月間用「中小企業におけるメンタルヘルス対策」：社労士セミナー教材 全国社会保険労務士連合会・都道府県社会保険労務士会
- ☐ 「ビデオで学ぶ『実務ポイント』シリーズ 第20巻 ケースで学ぶ職場のメンタルヘルスストレスチェックを活かすために－DVD」経済法令研究会
- ☐ 第一法規出版株式会社「管理職のための 今、どうしたらよいか分かる メンタルヘルスケア Q&A」
- ☐ 平成28年度 社労士制度推進月間用「ハラスメント対策」：社労士セミナー教材 全国社会保険労務士連合会・都道府県社会保険労務士会
- ☐ 第一法規出版株式会社「会社と家族で一緒に支える心とキャリア」 他多数

現場取材シリーズ

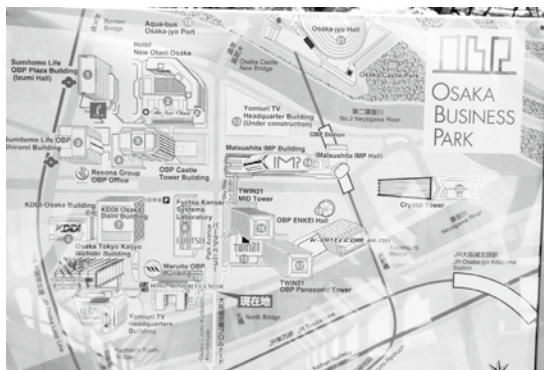
読売テレビ新社屋建設工事現場を訪ねて

広報委員 森田 康太郎
[キャタピラー]

■はじめに

建荷協広報委員会では、平成30年度の現場取材見学会として、去る4月20日、大阪府中央区で施工されている読売テレビ新社屋新築工事の現場を訪問しました。

快晴の中、最寄りのJR京橋駅に集合した同委員会の委員長・副委員長をはじめ委員・事務局および大阪支部事務局長の総勢11名は、駅から徒歩10分の現場に到着。現地は大阪城公園に隣接する大阪ビジネスパークの一角で、オフィスビルはもとより、ホテルニューオータニ大阪やクラシックコンサートが開催されるいずみホール、そして読売テレビの現社屋等が建ち並ぶ、オフィスと公園や文化・歴史が融合された一大拠点です。



大阪ビジネスパーク(OBP)の地図看板
訪問する現場は地図上の13番



工事現場の目の前には大阪城と大阪城ホール

■工事概要

現地事務所では、工事を設計・施工・管理している株式会社竹中工務店の増井様と浦瀬様から工事の概要説明を受けました。

【建設工事の概要】

名 称：読売テレビ新社屋建設計画

建 築 主：読売テレビ放送 株式会社

主 用 途：テレビスタジオおよび事務所

所 在 地：大阪市中央区城見一丁目 3 番 2 号（旧シアターBRAVA! 跡地）

延床面積：51,194.58㎡

高 さ：94.52m（地上17階・地下1階）

着 工：2016年10月27日

竣 工：2019年1月31日（予定）

移転・開局：2019年8月（予定）

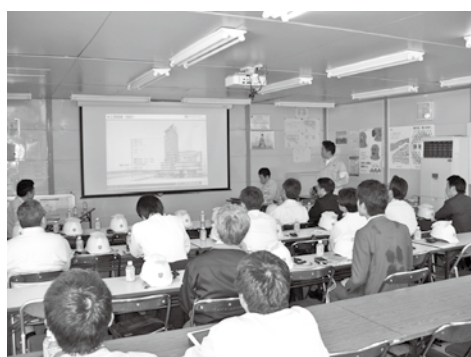
設計・施工：株式会社 竹中工務店



今回訪問した読売テレビ新社屋工事現場



現場に掲げられている表示看板



工事の概要説明を受ける広報委員会一行

■現社屋から新社屋へ

建築主の読売テレビ放送株式会社は1958年大阪読売新聞社（現在の読売新聞大阪本社）などの出資で設立され放送を開始、日本テレビ系列で近畿広域圏を放送対象とするテレビ放送を行っています。現在の社屋は、今回見学した工事現場から400メートルほど離れた同じ大阪ビジネスパーク内にあり、1988年から放送を行ってきました。

今回の新築移転にあたって同社は、2016年に国土交通省より「民間都市再生事業計画」の認定を受けています。その目的の中で同社は「本事業では、有事であっても正確な情報を迅速に発信できるよう建物を災害に強い構造とし、放送継続のための非常用電源なども整備する。また、イベントスペースなどの設置も予定しており、放送局の持つ情報発信力を活かしながら『にぎわい』を創出し、京橋から大阪ビジネスパーク、さらには大阪城公園につながるエリアの活性化を目指す」としています。

工事現場での仮囲いにも趣向が凝らされており、読売テレビが制作し全国ネットで放映されている「秘密のケンミンSHOW」を題材としたイラストで都道府県ごとのクイズが掲示され、同じく掲示されているバーコードをスマートフォンで読み取ると答えが分かる仕掛けがあったり、同じく同局の人気アニメ「名探偵コナン」の大きなポスターを掲示して記念写真が撮れるような仕掛けがあったりして、観光客にも好評を博しています。



新社屋は左上
現社屋は右下



現在の読売テレビの社屋



工事現場と大阪城の位置関係を示すユニークな地図も



秘密のケンミンSHOWを題材にした47都道府県のクイズも楽しめます



工事現場の一角には名探偵コナンと記念撮影できるスポットも

■放送局の工事現場として

新社屋は、高層棟と低層棟が組み合わされた構造で、地震の対策として、高層棟と低層棟それぞれの棟の揺れが異なることから、棟をつなぐ部分にはダンパーが設置されるとともに、地下1階には免震階が設けられており、500年に一度の揺れにも耐える設計がなされています。

スタジオ設置の工事では、スタジオは外からの音や振動を完全に遮断しなくてはならないため、例えば床・壁並びに天井には防振ゴムが設置され振動を遮断し、さらに加えて、内外の電波干渉を遮断するためアルミのフィルムを使用してスタジオ全体がシールドされています。それから、収録時の背景を変えるため、床と壁の接する場所にはピットが設けられ照明装置が埋込まれており、壁には2.5度の角度が付けられています。

また、床面についても、カメラを乗せた台車が動き回るために高い平滑さを維持することが求められています。

■働き方改革と生産性向上

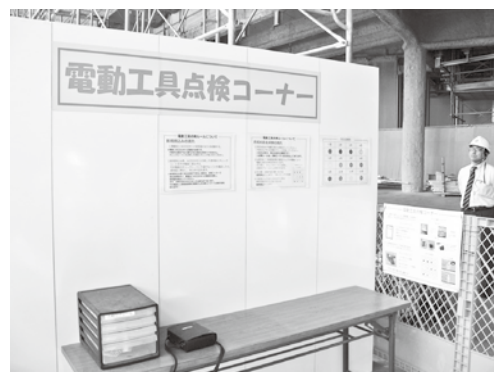
工事現場では約560名の作業者が働いており、建築現場での働き方改革の目標のひとつである「4週6休」を実現するため、作業者の生産性をこれまでより10.3%向上させる必要があります。そのため、BIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング。コンピューター上に作成した三次元の建物やデジタルモデルに、コストや仕上げ、管理情報などの属性データを追加した建築物のデータベースを、建築の設計・施工から維持管理までのあらゆる工程で情報活用し生産性を向上させる方法）を導入し、免震クリアランスの検討やスタジオ工事の難しい施工にも積極的に活用しています。

また、デジタルコンストラクション（AIの知能を取り入れロボット化していく技術）として、吸盤がついているジラフという機械を採用し、ダクトを設置する作業に活用するなど、様々な施策で生産性向上が図られています。

さらに、竹中工務店の職員全員にiPadが支給され、LINEの様なコミュニケーションツールを利用し、伝達事項や職員間の連絡・問い合わせが活発に行われています。また現場では200台超の高所作業車が使用されていますが、その作業計画指示書管理にも活用されています。日々の日常点検の計画について写真で撮影して申請・承認を行えるようになり、煩雑な作業が軽減されるようになりました。また、現場の照明のON・OFF状態と遠隔の切替えが可能となったり、高所作業車の夜間の充電タイミングをずらして設定できるなど、電力に関する管理にも活用されています。



現場で働く女性のための施設



現場の一角には電動工具の点検方法を
掲示したコーナーも

そして、ネットワークカメラ等とも組み合わせて、工事用エレベーターの遠隔管理も行っており、稼働状況や積載重量を把握することで、故障を起こすような使用方法が行われていないかを事前に確認することで、故障による停止を未然に予防しています。

一方、建設現場で働く女性達「けんせつ小町」のための施設として、現場内に女性専用の休憩場所などを備えた詰所を設置するなど、女性達の建設現場での活躍を支援しています。

■外装工事のガラス設置工事

高層棟の工事現場を見学する中で、外装工事としてガラスを設置する現場を見学しました。この作業はあらかじめガラスと枠を組み合わせてユニット化し、設置する階でフォークリフトが持ち上げつつ、上階ではカニクレーンを配置しワイヤーで引っ張り、タイミングを合わせてユニットを建物の外につり下げ、一度反転させたのちに今度は設置階で小型の高所作業車を利用して作業員が手早く設置する作業が行われていました。

この作業は高層棟の6階から17階の全面で行われており、設置するユニット数は約650セットもあり、1日当たり20から30ユニットが設置されています。

作業にあたっては、作業員の安全帯はもちろん、カニクレーン、フォークリフトも建物内の太い柱とワイヤーでつながれ、万一の転落事故の防止が図られています。



上階ではカニクレーンがガラスユニットを引っ張り上げる



フォークリフトを使ってガラスユニットを外に送り出す



一旦 ユニットの反転させる



高所作業車も使用して最終取付



現場で使用されている車両には
特自検のステッカーが



設置されたガラスのユニットの様子

■安全活動にアナウンサーも活躍

現場作業員の安全活動として、工事現場で掲げられている安全を呼び掛ける看板には、普段テレビで目にする人気番組のキャスターや女性アナウンサーのイラストがふんだんに取り入れられており、現場作業員からも大変好評とのこと。また、アナウンサーから現場作業員にあてたメッセージを現場内に掲示したり、さらには作業開始前に行われるラジオ体操では、アナウンサーが飛び入り参加して一緒に体操することもあり、建築主と一体になった安全活動が行われていました。



現場の入り口に掲示された人気番組出演者のイラスト



安全朝礼やラジオ体操を行う地下スペースの様子



安全帯の確認を行う試行ヤード



作業員は作業開始前にこの一本橋をふらつかずに渡れるかが確認される

■おわりに

放送局にとって災害やテロ活動があっても放送を続けることが使命であり、放送局の内部構造の詳細については非公表となっています。そのような中、私たち一行の現場見学を受け入れてくださった読売テレビ放送株式会社並びに株式会社竹中工務店の関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

テレビ局の社屋工事ならではのご苦勞や建築主・施工者が一体となった現場での安全の取り組みを見聞きして、参加者一同、非常に勉強になりました。

無事に工事が完了し新社屋での放送が開始された際にはまた現場を訪問し、今回見学させていただいた工事の様子を思い返すことができればと思います。

ご多忙のところ、工事現場のご説明から見学までご対応頂いた竹中工務店の関係者の皆様、誠にお世話になりました。引き続き無事故・無災害で工事が進みますことを祈念いたします。



記念撮影
(読売テレビ新社屋内の広場にて)

グラフィア

読売テレビ新社屋建設工事



完成イメージ図



現場周辺マップ

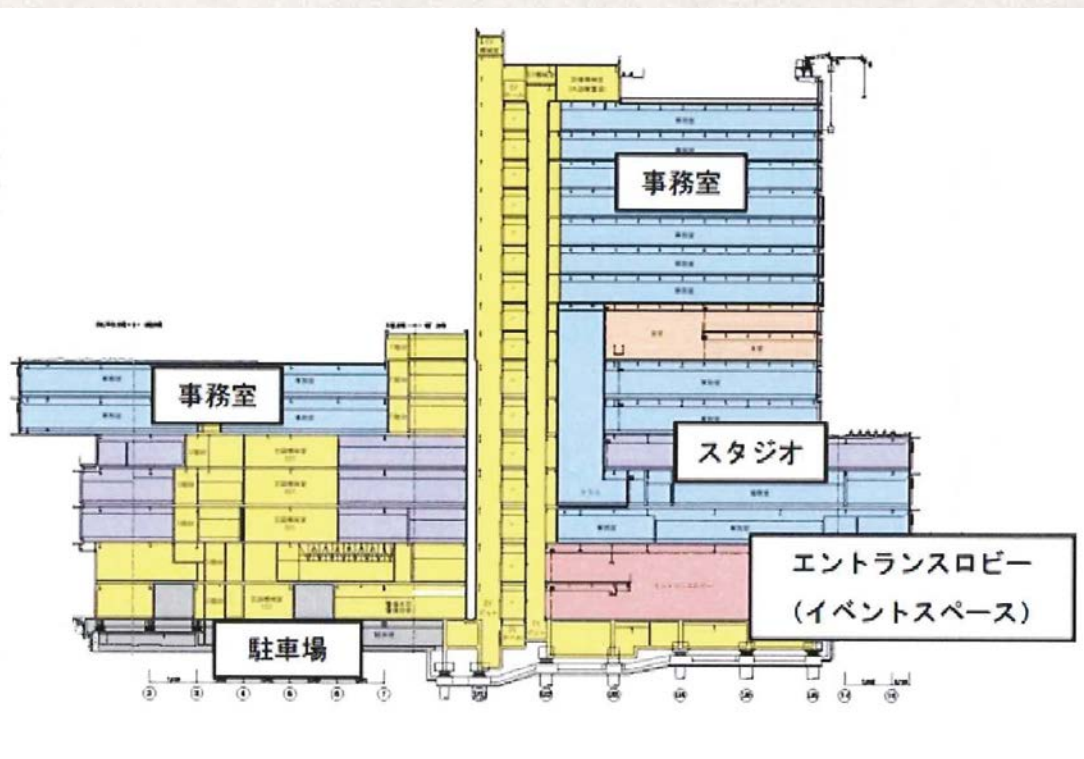


2018.4.20取材日当日

■ 施工概要

【工事スペック】

● 建築物の名称	読売テレビ新社屋
● 所在地	大阪市中央区城見 1 丁目 3 番 2 他
● 建築主	読売テレビ放送株式会社
● 設計者	株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
● 工事施行者	株式会社竹中工務店大阪本店
● 建築物の主要用途	テレビスタジオ
● 敷地面積	12,495.90㎡
● 建築面積	6,995.39㎡
● 延べ床面積	51,194.58㎡
● 容積率対象面積	45,393.30㎡
● 構造種別	鉄筋コクリート造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造、CFT 造
● 高さ・階数	85.06m 地下1階 地上17階 塔屋2階
● 工期	2016年10月27日～ 2019年1月31日（予定）



■ 施工状況 【外装工事…高層部のガラス窓枠ユニットの取付】



フォークリフトの特殊な使い方と設置階の内側からガラス窓枠ユニットを一旦外に出し、上階のカニクレーンで吊り込み、カニクレーンとフォークリフトの息の合った連携でユニットを建て起こし、内側から高所作業車を使って躯体に取付ける。



- ① フォークリフトで送りだし
- ② カニクレーンで吊り込み
- ③ カニクレーンとフォークリフトで建て起こし
- ④ 下端のセッティング
- ⑤ 高所作業車で天端のセッティング

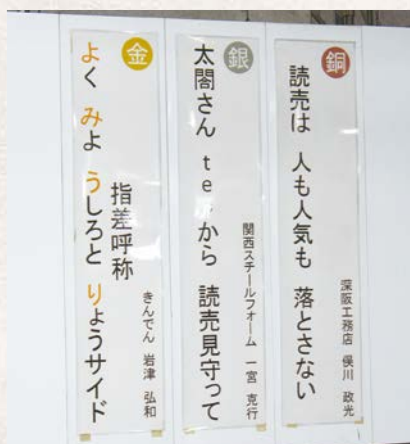


安全環境



安全朝礼広場

毎朝作業開始前に地下1階に設けられたこの広場で
作業者が一堂に介してラジオ体操や安全ミーティングを行う



現場オリジナルの安全標語
入賞作品

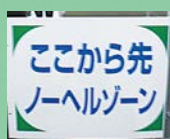


電動工具点検コーナー

持ち込んだ電動工具を使用前に
各自自主点検をして使用許可申請をする



施工エリアの入口
スイング標識
この標識の裏面には



と書いてあります



特自検検査済標章



使用機械の管理オフィス

高所作業車やフォークリフトなど
現場内で使用されている機械
のメンテナンスを一手に管理し
ている

■ 職場環境



TAKENAKA FOR WOMAN

「けんせつ小町」達のために設けられた憩いの場所



現場内で見かけた
「けんせつ小町」



スクラップ置場と清掃グッズ
各エリアごとに設置されている



現場事務所前の産廃置場
徹底した分別が実施されている



現場事務所前の掲示板

各種掲示され情報の共有化が図られている

■ この現場ならではの…



名探偵コナン

現場入場ゲート脇にあるこの場所は記念撮影スポット



秘密のケンミンshowからのクイズ

思わず足を止めて読んでしまいます



人気番組タレントによる横断幕

第53回

我が社のセールスポイント

福島県支部
郡山自動車工業 株式会社

平成20年3月号(174号)より、新たな連載シリーズとして「我が社のセールスポイント」をスタート致しました。内容は、会員同士が切磋琢磨する情報を提供する場として、通年表彰の「企業賞」の受賞会社に「安全管理」、「整備・検査」、「法令遵守」、「技術開発・考案」、「環境」などについて記載して頂き、労働災害防止活動の向上や技術開発・改良・考案等に対する意欲の向上等を図る場を提供することを目的としています。

今回も、前回に引き続き平成29年度第6回定時総会に於いて表彰された福島県支部の郡山自動車工業株式会社に執筆をお願い致しました。

[第52回：平成30年5月号(235号)は秋田県支部の株式会社ビーワーク様でした。]

1. はじめに

当社は、昭和20年の1月に福島県郡山市弊導内(現在の若葉町)に自動車整備工場東北三業社を創立致しました。終戦後の混乱期に復興を目指し一般自動車・大型自動車の整備に携わってきましたが、昭和34年5月に社名を郡山自動車工業株式会社に改めました。

それを契機に一般車両をはじめとして大型車両や建設機械、高所作業車、除雪機械車両等の特殊車両のメーカーの指定販売・指定サービス工場の特約を結び、車検、定期点検・整備や特定自主検査を手掛け、いわゆる働く機械の整備工場として地域に根付いて創業以来73年が経ちました。

2. 会社概要

- 社 名 : 郡山自動車工業株式会社
 所 在 地 : 福島県郡山市日和田町字荒池下33番地 1
 会社創業 : 1945年(昭和20年)11月
 会社設立 : 1959年(昭和34年)5月
 代 表 者 : 代表取締役 吉田 隆一
 資 本 金 : 10,000,000円
 従業員数 : 20名
 事業内容 : ・建設機械販売及び部品販売
 ・建設機械整備 各種リース及び保険代理業務
 ・一般自動車整備 民間車検

事務所パース図



事務所外観



工場全景

3. 沿 革

- 昭和20年 1 月 郡山市弊導内45番地に自動車整備工場東北三業社創立
- 昭和33年12月 郡山市若葉町19番地の15に工場及び事務所新築
- 昭和34年 5 月 郡山自動車工業株式会社創立
- 昭和36年 8 月 郡山市赤木町45番地に第2工場新築
- 昭和47年 3 月 若葉工場に自動車分解整備事業の指定を受ける
- 昭和47年10月 赤木工場が指定自動車整備事業の指定を受ける
- 昭和54年 6 月 郡山市日和田町に本社工場を新築移転
- 昭和54年 8 月 建設機械検査業者登録証を受ける(福 第10号)
- 平成 7 年 9 月 郡山市日和田町に事務所を新築移転
- 平成 9 年 6 月 「スノーポール洗浄機」特許申請(東北地方建設局長と共同出願)
- 平成14年 5 月 「スノーポール洗浄機」特許権が付与される

販売代理店・指定工場特約店

昭和35年 4 月 三菱ふそう自動車(株)

トラック・バス・ブルドーザー

昭和35年 9 月 東北ふそう建設機械販売(株)	ブルドーザー
昭和38年 5 月 福島三菱ふそう自動車販売(株)	トラック・バス
昭和44年 4 月 新菱重機(株)・三菱建設機械(株)	油圧ショベル・道路用機械
昭和45年 9 月 (株)アイチコーポレーション	高所作業車、特装車
昭和60年 4 月 豊和工業(株)	路面清掃車
昭和63年 5 月 三菱重工(株)	コンクリートポンプ車
平成 1 年10月 範多機械販売(株)	道路舗装機械、除雪用機械
平成 2 年 1 月 東北建設機械販売(株)	油圧ショベル・道路用機械
平成 2 年 4 月 (株)協和機械製作所	除雪用機械、特装車
平成 4 年 7 月 酒井重工業(株)	締固め機械
平成 8 年 6 月 (株)ウエスタンコーポレーション	多目的車
平成10年 7 月 兼松エンジニアリング(株)	道路清掃車(側溝清掃車)
平成11年 2 月 新明和工業(株)	特装車
平成11年 4 月 森尾電機(株)	道路用昇降式標識車
平成12年 4 月 極東開発工業(株)	清掃車両、特装車
平成19年 3 月 イワフジ工業(株)	環境関連機器、林業機械
平成20年12月 ヴィルトゲン・ジャパン(株)	道路補修機械
平成28年 4 月 (株)日本除雪機製作所	除雪用機械
平成29年 5 月 (株)ワイケー	高所作業車

4. 協会事業への参加

昭和54年 8 月に建設機械検査業者登録会員となる。平成 5 年より平成20年までの15年間巡回指導員を派遣しておりました。

平成14年からは特定自主検査資格取得講習講師を派遣しており、実技講習車並びに講習会場として事務所、工場を開放して支部の資格取得研修に協力してまいりました。

また、本年度から支部理事に就任致しましたので、支部の事業運営に今後共尽力してまいります。

登録年月日 : 昭和54年 8 月31日

検査事務所 : 郡山市日和田町字荒池下33- 1

検査登録機械 :

1. 車両系荷役運搬機械 (フォークリフト)
2. 車両系荷役運搬機械 (不整地運搬車)
3. 車両系建設機械 (整地・運搬・積込用、掘削用及び解体用機械)
4. 車両系建設機械 (基礎工事用機械)

- 5. 車両系建設機械 (締固め用機械)
- 6. 車両系建設機械 (コンクリート打設用)
- 7. 高所作業車

特自検実施台数 : 280台

特自検有資格者数 : 8名

5. 整備品質の向上

当社は、以前から『現場・現物・現実』の3つの現を重視した三現主義の考え方を取り入れて業務を遂行する上で、現場で現物を観て、どのような状態なのか確認して対処する方法を取ってきております。例えば、整備の依頼を受けた機械を工場に持込んで整備する際には、お客様にも可能な限り立会っていただき現物を目の前にして状態を確認していただき、整備方針を協議し納得した上で、整備を実施するようにしております。

平成15年頃から各担当者に携帯電話を携行させて、整備対象機械また出先においても機械の傍から現物を見ながら直接電話できるようにした。

また、平成25年頃からは、iPadを支給して当該機械の情報をビジュアルにかつタイムリーに入手できるように活用して整備品質の向上を図っています。



機械の傍らに置かれたiPad

6. 安全衛生管理

工場内の安全衛生面については、昔懐かしい日直制を取り入れて交替で工場内の整理整頓状況、設備の不具合箇所の有無など巡回しながら確認し、作業場所周辺の整理整頓など安全確認を徹底しています。

また、巡回時に一緒に節約・節電状況も併せてチェックしており、その効果分については微々たるものですが、工具の購入などに還元しています。

工場に持ち込む機械の引取納車時の事故防止として『お客様車両回送中』という看板を車両に表示し車内にはドライブレコーダーを設置して搬送しています。



7. 環境への配慮

一般ゴミ、鉄クズ、廃バッテリー、廃油、古紙の分別を徹底し、各リサイクル業者に回収を委託し処理しています。廃油に関しましては、廃棄する燃料タンクを再利用して廃油を貯める容器としております。

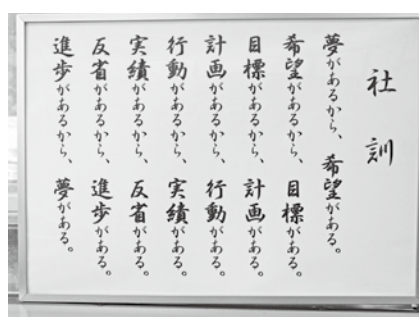
また、事務所・工場の照明をLEDに変えるなどして節電に努めています。



燃料タンクを再利用した廃油容器

8. 社員の育成

昨今 人材確保が難しい中、如何にして修理屋としての心意気を育成していくか苦慮しているところですが、建荷協主催の特定自主検査者資格取得研修・特定自主検査者能力向上教育をはじめとしてメーカー主催の講習会にも積極的に参加できる環境づくりに努め、参加したことで得られる知識や参加メンバーから得られた情報などを共有できるよう水平展開をしております。

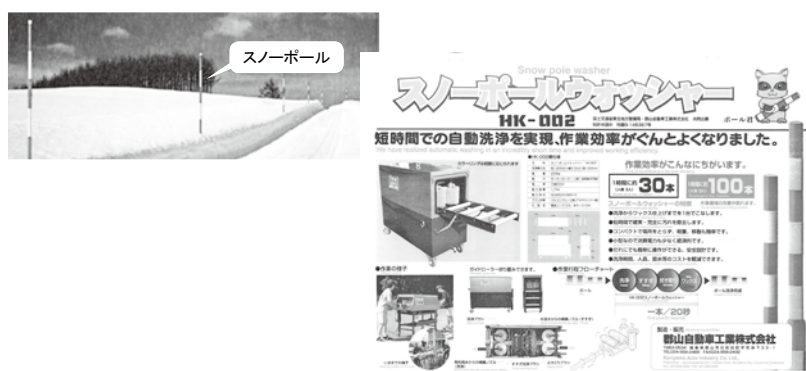


初代社長が提唱した社訓

9. 技術開発・改良・考案

除雪用機械の点検・整備の業務を通じて、積雪の多い地方では、降雪時に一般車両や除雪作業車の運転手に道路境界の位置の目印として通常のポールに被せ継ぎ足される嵩高のポールをスノーポールといいます。このスノーポールは、雪が解けると取り外され、再使用するために整備されるのですが、従来は作業員の手作業に委ねられおり作業姿勢(中腰状態)の面からも作業効率が悪く、数量も相当数あることから長時間労働を強いられていました。

そういった背景から、洗浄作業の時間短縮と省力化を図り、作業効率を向上させるために自動洗浄機の開発に取組み試行錯誤を繰り返した結果、製品化に漕ぎつけることができました。(東北地方整備局と共同出願し平成14年5月に特許取得)



パンフレット

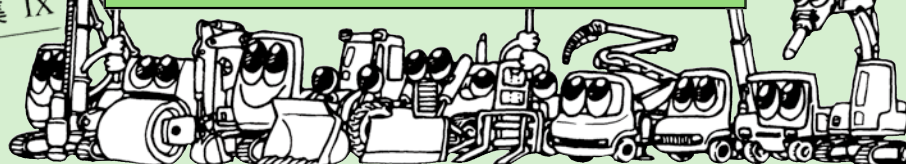
10. おわりに

2020年東京オリンピックの年には、創業75周年を迎えることとなりますが、一つの節目として、これからもお客様に喜んで安全な機械を安心してお使いいただくために、今まで培ってきた「現場で」「現物を」「現実」に」をベースにしてお客様との距離を縮めることでできた信頼関係を糧にして地域になくてはならない存在として邁進していく所存であります。

[郡山自動車工業株式会社 代表取締役 吉田 隆一]

シリーズ
特集 IX

作業中の災害事例

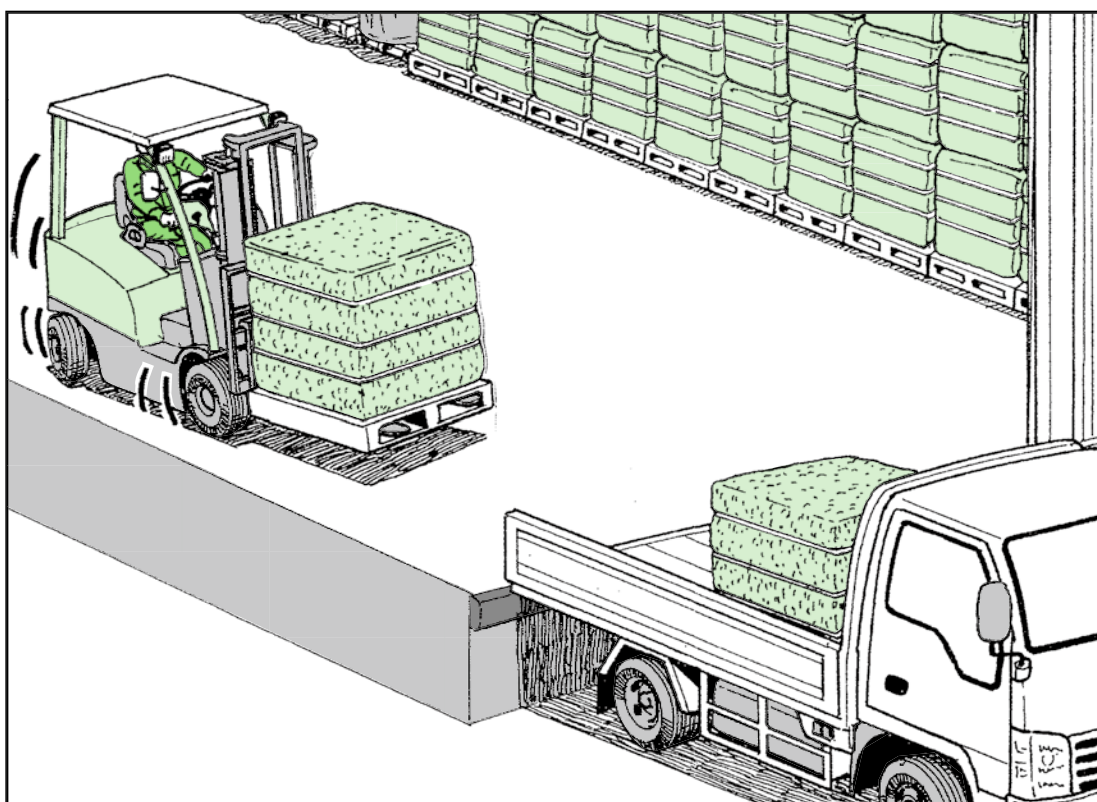


今回は、作業中に発生した災害事例のイラスト2件をご紹介します。
職場の皆さんでご覧になり、安全作業にお役立てください。

Case1 分類：[フォークリフト：01. 墜落・転落]

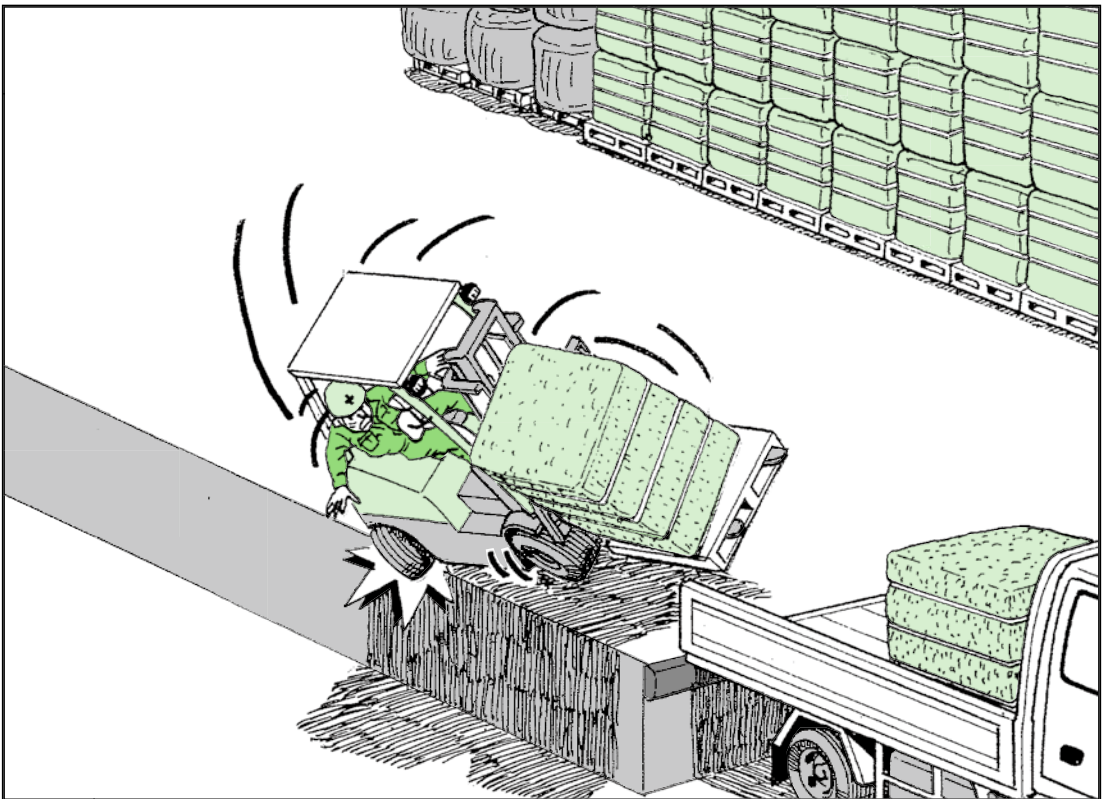
[1-1]

フォークリフトの運転手が、小型貨物トラックから牧草束（約900kg）をいったん後進で降ろし、前進旋回で180度向きを変えようとしていました。



[1-2]

高さ76cmのプラットホームからフォークリフトが転落し、運転員がフォークリフトの下敷きになりました。



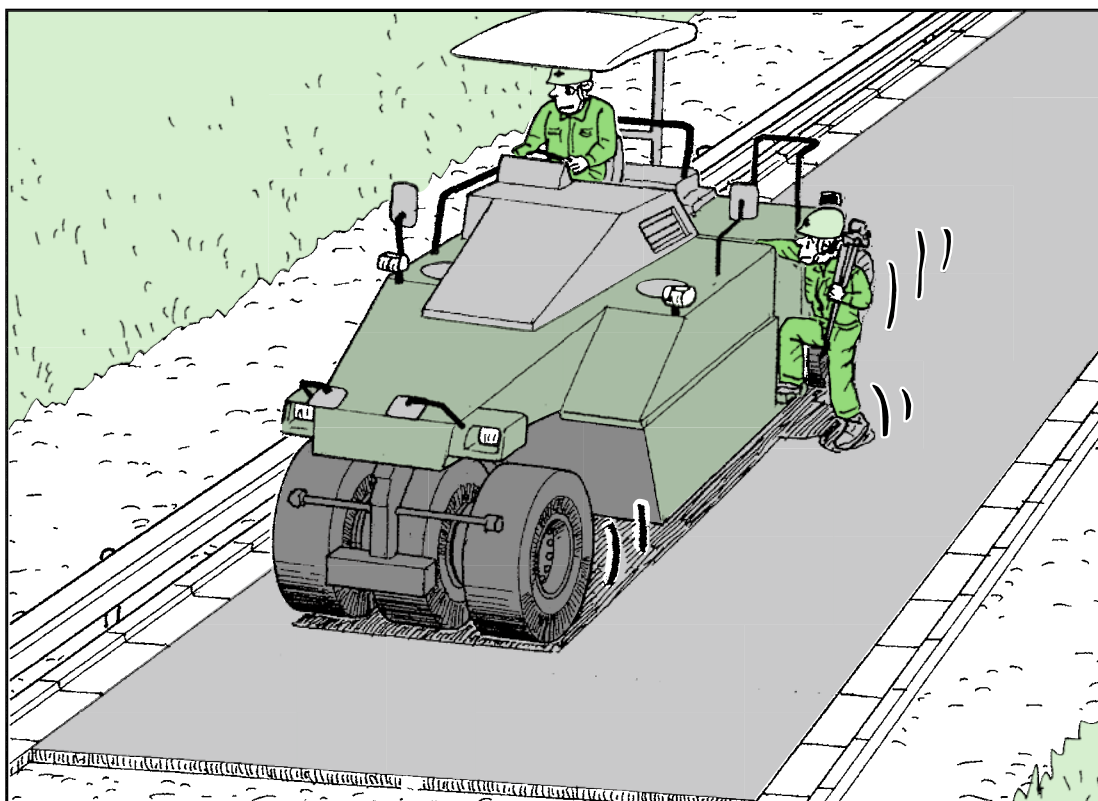
災害発生防止のポイント

- シートベルトを必ず着用すること。
- プラットホームの縁付近において、旋回する場合は十分距離をとること。（フォークリフトは、後輪操舵なので、旋回時の挙動が自動車とは異なり大きく膨らむため）
- プラットホームの縁に転落防止措置を講ずること。

Case-2 分類：[タイヤローラー：01. 墜落・転落]

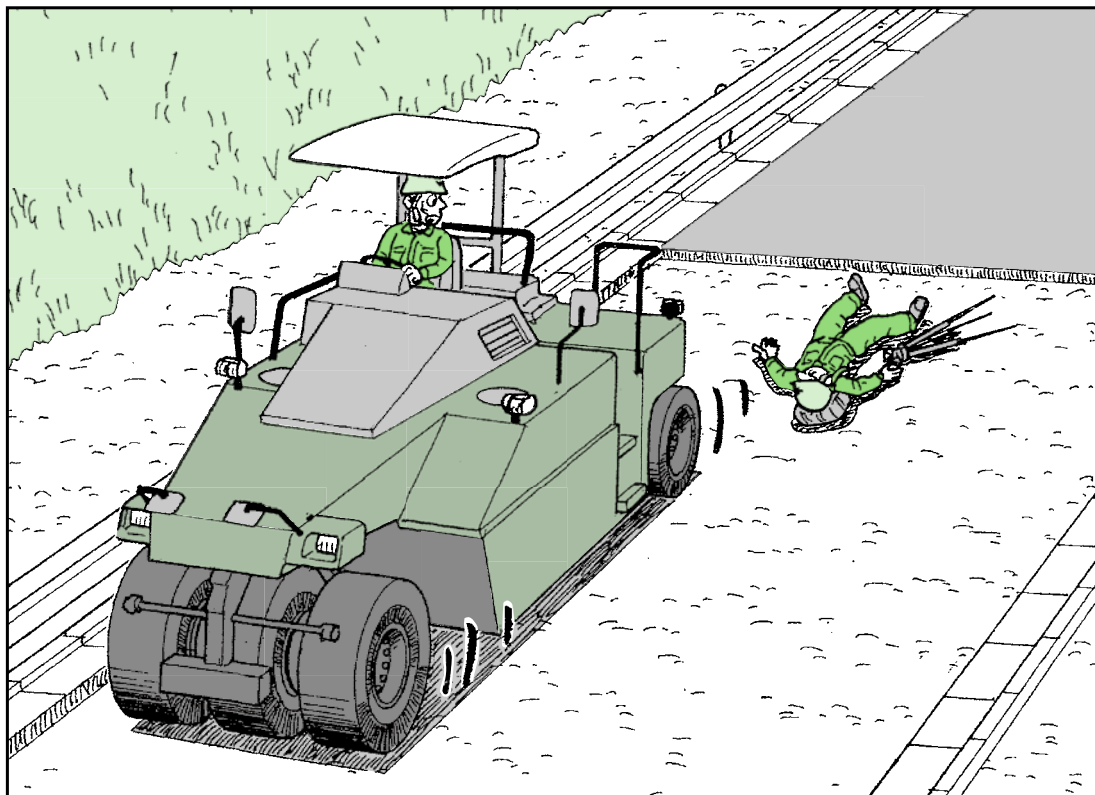
[2-1]

測量員が、現場事務所から施工場所まで測量器具を徒歩で運んでいたところ、タイヤローラーが通ったので、タイヤローラーの搭乗用ステップに乗り込みました。



[2-2]

約 5 cm の段差部で、タイヤローラーが跳ね上がったので、運転員は測量員の方を確認したところ、路上に測量員が仰向けで倒れていました。



災害発生防止のポイント

- 運転員以外を搭乗させないこと。

随 想



『趣味を大切に』

運営幹事会 幹事 **小林 憲文**

日立建機株式会社
ライフサイクルサポート本部 副本部長

趣味とは？Wikipediaによると、

1. 人間が自由時間に、好んで習慣的に繰り返し行う行為、事柄やその対象のこと。道楽
2. 物の持つ味わい・おもむきを指し、それを鑑賞しうる能力もさす。

と言うことで、地球上では人間のみにある事柄らしい。

小さいころから、プラモデル、ギター、スキー、オーディオ、音楽鑑賞、車（現在の愛車はtoyota86）、PC自作、ゴルフ、グルメ、飲酒、自転車etc.

色々な事を親、先輩、友人から影響を受けて楽しんできました。

現在の趣味のメインはロードバイク。学生の頃に輪行（自転車を分解してパッキングして、電車を利用しながら遠方各地を走ること）を4年間だけでぱったりと辞めていましたが、再び車のオーナーズクラブで知り合った仲間から誘われて6年前から始めました。最初は5kmでもへばっていましたが、グルメを目的とするようになり、50km、100km、200kmと距離を伸ばしています。幸いに自宅がある草加は、サイクリングロードがある荒川、江戸川、利根川に囲まれて、車をあまり気にせず楽しめます。友人の友人をどんどん紹介され、Facebookを介して50人以上のチャリダーと情報交換。『この道、気持ちいいよ〜』『このうどん屋

最高！今度行きませんか』『東京湾一周にチャレンジしようよ！』『銚子センチュリーライド良かったなあ〜、皆で出ようよ！』『館林に素晴らしく旨い鰻食べに行くよ！』etc.

毎週、いろんな企画が飛び交っています。流石にタイムレースはこの年齢では厳しい（結構年配の方でも強者は多いですが）ので、毎週末は自宅から自走の120km前後のグルメライドが中心です。

皆さんもロードバイク始めてみませんか？ お勧めのポイントを下記に。

1. 【投資はそれほどでもありません】

フレームやホイール、サドル等の機材には上を見ればきりがありませんが、最初の投資は機材や季節に合わせたウェア、シューズ、ヘルメット、携帯工具、ライトで25万前後必要ですが、燃料代は不要。行動範囲は飛躍的に広がります。輪行すれば更に。2月に新幹線とレンタカーを使った家族旅行で自転車を持参。途中、一人今治で降りてもらい、しまなみ海道（サイクリストの聖地と呼ばれていて世界中から集まってきます）を走って景色に感動してきました。

2. 【健康になります】有酸素運動が主体で、肉体的にも少しずつ健康に。体脂肪率、中性脂肪、 γ -GTP

も改善し、長年人間ドックで指摘されていた脂肪肝も1年前から消えました。ゴルフも少々たしなみですが、上がり3ホールが楽に回れるようになりました。ランニングのように膝への負担はほとんど無く、ウォーキングより効率的にカロリー消費が進みます。贅肉も取れて体が軽くなります。平地を100km程度走行で1,800kcal（ウォーキングでは1時間160kcal程度）消費しますので、ランチで何を食べてもまずカロリーオーバーになりません。また、サイクルコンピューターを付ければ、リアルタイムで走行スピード、ケイデンス（脚の回転数）、心拍数、消費カロリー、傾斜角、走行ルートが計測され、ネット上で詳細な記録を残すことが出来ます。2016年は年間5,000km走りました。お尻もパット付きジャージと正しいポジションと合うサドルと出会えば100km前後までは問題ありませんよ。

3. 【季節や環境の変化をより感じられます】春がベストシーズンです。桜が間もなく咲きますね、朝から暖かくなりましたね、日が長くなりましたねと。車より移動速度が遅く、直ぐ止まれるし、寄り道も自由。この店寄ってみようか？よくあります。また、仙台出身という事もあって『ツール・ド・東北』という石巻、女川、南三陸、気仙沼をめぐる時間制限内の完走走目的の自転車イベントに第一回から5年間参加しています。これは震災地の復興支援を目的としたヤフージャパン主催のイベントで、今年の参加者は4,000人。海岸線沿いを走るの、復興

の進捗がよく判ります。大川小学校では毎年お祈りを捧げ、エイドステーションと沿道で旗を振る地元の人やボランティアさんと交流を重ねています。もちろん三陸の素晴らしい景色とグルメも目的の一つです。今年も9/15-16に開催されます。

4. 【社外の友人が増えます】友人が友人を紹介して一緒に走る、休憩ポイントでご挨拶。『素敵な自転車ですね、どこからですか？これからどこへ？どこまで行ってきたのですか？今度一緒にしましょう！』どんどん増殖中です。仕事を忘れ、汗をかくのは精神的な疲れを癒しますし、リセットしてくれます。数人で列をなして走る場合は、ベテランは安全第一に前方の情報を次々と後方へ伝えます。『対向来るよ〜』『ポールあるよ〜』『徐行するよ〜』『止まりま〜す』『左に寄って〜』『追い越すよ〜』声とハンドサインで。先頭を交代しながら初心者をかばい、後ろを確認しながら仲間を気遣い、飛ばしたり、後方が追いつくまで待っていたり。集団行動のルールを再確認できます。

色々な趣味があると思いますが、友人が増える趣味は本当に楽しいですね！

昔から、仕事、家庭の両立に加えて趣味を入れて3本脚人間が充実した人生を送るコツと社内で行われてきましたが、日本人の働き改革が注目されている今、趣味の充実がますます大事になっていくでしょう。

もう一度、『皆さん、自転車始めませんか！』

 コーヒーブレイク 第110話

 ザルムブラウに満たされ、
ベルヴェデーレに癒される

寺岡 晟*

人それぞれ、旅の楽しみ方もそれぞれである。

僕の楽しみ方は、あまり予定を細かく立てず、行き当たりばったりの旅が好きである。

従って、できる限り1か所でゆっくり滞在し、ホテルで朝食を摂りながら、天気が良ければブラ歩きを楽しんだり、雨が降れば心地よさそうなバルやレストランを見つけてのんびりコーヒーやビールを味わいながら過ごすのが好きだ。

そして、これまでの経験上、その方が思いがけない発見や出会い、そして美味しいものにありつける機会が得られるからである。

もちろん、リスクもある。

帰国しておもむろにガイドブックを眺めたら、あ！こんな見どころがあったんだ！とか、こんな土産物があったんだ！という後の祭りも何度も経験している。

でも決して後悔しない僕は、今回の旅もホテルと航空会社の便だけを購入しての旅だ。

ただ、今回の旅には同行するパートナーがいる。

それも女性だ。

ここまで記すと、読者諸兄の期待が

高まるやも知れないが、あに図らんや、同行するパートナーは41年連れ添っている愛妻である。

妻は飛行機が苦手なため、10時間以上も空の旅を、という「私は留守番してますから、どうぞお友達やお一人で行ってらっしゃい」と笑いながら僕を送り出すことが多い。

だから自然と国内旅行が中心の夫婦旅が多くなってしまう。

そんな妻が春先に雑誌でウィーンのモーツァルトのコンサートのグラビア記事を読んだのか、「あなた、機会があればウィーンでコンサートに行きたいわ」と声をかけてきた。

めずらしいことである、同時に嬉しくなった。「いいね！行こう、行こう、ウィーンへ」。

5月の後半であれば、スケジュールに余裕がある。

拙速の僕は、妻からの声かけから翌日には「ウィーン&プラハ夫婦旅」を決めてしまった。

それもネットを通じてディナー付きモーツァルトコンサートも手配したのである。

その晩、夕食を囲みながら「あ！そうだ。ウィーンの旅を予約したよ。

 *(株)エイム・コンサルツ 代表取締役

5月の21日出発のオーストリア航空の直行便だよ」

妻が呆れていたのは言うまでもない。

しかし、41年も連れ添っている仲だ、呆れてはいるが、笑顔で返してくれた。

普段、旅の準備などは前日にパッパッとやってしまう僕だが、今回はそうはいかなかったのである。

モーツァルトコンサートのチケットに「ドレスコードでお越しください。」の文字が記されていたから、大騒ぎになった。

4月の後半の休日のことである。

妻が「いろいろ着るものを選んでいるんだけど、あなたは何を着るの？」

「夏物のジャケットに蝶ネクタイにしようと思っているけど…」

「私、どうでしょうかしら？」

つまり、衣装選びが暗礁に乗り上げている、ということである。

「じゃ、今度の日曜日に三越に行ってみようよ。きっと気に入るものが見つかるよ」

…僕の世代は、いいものはデパート、それも三越というイメージから離れられないのである。

「そんな、もったいないことしないで」と妻。

「せっかくのモーツァルトだ。非日常的体験だから少しは気張ってもバチは当たらないよ」と僕。

そんな出発前の衣装選びの騒ぎを乗り越えて、21日朝10時50分、僕ら夫婦を乗せたオーストリア航空ウィーン行きは好天の成田を飛び立った。

そして現地時間15時15分、予定通りに、成田同様に好天のウィーンに無事に降り立ったのである。

外へ出ると、ウィーンは思っていた以上に夏の陽気だった。

三越で買い求めた妻のワンピースも入ってキャリングケースは結構重し、長旅で疲れている妻をおもんばかって、タクシーでホテルに向かうことにした。

ベンツのタクシーは空港を出ると一気に高速道路に入り、ビュンビュン飛ばすが、巧みな運転にホッとする。

車窓から見える風景は圧倒的にグリーン色だ。

まっ平らな牧草地が左右に広がり、青い空が広がる景色はヨーロッパのそれだ。

「何だかホッとする景色ね」と妻が声をかけてきた。

飛行中も揺れが少なく、ゆったりと乗っていられたこともあり、妻の声が弾んで聞こえるのが嬉しい。

そして、30分ほどで、僕らを乗せたタクシーはウィーンの街へ入った。

街路は行き交う人も少なく、第一印象は「静かな街」という印象だった。

そしてタクシーが角を曲がったら静かに停まり、「アム・コンツェルトハウス」と、それまで無言で運転していた赤ら顔のドライバーがニヤッと笑いながら声をかけてきた。

「ありがとう！上手な運転でリラックスできたよ」と応え、「おお、どうもありがとう！As will be something Vienna stay is wonderfulウィーン滞在が素晴らしいものになりますように」

嬉しい言葉にチップ込みで€40（ユーロ）を手渡すと、これまたニヤッと笑う。

チェックインを済ませて部屋に入ると壁にはモーツァルトの肖像画が飾られていた。

「モーツァルトさん、やって来ましたよ！明後日のコンサートを楽しみにしてます。よろしくお願いします。」と僕が手を合わせると妻も見倣った。

一息入れて、少しブラつこう、ということホテルを出る。

ホテルの直ぐ近くに噴水広場があった。

そこには旧ソビエトの戦勝記念塔と書かれていて、どデカイ記念塔とそれに負けじ劣らない、どデカイ噴水が昇っていた。

...帰国後なぜ旧ソビエト戦勝記念塔が建っているのか調べたら、1945年当時ナチスドイツに占領されていたウィーンの開放を目指して進軍して、ドイツ軍と戦火を交わした際に戦死したソビエト兵の偉業を称えるために戦後直ぐにソビエトの手で建てられたとのこと。そして噴水は後でオーストリアの手で造られたそうで、なぜデカイ噴水にしたかと言えば、戦勝記念塔を見えないようにするためと記されていたのが興味深い。

どデカイ噴水広場を過ぎると今度は堂々たる趣の教会が目の前に広がった。教会の前には大きな池があり、木立の一角にはカフェがあり、多くの市民がそこそこでくつろいでいる。

ここがバロック建築で有名なカールス教会だった。

と言っても、後でガイドブックを見

て知ったのだが。

結局、4日間の滞在中は、ここが毎朝の散歩コースになり、滞在2日目の朝、二人でカールス教会の入り口が開いていたので、覗いてみると中年のオジサンが掃除をしていた。



カールス教会

「おはようございます！中へ入ってもいいですか？」と声をかけると、オジサンは、ニヤッと笑って「OK！OK！」と手招きしてくれるのではないかな。



カールス教会の祭壇

カールス教会の内部は想像以上の荘厳さだった。

それに、そこには僕ら夫婦だけしかいないのである。

とっても贅沢な時間と空間で、クリスチャンでない僕らはキリスト像に手を合わせて旅の安全と二人の健康を祈った。

2人切りのカールス教会を楽しんで外へ出るとき、先ほどのオジサンにお礼を言うと、「日本人か？トヨタのクルマを息子が乗っている。いいクルマだ。日本人が好きだ、俺はポーランド人だ」という嬉しい会話ができた。

旅の思いがけない嬉しい出会いである。

さて、時間を戻す。

カールス教会を囲む公園をしばらくブラついていたらお腹も空いてきたので、どこか適当なレストランを見つけてちょっと早めの夕食を摂ることにした。

地図も持たずにブラブラとトラムの線路沿いの通りを歩いていたら、右手

の長い塀沿いの一角に灯がともっていて、人だかりが見えた。

これはきっとレストランの灯りだな、と生来の野生の勘で向かって行ったら、予想通り、そこはレストランだった。

門の入り口に5、6人の先客が順番待ちをしていた。

母屋の前庭にはテーブルが配されていて、それぞれのテーブルでは楽しそうに、そしてビールや大きな肉の塊をワイワイ言いながら美味しそうに食べているではないか。

「ここだ！ここにしよう！」

待つこと10分、にこやかなウェイターに案内されて僕らは席に着いた。

レストランの名前は『SalmBrauザルムブラウ』、ブラウの意味はビールの醸造元だ。



ザルムブラウのテラス席

ということはこのザルムの自家製のビールがいただける訳だ。

運ばれてきたビールはピルスナータ



ウィーンのトラム

イプで、飲み口も爽やかで重くないのが嬉しい。

アルコールに弱い妻も一口飲んで「美味しい！」。

これだけでも来た甲斐があったというものだ。

つまみというより、僕のメインデッシュはポークのTボーン 1 kgの大作だ。

程よく火が通っているTボーンにナイフを入れて、頬張ると肉汁が口いっぱいに広がり、意外にあっさりしている。

そして自家製ピルスナービールを喉に流し込む。

「旨い！」。

妻のメインデッシュはカボチャのスープに茹でジャガイモ、これが長旅の疲れを解きほぐしてくれるようだ。

しかも茹でジャガイモは、ビールのつまみにピッタリの程よい塩味だ。



美味！ハンプキンスープと茹でジャガイモ

僕ら夫婦の隣の席は、ドイツからやって来たカップルだった。

さすがドイツ男は違う、ビールは陶器の特大ビールジョッキだ。

僕はすっかりいい気分となったが、旅は始まったばかりだ。

今日はこのくらいで、と自主規制？してチェックアウト。

妻が言う、「アラ！？今日は随分早い終わり方ね」。

このくらいで切り上げるのが紳士たる所以などといい加減に応えながら外へ出る。

ザムブラウを後にしてトラムが走る通りに出てホテルに帰ることにした。

ザムブラウに沿って高く長い塀が続いている。

この中には何があるんだろう？と興味半分で横目に塀を見ながら歩いているとアーチ形の門が見え、その奥に何やら素敵な建物が見えた。



アーチ門の奥にベルヴェデーレが見える

思わず「ちょっと入ってみようか！？」と妻に声をかけながらも僕の足はアーチ形の門に向かっていった。

門の内側に入ると、そこは別世界だった。

凜とした雰囲気の中、目の前に広がる緑の庭園、所々に立つ白亜の石像たち。なだらかに反りあがっている緑のスロープの先には屋根が緑の宮殿然とした佇まいの立派な建物が見える。

折からの夕陽を浴びて金色に縁どられた窓枠が輝いている。

しかも、この美しい庭園に人影が見当たらない。

爽やかな空気に包まれて、それだけで生気が蘇るような気分させてくれる。

「あの宮殿のような建物の方まで行ってみようか！」

宮殿に続く小道は白い小石が敷き詰められている。

「素敵な所ね」

「何の建物かしら」

歩きながら妻が語り掛けてくる。

「ホテルに戻ったら調べてみよう」と応えると「わからないのもいいかも！」と妻が笑いながら言う。

ほんの5、6分くらいの距離を歩いたのだが、何だかたくさんのかたを話しかけた気がした時間だった。

それぞれ所帯を持った子供たちのこと、可愛いお孫ちゃんたちのこと、僕

の仕事のこと、そしてこれからの僕ら夫婦の生き方などなどである。

夫婦って意外と面と向かって話すことが少ないような気がするので、こうやって夕陽を浴びながらゆったりと歩き、会話を交わすことがとても新鮮だった。

丘の上に立つ建物の前まで辿り着くと、「Belvedereベルヴェデーレ」と記されていた。

ホテルに戻ってガイドブックを見ると、ベルヴェデーレは有名な宮殿で美術館になっているとのこと。

「明日は、もう一度、ここへ来ようか？」

「賛成！」妻は嬉しそうに応えた。

丘上の宮殿から今来た道がスロープになって続いている。

左手、つまり、西に陽が落ちようとしている。

時計は9時を過ぎていた。

ヨーロッパの夏は陽が長い。

「明日からの旅を楽しもうね」と僕。

「ホテルに戻ったらウィナーコーヒーを飲みたいわ」と妻。

「それいいね！」

僕たちは夕陽に向かってスロープを下った。

旅の始まりである。

後半へとつづく



ベルヴェデーレ宮殿と熟年カップルと

機 種 名	ペイロード搭載の油圧ショベル 2 機種を新発売	キャタピラー
発売年月	2018年 6 月	

■概要

キャタピラー・ジャパン合同会社は、この度Cat 349F L XE 及び352F XE油圧ショベルを発売開始した。

今回発売したCat 349F L XE 及び352F XE は、オフロード法2014年基準に適合。国土交通省低騒音型建設機械に現在申請中です。また、電子制御式コントロールバルブの採用により、燃料消費量の削減を実現しています。

Catのテクノロジーとして、過積載の防止や生産性向上に効果的な積載量計測システムCatプロダクションメジャメント(CPM)、Catグレードコントロール(2Dガイダンス)をご用意しています。

Cat 349F L XE 及び352F XEは土木工事や碎石現場など様々な現場でお客様のビジネスに貢献します。

■主な特長

(1) Catテクノロジーを搭載した油圧ショベル

① ペイロード計測システムCatプロダクションメジャメントを標準装備。ブーム・アームを停止させることなく、正確に積荷の重さを計測することが可能です。作業をしたまま持ち上げ旋回中に計測します。

② Catグレードコントロールを標準装備。目標の勾配を素早く得ることができ、迅速かつ正確に少ないパス工数で作業仕上げができます。作業のやり直しコストや現場コストの削減を可能にします。

3Dシステムが必要な際は、簡単にアップグレードができます。

③ Cat Connect テクノロジー: プロダクトリンクやVisionLink® (ビジョンリンク) を利用することで、車両の位置や状態をリアルタイムに把握し適切な機械管理が行え、燃料消費量やアイドリング時間の分析によるコスト削減も可能です。

(2) お客様の運転経費を低減する優れた燃料生産性と作業効率

① 一定時間アイドリング状態が続くと自動的にエンジンを停止させ、燃費・CO₂排出量を低減します。燃料コストを抑えたいというお客様のニーズにお応えします。

(3) オフロード法2014年基準をクリアする環境性能

① 窒素酸化物 (NOx) を低減するシステムとして「NOx リダクションシステム」および尿素SCRシステムを採用。NOx リダクションシステムは、排出ガスの一部を冷却して吸気側に循環することで、燃焼温度を低下させ、NOxの排出を低減します。また、尿素水の化学反応を利用した尿素SCRシステムにより、NOx排出量のさらなる低減を実現します。

② ディーゼル酸化触媒 (DOC) およびディーゼルパーティキュレートフィルタ (DPF) からなる「Cat クリーンエミッションモジュール」が一酸化炭素、炭化水素、粒子状物質 (PM) を低減・除去します。さらに、PM除去過程でDPFに堆積するすすを取り除くために、DPF再生システムを有しています。

(4) Cat Connectテクノロジー

① プロダクトリンクやVisionLink® (ビジョンリンク) を利用することで、車両の位置や状態をリアルタイムに把握し適切な機械管理が行え、燃料消費量やアイドリング時間の分析によるコスト削減も可能です。

(5) オペレータ環境

① ROPS (運転者保護構造) 規格適合のキャブを採用し、オペレータの安全を確保しています。また振動や騒音を大幅に低減しています。

② シートはエアサスペンションシートでシートヒーター・ベンチレーターを装備。大容量エアコンで季節を問わず快適な作業環境を提供します。

③ 視認性の高いLEDモニタを採用し、操作も容易で効率的な作業を行うことができます。さらに標準のリアビューカメラで周辺の状況をモニタで確認できるので、安心して作業に集中できます。

(6) 安全性/サービス性

① キャブには大型ステップ、機械上面にはハンドレールと大型ガードレールで安全に、楽にアクセスできます。機械から安全に降りられるよう、キャブ及びブームライトはエンジン停止後最長90秒間点灯するよう設定可能です。(349F L XEは60秒間)

② 燃料の給油や尿素水補給などのメンテナンス作業時の安全性を確保しています。日常点検箇所へは地上から容易にアクセスできます。

③ クーリングシステムは可変速ファンと並列ラジエータが特長で燃料の節約が可能です。クリアランスが広く清掃しやすい設計になっています。

■問い合わせ先

キャタピラー

GCI マーケティング イノベーション

〒220-0012 神奈川県横浜市区西みなとみらい3-7-11

TEL 045-682-3553



Cat® 349F L XE 油圧ショベル

■主な仕様

	349F L XE	352F XE
運転質量	kg 49110	51120
標準バケット容量	m ³ 2	2.1
エンジン名称	Cat C13 ACERT ディーゼルエンジン	
総行程容積	ℓ 12.5	12.5
定格出力	kW 317	317
全長	mm 11900	11800
全幅 (トラック全幅)	mm 3340	3680
全高	mm 3730	3570
最大掘削深さ	mm 7660	7510

※ この欄では、会員企業から随時提供されるニュースリリースをもとに、毎号数機種を選び掲載しています。

機 種 名	ホイールローダー「WA480-8」	コマツ
発売年月	2018年 6 月	

■概要

コマツは、最新技術を随所に織り込み、「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律」^(※1) 2014年基準に適合したホイールローダー「WA480-8」を本年 6 月から発売した。

当該機は、特定特殊自動車排出ガス2014年基準の排出ガス規制をクリアした新世代エンジンを新たに搭載し、窒素酸化物（NOx）と粒子状物質（PM）の排出量を大幅に低減しています。

先進のワイドレンジロックアップ付き大容量トルクコンバーターの採用や、作業負荷に応じてエンジン・パワートレイン・油圧システムを最適コントロールするコマツ スマートローダロジックにより燃料消費量を当社従来機に比べ 20%低減^(※2) するなど、生産性と燃費性能の両方で高いレベルを実現し、国土交通省2020年燃費基準達成率100%（申請予定）を達成しています。

また、優れた掘削性を有した新開発のバケット（特許出願中）を標準装備。バケットの形状を、すくい込み性・満杯性・荷の保持性を考慮して見直したことで、作業効率を向上させています。さらに、同じく標準装備のオート掘削機能は、作業機にかかる負荷を感知し作業機を自動制御。掘削開始からすくい込みまでをアクセルのみで操作できるため、オペレーターの熟練度に関係なく安定した積み込み量を確保し、生産性の向上と疲労軽減に貢献します。

最新のKOMTRAX（機械稼働管理システム）は、オペレーターごとの運行管理を可能にするとともに、排出ガス後処理システムに必要なAdBlue^(※3)の残量についても確認可能にしています。さらに、国内で初めてパワーラインの保証延長と無償メンテナンスを取り入れたサービスプログラム「KOMATSU CARE（コマツ・ケア）」が新車購入時から付帯され、トータルライフサイクルコストの低減と長時間稼働に貢献します。

※ 1. 通称、オフロード法という。

※ 2. 当社従来機との比較（当社テスト基準による）。実作業では作業条件により異なる場合があります。

※ 3. ドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標。尿素SCRシステム専用の高品位尿素水のこと。

■主な特長

1. 環境、経済性

・特定特殊自動車排出ガス2014年基準適合車

コマツが長年積み重ねてきた独自のエンジンテクノロジーを結集し、新たに開発した新世代エンジンを搭載。特定特殊自動車排出ガス2014年基準の排出ガス規制をクリアしています。

・燃料消費量20%低減

先進のクリーン&エコノミー設計により高効率作業を実現。ワイドレンジロックアップ付き大容量トルクコンバーターの採用や、作業負荷に応じてエンジン・パワートレイン・油圧システムを最適コントロールするコマツ スマートローダロジックにより、生産性と燃費性能の両方で高いレベルを達成しています。

・新形状バケット

優れた掘削性を有した新開発のバケットを標準装備。すくい込み性・満杯性・荷の保持性を考慮した形状に改善したこ

とで作業機効率が向上しています。

2. ICT

・KOMTRAX

一段と機能が充実したKOMTRAXを搭載。従来機にあった位置情報や稼働情報に加え、オペレーター識別やAdBlue[®]の消費量情報をお客様に提供することで、より細やかな業務管理ができるようになり、業務改善のツールとして使用できます。

・高精彩 7 インチ液晶マルチモニター

新搭載の高精彩 7 インチ液晶マルチモニターでは、必要な情報を必要とときに表示。省エネ運転をサポートするエコガイドとエコゲージをリアルタイムでオペレーターに知らせることで燃費効率の良い運転が可能になるほか、車体の状態をモニタリングできる異常チェック機能を搭載し、万一の異常発生時には、モニターでスピーディーにチェックし休車時間を最小限に抑えるサポートをします。

3. 快適性・安心

・広々とした快適空間と視界性

静かでワイドな視界を確保した密閉式の大型ビラーレスキャブを採用。また、作業機レバーにはショートストロークで操作できる電磁比例制御式を採用したほか、シートとレバーを一体化することで作業路面の凹凸に対しても常に最適ポジションで作業することを可能とするなど、オペレーターの疲労を最小限に抑えます。

・オート掘削機能

作業機にかかる負荷を感知し作業機を自動制御。掘削開始からすくい込みまでがアクセルのみで操作できます。オペレーターの熟練度に関係なく安定した積み込み量を確保できるため、生産性の向上と疲労軽減に貢献します。

・「KOMATSU CARE（コマツ・ケア）」

特定特殊自動車排出ガス2014年基準適合車のための新車保証プログラムです。無償プログラムと有償プログラムで構成しており、無償プログラムは、従来の保証（1年間）に加え、次の項目を追加しています。

- ① パワーラインの3年間または5,000時間のいずれか早い方までの保証延長
- ② エンジンオイル・エンジンオイルフィルタ、燃料プレフィルタについて500時間毎2000時間まで（4回）の無償交換
- ③ AdBlue[®]タンクブリーザー・AdBlue[®]フィルタについて2000時間到達時に1回の無償交換
- ④ KDPF・AdBlue[®]タンクについて4500時間到達時に1回の無償清掃（工賃含む）

■問い合わせ先

コマツ コーポレートコミュニケーション部
〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6
TEL：03-5561-2616
URL：https://home.komatsu/jp/

■主な仕様

項 目	単位	WA480-8
運転質量	kg	24,965
エンジン定格出力 ネット	kW [PS] /rpm	223[303]/2,000
バケット容量 ストックバイル用 (B.O.C. ※ 4 付)	m ³	4.6
最大掘起力 (バケットシリンダ)	kN [kg]	206[21,000]
全長 / 全幅 (バケット幅) / 全高	mm	9,245/3,185/3,575
ダンピングクリアランス (45度前傾B.O.C.先端まで)	mm	3,165
ダンピングリーチ (45度前傾B.O.C.先端まで)	mm	1,440
最小回転半径 (最外輪中心)	mm	6,630

※ 4. B.O.C.: ボルトオンカッティングエッジ



WA480-8

* 一部オプションが含まれています。

※ 掲載は、定期又は特定自主検査の対象機種とそのアタッチメント、及び検査測定器に限ります。

機 種 名	電動フォークリフト「gene B（ジェネビー）」に 3 トン系ハイキャパシティ車	豊田自動織機 トヨタ L & F カンパニー
発売年月	2018年 6 月	

■概要

株式会社豊田自動織機・トヨタ L & F カンパニーは、1.0～3.5トン積電動フォークリフト「gene B（ジェネビー）」シリーズに、長時間稼働を実現する3トン系ハイキャパシティ車（3.0トン、3.5トン積）を追加し、販売開始した。

近年、排ガス規制強化の影響や環境意識の高まりとともに、自動車・トラック業界における電動化シフトが加速しています。一方で、フォークリフト業界における電動車の普及は先行しており、1990年時点で国内市場の電動車比率は28%^{*1}に達し、直近では大型物流倉庫の新設など市場の環境変化とあいまって、2017年の電動車比率は62%^{*1}まで伸長しております。

電動フォークリフトの用途は屋内作業に限らず、近年は木材業・産業廃棄物業等の屋外作業にも広がりを見せており、1.0～2.0トン積の小型フォークリフトだけでなく、3.0トン、3.5トン積の中型フォークリフトの需要も高まっています。エンジンフォークリフトの代替として、ますます活躍の場を広げる電動フォークリフトのニーズに対応するため、稼働時間の長い現場や電力消費の激しいアタッチメントを使用する作業現場においても、安心してお使いいただける3.0トン系ハイキャパシティ車をこのたび gene B シリーズに追加いたします。

3.0トン系ハイキャパシティ車は、2016年にフルモデルチェンジしたgene B シリーズにて好評をいただいているバッテリーを長持ちさせる機能や防水性（IPX4）に加え、高容量バッテリー搭載によりクラストップレベルの稼働時間を実現いたしました。gene B シリーズはますます充実したラインアップにより、今後もお客様作業現場の環境改善・フォークリフトの電動化ニーズにお応えしてまいります。

これからもトヨタ L & F カンパニーは業界のトップランナーとして、豊富な商品ラインアッ

プと業界最大の販売・サービスネットワークで、お客さまに最適な物流環境の構築をサポートしてまいります。

■主な特長

(1) 長時間稼働

- 80V565Ahの高容量バッテリー搭載
- 稼働時間67%延長（8FB30/J35標準仕様車（80V370Ah）と比較）^{*2}

(2) バッテリーの長寿命化に貢献

- 車載充電器にスマート充電機能を搭載、バッテリー状態に応じて充電量を制御
- バッテリー保護機能でバッテリーのダメージ防止に寄与
- 稼働時間延長により放電深度が浅くなり、バッテリーへのダメージ軽減

※1. 社団法人日本産業車両協会の発行するデータをもとに算出

※2. 作業サイクルパターン トヨタ30m作業サイクルによる測定数値（お客さまの稼働状況・使われ方により異なります）

■問い合わせ先

(株)豊田自動織機 広報部

TEL 0566-27-5157（本社）



電動フォークリフト
「gene B」3.0トン積ハイキャパシティ車(8FBH30)

※ 提供されたニュースリリースは、必ずしも全数掲載とは限りません。また掲載時期がずれることもあります。

緊急レポート：アベノミクス5年と今後の10の政策提言

みずほ総合研究所 One MIZUHO 提供

第2次安倍政権が2017年12月26日で5年となったのに際し、みずほ総合研究所は昨年末にアベノミクスに関する緊急レポートを発表した。それから半年が経ち当社は改めて緊急レポートを刊行し、現在の環境を踏まえた10の政策提言を行った。下記の図表1は、この10項目を示している。今回の政策提言は、当社が最近発表した各種のレポートにおける問題意識をベースにしている。一つは、高齢化社会に伴う構造変化への対応が重要という視点だ。もう一つは、経済状況が「有事」から「平時」に向かうなかで、金融政策でも出口に向けた検討が必要という認識である。今日、経済の回復が続き「有事」から

「平時」へ移行しながらも、消費が盛り上がりや欠く状況にある。この背景には、人口問題も含めた「ヒト」に係るミスマッチが存在すると考えられる。

以上の認識のもと、今回の提言では消費の底上げに向けて、これまで当社が提案してきたプレミアムフライデーを活用した平日の娯楽消費の促進も改めて取り上げた。今日の経済状況が既に「平時」を意識させるなかで、金融財政政策へ過度に依存した需要対策から、供給サイドの成長戦略へのシフトが重要であるとの視点から、「ヒト」に係るミスマッチを解消するための複数の政策を提示している。

■図表1：10の政策提言

「ヒト」に係る ミスマッチ解消	単身化に対する社会環境のミスマッチ解消
	① 世帯構造の変化に対応した住宅政策 ～経済圏単位での政策共通化、中古戸建ての活用等 ② 単身化への政治的対応 ～「シングル社会担当大臣」の新設
	人材のミスマッチ解消 ③ テレワークの推進 ～ICT投資による導入設備の大幅割増償却等 ④ 父親育児休暇の奨励 ～バタニティ・リブ奨励金 ⑤ 外国人材の受け入れ拡大 ～特区で認められる外国人就労制度の拡充
消費活性化	個人の資産形成におけるミスマッチ解消 ⑥ 人生に必要な資金の「見える化」 ～退職金・年金受給額の通知等
	消費喚起+インバウンド獲得 ⑦ ナイトライフ・エコノミーの活性化 ～プレミアム・フライデーを契機とした週休2.5日制
	消費喚起+観光産業の雇用安定化 ⑧ 平日国内宿泊旅行の促進 ～ハッピー・ペイド・パッケージ・ポイント等
	消費喚起+エネルギー効率向上 ⑨ 家庭におけるLED化 ～照明エコポイント
金融の出口戦略	⑩ 出口戦略に求められる7つの対応 ～OKルール、アコード戦略等

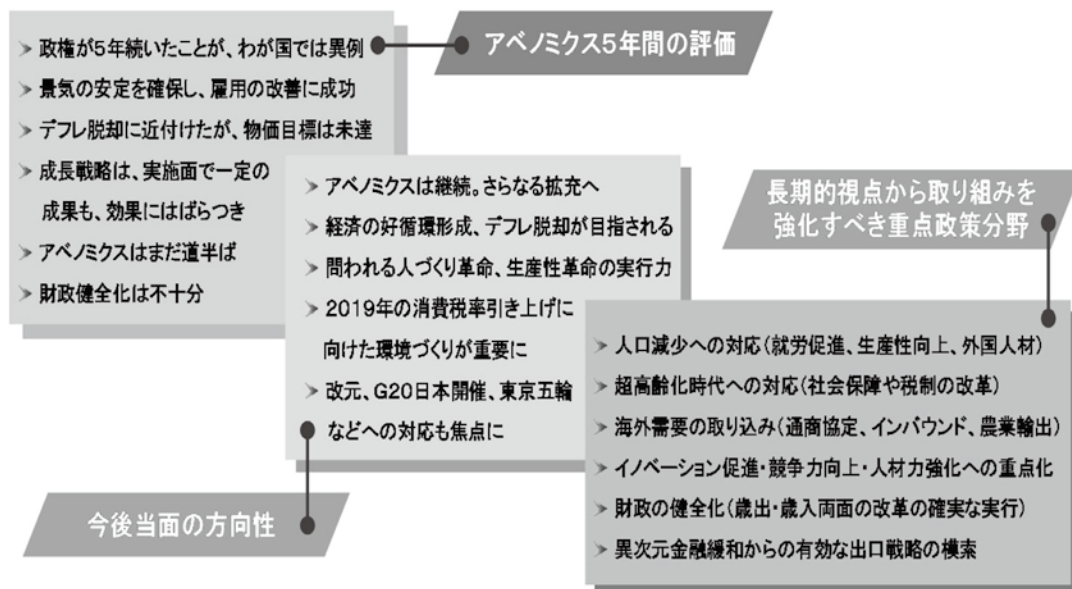
(資料) みずほ総合研究所作成

下記の図表2は、アベノミクス5年間の評価と今後の政策課題や方向性を示すものである。1990年代前半のバブル崩壊後の日本経済では、資産デフレと超円高が続くことによって生じたバランスシート調整とリストラ圧力が合わさる縮小均衡、いわゆる「デフレ均衡下」で、日本の国民のマインドが委縮化した状況にあった。これを初期条件としてスタートした安倍政権は「三本の矢」からなるアベノミクスを打ち出した。当初の「三本の矢」は、大胆な金融1の矢である金融政策は効果を発揮し、この結果デフレ均衡の出発点となった超円高・資産デフレの悪循環を止めたと受け止められている。実際に過去5年間で、為替は対ドルで約3割以上の円安、株式は日経平均株価が倍以上になる大幅な上昇を示した。アベノミクスの先兵として、第1の矢が成果を残した点に対する論功行賞として日銀の黒田総裁は、山際総裁以来およそ半世紀ぶりに再任された総裁となった。

また、アベノミクスは「三本の矢」全体としても過去5年で相応の成果を挙げたと言って良く、資産デフレと超円高は過去のものとなり、実体経済においてもデフレギャップ状況はインフレギャップに転じた。

ただし、四半世紀に亘って生じた委縮したマインドを完全に払しょくするには、消費等の伸びが依然不十分である。消費の底上げには、構造改革による成長率向上や経済の好循環形成が課題となる。今回の緊急レポートでは、成長の制約となっている「ヒト」に関する構造問題に注目した。特に短期の視点だけでなく、長期的な観点からみた重点政策を提言の項目に多く含めた。高齢化を中心とした構造変化が底流で生じるなか、こうした現実を直視した上で、新たな対応が今後一層強く求められる。この意味でもアベノミクスによる改革を息長く持続できるかが重要な課題となると当社は考えている。

■図表2：アベノミクス5年間の評価と今後の政策課題・方向性



(資料) みずほ総合研究所作成

2018. 5. 9 高田 創 記

当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。

サミットで生じた決定的亀裂、2020年代の不安を暗示

みずほ総合研究所 One MIZUHO 提供

カナダのシャルルボアで開催された G7 首脳会議は、「平等と経済成長」を志向したが、G7 内の決定的な亀裂が露呈した。トランプ大統領はカナダのトルドー首相がまとめた首脳宣言を拒否し、初めて全会一致でない首脳宣言となった。サミットは1975年のフランスで開催されたランブイエ会議に始まり、石油危機以降の米欧の先進国が共通の目的で集まり、ソ連を中心とした共通の脅威に対応するという目的でスタートした。それから40年以上が経過し、G7 は分裂状態と言っても過言でない。決定打となったのは、トランプ大統領による「米国第一主義」のもと通商問題が重視され、鉄鋼・アルミに輸出関税が課されることにより、米国が孤立した点である。

サミットは形骸化が指摘されてきた。ただし、2008年前後のリーマン・ショック等の世界経済危機に共通の対処を行うなど、相応の対応を行ってきた。しかし、トランプ政権が「米国第一主義」を掲げる中、これまでのように G7 協調が謳われる雰囲気は醸成されず、G7 は亀裂へ向かった。世界経済は「引き続き堅調に推移」とされるなか、経済面での不安は大きく後退したが、各国間の利害のかい離が目立った。こうした状況への布石は、去年のイタリア G7 でも米国と欧州の溝という形で表面化していたが、それが今回は一層強まった形だ。下記の図表 1 は2007年の安倍首相の参加以降に開催されたサミットの動きをまとめたものである。

■図表 1：2007年以降のサミットでの政策バイアス

開催年月	開催地	開催国	日本の首相	経済政策の方向性
2007 年6月	ハイリゲンダム	ドイツ	安倍首相	気候変動、地球温暖化対策
2008 年7月	洞爺湖	日本	福田首相	金融安定化への対応、新興国への期待(G20 サミット開催へ)
2009 年7月	ラクイラ	イタリア	麻生首相	協調的財政拡大
2010 年6月	ハンツビル	カナダ	菅 首相	経済成長(米国)と財政再建(欧州)を両論
2011 年5月	ドーヴィル	フランス	菅 首相	世界的な財政再建路線
2012 年5月	キャンブデービッド	アメリカ	野田首相	ギリシャ危機への対応、経済成長にも配慮
2013 年6月	ロックアーン	イギリス	安倍首相	自由貿易、税回避対策、途上国支援の透明性
2014 年6月	ブリュッセル	ベルギー	安倍首相	ウクライナ問題への対応、持続的な成長戦略の策定
2015 年6月	エルマウ	ドイツ	安倍首相	法の支配への価値共有、気候変動
2016 年5月	伊勢・志摩	日本	安倍首相	新たな危機を回避すべく経済対策
2017 年5月	タオルミーナ	イタリア	安倍首相	米国第一主義による亀裂も
2018 年5月	シャルルボワ	カナダ	安倍首相	首脳宣言が全会一致にならず亀裂

(資料) 各種報道よりみずほ総合研究所作成

2007年ハイリゲンダムサミットの直後、サブプライム問題に端を発した、世界的な経済危機以降に開催された5回のサミットは経済危機への対応に迫られた。米国ではサブプライム問題、リーマン・ショックがあり、欧州ではギリシャ問題を中心とする欧州債務危機があり、世界中が問題処理に奔走した。ここ数年はG7が共通して向かう対象不在の状況に陥り、むしろG7内の溝が浮き彫りになった。2016年は英国のBrexitで英国と欧州大陸が、そして2017年は更に大きな溝が米国とドイツという大西洋を挟んでできていた。今年は北米でも米国とカナダの間に大きな溝ができた。また、欧州ではイタリアが欧州の盟主ドイツに不満を向けた。今日の世界

状況は、回復に転じたとはいえバランスシート調整を引きずる。各国・地域が生き残りをかけて市場や利益を取り合う、新重商主義的な経済戦争の状況は続き、各国が成長戦略を描く姿は、世界の「アベノミクス化」である。なかでもトランプ大統領が掲げる政策は、米国第一主義とされ、新重商主義的な性格を帯びたアベノミクスとも類似する。すなわち、世界の「トランプ化」「アベノミクス化」である。どこの国々も、バランスシート調整が残存し、自国の内需が盛り上がりを欠くなか、他国の需要（外需）に依存するべく、自国通貨安、自国保護、他国市場開拓等で利益を獲得する新重商主義にある。（図表2）

■図表2：世界の主要国の姿勢

	日本 アベノミクス	米国 トランプ主義	欧州 ドイツの欧州主義	カナダ	中国 中国の夢
為替	自国通貨安	ドル高抑制	自国通貨安(ユーロで実力以下の通貨価値を享受)	米金利に沿って利上げ	元安バイアス
財政	拡大方向	拡大方向	緊縮気味	財政赤字に拘らず 経済成長重視	拡大方向
対外政策	貿易拡大 TPP	自国市場防衛 反 TPP	ユーロ圏重視 市場拡大	NAFTA で米と対立	市場拡大 新シルクロード 構想
スタイル	新重商主義	米国第一主義	欧州でドイツ独り勝ち イタリアの不満		新重商主義

（資料）みずほ総合研究所作成

昨年も生じた米欧の溝は、ドイツという異質の存在に起因した。ドイツは世界最大級の8%を超えるGDP対比経常収支を確保しつつ緊縮財政を続け、経常収支の面から本来ユーロ高になるべき状況を、ECBによるマイナス金利政策でユーロ安の状況にある。この背後にはユーロという共通通貨を用いることによる構造問題がある。共通通貨が用いられているにもかかわらず、域内不均衡是正の資金移転（トランスファー）が制度上否定されているがために、各国財政緊縮化とマイナス金利による通貨下落が必要となる矛盾であ

る。イタリアの不満は、こうしたドイツとの対立によるものだ。今回、米国にトランプ政権という「変人」が加わったことで、一層溝が複雑化した。2019年のG7サミットはフランス、2020年は米国大統領選の年に米国開催となる。このままの状況では、G7サミットが本当に続くかという不安が生じやすい。こうした遠心力がかかったような状況からG7サミットが再び求心力を取り戻すのは、世界経済への不安が生じる時だろうか。ただし、それは各国の自国主義の一層の先鋭化で更なる分裂を招く不安がある。

2018. 6. 22 高田 創 記

当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。

建 荷 協 の 動 き

(平成30年 4 月 1 日～平成30年 5 月31日)

運営幹事会

平成30年度第19回運営幹事会

月 日：平成30年 5 月10日(木)

場 所：ホテルグランドパレス 2F「チェリー
ルーム」

出席者：吉識会長、小澤常務理事、川島運営
幹事長、以下 運営幹事12名

議 事：

1. 協会現況報告について
2. 平成29年度事業報告(案)
3. 平成29年度決算報告(案)
4. 役員の改選について
5. その他

常設委員会

平成30年度第 1 回特自検委員会

月 日：平成30年 5 月23日(水)

場 所：建荷協本部会議室

議 事：

1. 平成30年度特自検委員会委員長、副委員
長選出
2. 平成31年度標章の作成について
3. 次期支部窓口資料開発について
4. ブロック別巡回指導情報交換会の開催に
ついて

5. 平成29年度「特定自主検査セミナー」実
施状況報告

6. その他

平成30年度第 1 回検査・整備技術委員会

月 日：平成30年 5 月21日(月)

場 所：建荷協本部会議室

議 事：

1. 平成30年度検査・整備技術委員会委員
長選出
2. 平成29年度検査・整備技術委員会活動
報告
3. 平成30年度の検査・整備技術委員会活
動計画について
4. 図書改訂報告及び図書改訂予定について
5. 本年度の委員会及び分科会の検討内容
及び開催日程について
6. 平成28年度特定自主検査実施台数報告
7. 平成30年度「機関誌」技術解説の原稿
提供会社への掲載依頼について
8. その他

平成30年度第 1 回研修委員会

月 日：平成30年 5 月24日(木)

場 所：建荷協本部会議室

議 事：

1. 平成29年度の研修・教育実績について

2. 平成30年度研修・教育予定について
3. マニュアル、テキスト改訂に伴う教材の改訂
PDF、スライド、指導書、試験問題
4. 本部研修について
 - ・「建機付属クレーン部分の定期自主検査者安全教育」の講師養成研修
 - ・平成30年度本部研修日程
5. 広域担当講師、検査実習担当講師について
6. 委員会日程
5. 平成30年度常設委員会（広報委員会）活動計画
6. 機関誌モニターアンケートの実施について
7. 平成30年度特自検強調月間広告について
8. 平成31年版年間標語の選考について
9. 平成31年版年間ポスター制作について
10. 平成30年広報委員会開催スケジュールについて
11. 平成30年度広報委員会名簿
12. その他

平成30年度第1回広報委員会

月 日：平成30年5月18日（金）

場 所：建荷協本部会議室

議 事：

1. 前回議事録の確認（2018.3.23：平成29年度第6回）
2. 機関誌主要計画の検討（236号7月号～238号11月号）
3. 製品紹介（236号掲載分、他在庫）
4. イラスト災害事例の検討（236号掲載用初回案）

会員入会状況

平成30年4月1日から平成30年5月31日までの
会員の入会状況は次のとおりである。

種別	対象業種別	会 員 数（社）			
		平成30年 3月末 会員数	平成30年4月1日～ 平成30年5月31日間異動 入 会 退 会	平成30年 5月末 会員数	
正 会 員	製造業	27			27
	建設業	288			288
	荷役業	85		1	84
	製造工業等	46			46
	リース・レンタル	650	1	2	649
	検査・整備業	2,949	5	14	2,940
	その他業種	188		2	186
賛 助 会 員		15			15
総 数		4,248	6	19	4,235

新入会員名簿

会員番号	名 称	〒	所在地	電話番号
61220	(株)カナモト福岡営業所	812-0004	福岡県福岡市博多区榎田2-10-13	092-472-5820
76198	田中産業(株)	624-0946	京都府舞鶴市字下福井1183-28	0773-75-3190
76199	(有)イガラシ工業	965-0077	福島県会津若松市高野町大字上高野字村前81-2	0242-32-2561
76200	(株)ネオ・サービス	750-0322	山口県下関市菊川町檜崎1286-1	083-287-1209
76201	庄内サービス	998-0103	山形県酒田市錦町3-8-23	0234-31-1007
76202	リフト整備柳川	839-0244	福岡県柳川市大和町六合1364	0944-76-4743

平成30年度 支部別検査者の研修・教育の予定表

平成30年度における当協会の支部が行う研修・教育の実施予定は別表1・2及び3のとおりです。

受講される場合は、毎号の機関誌（又は当協会のホームページ）を参考に、支部で実施予定を確認の上、お申込みください。なお、当協会の会員以外の事業所の方も受講できます。

事業所は、退職、異動等で検査者の不足が生じないよう資格取得研修の受講を計画してください。

1. 特定自主検査者資格取得研修 （別表1）

厚生労働省の告示及び通達に基づく、事業内検査者及び検査業者検査員の資格取得のための研修です。

2. 特定自主検査者能力向上教育 （別表2）

厚生労働省の通達に基づき、「フォークリフト」「整地・運搬・積み込み用、掘削用及び解体用機械」「締固め用機械」「基礎工事用機械」「コンクリート打設用機械」並びに「高所作業車」の特定自主検査者の業務に従事しておおむね5年以上経過した方を対象に、技術の進展に対応した技術、知識を付与することを目的とした教育です。

3. 実務研修及び安全教育（別表3）

・実務研修「記録表作成コース」

他の法令で資格を取得された方（建

設機械施工士他）や記録表の記入要領について再び学びたい方などを対象に、特定自主検査の法令上の位置付け、検査方法、及び具体的な記録表の書き方などについて学ぶことができます。

座学だけのコースと実機を使ったコースの2種類のコースがあります。

・実務研修「月次定期自主検査（フォークリフト）コース」

定期自主検査の中でも月次検査については、特定自主検査の検査員資格がなくても検査を行うことができます。日頃フォークリフトの整備や運転業務に従事されている方を対象に検査方法や記録表の記入要領について学ぶことができます。

座学だけのコースと実機を使ったコースの2種類のコースがあります。

・実務研修「検査業者業務点検コース」

登録検査業者として、正しい管理運営の在り方について実習を通して研修します。

・安全教育

厚生労働省の通達に基づき定期自主検査対象であるクレーン機能付油圧ショベルのクレーン部分（「建機付属クレーン部分」という。）並びにショベルローダー等の定期自主検査者を対象とした安全教育です。

平成30年度 特定自主検査資格取得研修（事業内）予定表（別表1）

(H30.06.01現在)

地区	支部	フォークリフト			車両系建設機械		
					整地・運搬・積込・掘削・解体用機械		
北海道・東北地区	北海道				9/5～7 EF		
	青森	9/21～22 EF			10/12～13 EF		
	岩手						
	宮城	8/24～25 EF					
	秋田	2/1～2 EF					
	山形						
関東地区	福島						
	茨城	4/5～6 EF			5/9～10 EF		
	栃木	4/7～8 EF			4/19～20 EF		
	群馬	10/19～20 EF					
	埼玉	8/22～24 EF	1/16～18 EF		2/6～8 EF		
	千葉	4/5～7 EF	9/13～15 EF		7/3～5 EF		
	東京	7/19～21 EF	10/18～20 EF				
中部地区	神奈川	7/12～14 EF	11/15～17 EF		8/29～31 EF		
	新潟						
	富山						
	石川						
	福井						
	山梨						
	長野	11/6～8 EF					
	岐阜						
	静岡	6/16～17 EF			4/21～22 EF		
	愛知	3/7～9 EF			3/12～14 EF		
近畿地区	三重	10/19～21 EF			9/28～30 EF		
	滋賀						
	京都						
	大阪	2/18～24 EF					
	兵庫						
中国地区	奈良						
	和歌山						
	鳥取	9/12～14 F					
	島根						
四国地区	岡山	8/30～31 EF			6/28～29 EF		
	広島				10/11～12 EF		
	山口	4/20～21 EF			11/16～17 EF		
	徳島						
九州・沖縄地区	香川						
	愛媛				7/27～28 EF		
	高知				9/7～8 EF		
	福岡	9/13～15 EF			7/12～13 EF		
	佐賀	10/10～11 EF			6/5～6 EF		
	長崎						
	熊本				10/27～28 EF		
	大分						
	宮崎						
	鹿児島						
	沖縄						

注1 研修日程は会場等の都合で変更になる場合がありますので、受講を希望される方は開催支部にお問い合わせください。

注2 表中、Eは14時間、Fは9.5時間、Gは5.5時間の受講時間を示します。

注3 表中の網掛けは終了した研修を示します。

平成30年度 特定自主検査資格取得研修（事業内） 予定表（別表1）

(H30.06.01現在)

地区	支部	車両系建設機械			高所作業車	
		基礎工事用	締固め用	コンクリート打設用		
北海道・東北地区	北海道					
	青森				10/19～20 EF	
	岩手					
	宮城					
	秋田	8/24～26 E				
	山形					
	福島					
関東地区	茨城		1/28～29 EF		9/6～7 EF	
	栃木			7/20～21 EF		
	群馬				9/12～13 EF	
	埼玉		6/19～21 EF		1/30～2/1 EF	
	千葉	8/28～30 EF			7/24～26 EF	
	東京				6/21～23 EF	9/13～15 EF
	神奈川		6/27～29 EF		3/7～9 EF	
中部地区	新潟					
	富山					
	石川					
	福井					
	山梨					
	長野					
	岐阜					
	静岡				9/8～9 EF	
	愛知					
近畿地区	三重				11/2～4 EF	
	滋賀					
	京都					
	大阪					
	兵庫					
	奈良					
	和歌山					
中国地区	鳥取					
	島根					
	岡山					
	広島					
	山口		7/19～21 F		6/7～9 F	
四国地区	徳島					
	香川					
	愛媛				5/25～26 EF	
	高知					
九州・沖縄地区	福岡	8/3～5 EF			11/16～18 EF	
	佐賀		7/3～4 EF			
	長崎					
	熊本					
	大分					
	宮崎					
	鹿児島					
沖縄	沖縄					

注1 研修日程は会場等の都合で変更になる場合がありますので、受講を希望される方は開催支部にお問い合わせください。

注2 表中、Eは14時間、Fは9.5時間、Gは5.5時間の受講時間を示します。

注3 表中の網掛けは終了した研修を示します。

平成30年度 特定自主検査資格取得研修（検査業）予定表（別表1）

(H30.06.01現在)

地区	支部	フォークリフト					車両系建設機械				
							整地・運搬・積込・掘削・解体用機械				
北海道・東北地区	北海道	6/20～22	BCD	8/22～24	BCD	9/10～14	A	6/13～15	BC	7/2～6	A
	青森	6/6～10	ABCD					6/28～30	BC		
	岩手	6/27～29	BC					7/23～27	ABC		
	宮城	6/6～10	ABC					5/23～27	ABC		
	秋田	7/25～29	ABC					7/25～29	ABC		
	山形	10/23～25	BC					8/29～31	BC		
	福島	7/24～28	ABC					9/6～8	BC		
関東地区	茨城	6/11～15	ABC					7/2～6	ABC		
	栃木	7/4～8	ABC					9/10～14	ABC		
	群馬	7/13～15	BCD					9/7～9	BC		
	埼玉	7/23～27	ABCD	3/11～15	ABCD			12/3～7	ABC		
	千葉	6/21～23	BC	12/6～8	BC			3/5～7	BC		
	東京	6/13～17	ABC								
	神奈川	6/14～16	BCD	10/25～27	BC			8/21～23	BC		
中部地区	新潟	6/7～9	BCD	7/5～7	BCD			7/19～21	BC		
	富山	9/26～28	BC								
	石川	6/22～24	BC								
	福井	6/14～17	BC					5/24～26	BC		
	山梨										
	長野	6/27～29	BCD					9/3～5	BC		
	岐阜	9/26～28	BC					5/28～6/1	ABC		
	静岡	6/6～10	AB	9/14～16	BC			5/18～27	BC		
	愛知	6/7～9	BCD	9/20～24	ABC			9/26～28	BC		
近畿地区	三重	9/7～9	BC					5/23～27	ABC		
	滋賀	2/20～22	BCD								
	京都	9/6～8	BC								
	大阪	5/21～27	ABCD	10/22～28	BC			6/4～9	BC		
	兵庫	7/12～21	BC					9/6～8	BC		
	奈良	9月	BC								
中国地区	和歌山							6/28～30	BC		
	鳥取	9/12～14	BC								
	島根	7/4～6	BC								
	岡山	6/4～8	ABC	3/18～20	BC			10/29～11/2	ABC		
	広島	11/8～10	BC					10/15～19	ABC		
四国地区	山口	9/13～15	BC					5/16～20	ABC		
	徳島										
	香川										
	愛媛	6/14～16	BCD								
九州・沖縄地区	高知										
	福岡	6/20～24	ABCD	1/17～19	BCD						
	佐賀	2/5～7	BC								
	長崎	6/20～24	ABC								
	熊本	7/14～22	ABC					2/1～10	ABC		
	大分	6/15～24	ABC					8/22～26	ABC		
	宮崎	9/12～16	ABC					7/18～22	ABC		
鹿児島	10/24～28	ABC					7/11～15	ABC			
	沖縄	7/4～8	ABC					6/13～17	ABC		

注1 研修日程は会場等の都合で変更になる場合がありますので、受講を希望される方は開催支部にお問い合わせください。

注2 表中、Aは35時間、Bは21時間、Cは18時間、Dは13時間の受講時間を示します。

注3 表中の網掛けは終了した研修を示します。

平成30年度 特定自主検査資格取得研修（検査業）予定表（別表1）

(H30.06.01現在)

地区	支部	車両系建設機械			高所作業車			
		基礎工事用	締固め用	コンクリート打設用				
北海道・東北地区	北海道				5/23～25	BC	7/18～20	BC
	青森		8/23～25 BC		7/26～28	BC		
	岩手				9/12～14	BC		
	宮城				7/19～23	ABC		
	秋田	8/24～26 BC			4/10～12	BC		
	山形				5/23～25	BC		
	福島				10/11～13	BC		
関東地区	茨城		1/21～23 BC		10/9～11	BC		
	栃木			10/21～25 ABC	8/28～30	BC		
	群馬				6/19～21	BC		
	埼玉	10/22～26 ABC	6/18～22 ABC		2/18～22	ABC		
	千葉	2/5～7 BC			9/25～27	BC		
	東京				11/8～10	BC		
	神奈川		11/27～29 BC		1/17～19	BC		
中部地区	新潟				6/21～23	BC		
	富山				6/21～23	BC		
	石川				5/11～13	BC		
	福井				9/6～8	BC		
	山梨							
	長野				6/13～15	BC		
	岐阜				6/27～29	BC		
	静岡				10/12～14	BC		
	愛知		7/24～26 BC		6/1～3	BC	11/9～11	BC
	三重		6/22～24 BC		7/20～22	BC		
近畿地区	滋賀							
	京都							
	大阪				9/3～7	ABC		
	兵庫			10/22～26 ABC	3/7～9	BC		
	奈良							
	和歌山							
中国地区	鳥取							
	島根							
	岡山		12/3～5 BC		7/12～14	BC	2/18～22	ABC
	広島				9/13～15	BC		
四国地区	山口		7/19～21 BC		6/7～9	BC		
	徳島							
	香川							
	愛媛				10/11～13	BC		
九州・沖縄地区	高知							
	福岡				10/17～21	ABC		
	佐賀				8/1～3	BC		
	長崎			5/23～27 ABC				
	熊本							
	大分		9/21～23 BC		10/12～14	BC		
	宮崎				10/11～13	BC		
	鹿児島				5/30～6/3	ABC		
沖縄地区	沖縄		1/30～2/3 ABC		10/24～28	ABC		

注1 研修日程は会場等の都合で変更になる場合がありますので、受講を希望される方は開催支部にお問い合わせください。

注2 表中、Aは35時間、Bは21時間、Cは18時間、Dは13時間の受講時間を示します。

注3 表中の網掛けは終了した研修を示します。

平成30年度 特定自主検査能力向上教育予定表 (別表2)

(H30.06.01現在)

地区	支部	フォークリフト				車両系建設機械										高所作業車	
						整地・運搬・積込・掘削・解体用機械					基礎工事用機械	締固め用機械	コンクリート打設用機械				
北海道・東北地区	北海道	6/26				6/25	7/26										
	青森	5/9				5/30											
	岩手	7/11				9/19											
	宮城	10/12				6/23									8/4		
	秋田	2/13				7/18							4/24				
	山形	8/8				6/14									7/31		
	福島	6/12	10/19			6/21	10/18					8/8			6/26		
関東地区	茨城	4/26	12/12			5/23	2/5					7/25			9/5		
	栃木	6/6				6/22							6/17		12/11		
	群馬	10/18				4/25	10/10								9/21		
	埼玉	6/13	10/11			9/5	3/6			11/7	3/1			5/16			
	千葉	6/12				6/27											
	東京	9/5													10/24		
	神奈川	2/1				7/20						11/21					
中部地区	新潟	8/22				9/5									9/12		
	富山	7/4				8/21											
	石川					8/29											
	福井	6/5				5/15									8/28		
	山梨	7/18				6/27				9下旬							
	長野	10/2				7/12					7/26				10/17		
	岐阜	2/6				6/18									8/6		
	静岡	1/26				8/4						5/26			6/2		
	愛知	7/18	8/30			7/12					7/20				7/3		
近畿地区	三重	9/5				5/9									8/8		
	滋賀					7/19											
	京都	9/26				8/2											
	大阪	1/21															
	兵庫	6/14	10/18			6/15	8/28						10/12		2/21		
	奈良																
中国地区	和歌山	10/27															
	鳥取					11/22											
	島根														1/23		
	岡山	9/7	10/10			9/21	11/9	11/19									
四国地区	広島	7/5	7/12	7/19		6/13	6/20	6/27							7/3	7/17	
	山口	10/27				10/13											
	徳島	11中旬															
	香川					9/29											
九州・沖縄地区	愛媛	7/21				8/25									10/20		
	高知					9/20											
	福岡					2/8											
	佐賀	11/21				11/22					9/14				9/14		
	長崎	7/5	2/27	3/13		7/4	10/30	11/7									
	熊本	9/15				1/19											
	大分	11/17				10/27											
	宮崎	7/14				7/6									1/12		
	鹿児島	9/8				8/18											
	沖縄	1/18				12/14					6/29				8/17		

注1 研修日程は会場等の都合で変更になる場合がありますので、受講を希望される方は開催支部にお問い合わせください。

注2 表中の網掛けは終了した教育を示します。

平成30年度 実務研修、定期自主検査安全教育予定表 (別表3)

(H30.06.01現在)

地区	支部	実務研修										安全教育			
		記録表作成コース						月次定期自主検査 (フォークリフト)		業務点検 コース		建機付属 クレーン部分		ショベル ローダー等	
		座学			実技			座学	実技						
北海道・東北地区	北海道	11/9										7/24		7/23	
	青森	11/3	11/14							8/29		3/9	3/19		
	岩手	8/7	10/12	11/16	6/20	8/24				6/8		11/6			
	宮城	4/21	9/14									11/17			
	秋田	6/13	1/29									5/22			
	山形	9/6	9/21						5/10	6/20		7/11			
	福島	6/7	8/23							9/13		7/18		11/19	
関東地区	茨城				8/24	1/11				10/26		5/25		1/9	
	栃木				11/27					10/12		9/15		2/8	
	群馬	6/11								10/24		11/15			
	埼玉	11/14					12/12			7/4		7/11			
	千葉	1/22								11/6		8/7	12/3		
	東京														
	神奈川	11/9	12/14					9/21		9/4	11/6	10/12			
中部地区	新潟	10/3								10/17		8/8			
	富山									9/13					
	石川	4/25	7/20	9/19								9/26			
	福井	2/7						2/14		4/16				7/4	
	山梨											11中旬			
	長野	7/18								10/19		6/21			
	岐阜				6/19	11/14				10/17		7/18		7/25	
	静岡	8/25	10/20	12/1						11/17		6/30		2/16	
	愛知	8/7	8/9		8/2					11/27		9/12		10/3	
近畿地区	三重	4/24	7/5	9/12				6/2	12/8	1/17		5/12		6/9	
	滋賀														
	京都									11/20		10/19			
	大阪	11/14	11/21												
	兵庫	9/12	2/19					2/19		6/19	8/23	8/22		11/7	
中国地区	奈良														
	和歌山														
	鳥取	8/3													
	島根	2/21										6/22			
四国地区	岡山				6/21							8/24		10/22	
	広島				7/10	2/1				8/23				6/1	
	山口	11/10													
	徳島	5/25										5/24			
九州・沖縄地区	香川	6/30													
	愛媛	4/21			10/27					7/13		4/14			
	高知	6/22			6/13							6/6			
	福岡				9/7							11/22		10/12	
	佐賀	8/9										6/14			
	長崎	6/27			7/18				11/6			9/13	1/9		
	熊本	6/16	12/22							8/18		11/17			
	大分	7/7						5/19				6/2		7/21	
	宮崎	6/2	2/2		5/19					8/3		4/21			
	鹿児島	12/1						6/23				7/28			
沖縄地区	沖縄	9/7						5/11				8/3			

注1 研修日程は会場等の都合で変更になる場合がありますので、受講を希望される方は開催支部にお問い合わせください。

注2 表中の網掛けは終了した研修・教育を示します。

平成30年度 運転技能講習予定表

(H30.06.01現在)

●フォークリフト												
秋 田	4/26～		6/8～			9/13～						
			6/19～									
茨 城	4/9～	5/8～	6/8～	7/10～	8/17～	9/7～	10/11～	11/8～	12/11～	1/10～	2/13～	3/8～
石 川		5/24～			8/23～							
山 梨		5/12～		7/7～		9/8～		11/3～				
京 都			6/4～									
大 阪	4/8～	5/10～	6/6～	7/4～		9/19～	10/10～	11/4～		1/16～		3/6～
兵 庫	4/6～											
長 崎	4/12～	5/10～	6/7～	7/19～	8/2～	9/6～	10/18～	11/15～	12/6～	1/17～	2/7～	3/14～
	4/26～		6/14～			9/27～			12/13～		2/28～	
熊 本		5/19～	6/2～	7/7～	8/4～	9/1～	10/6～	11/22～			2/16～	3/2～
宮 崎	4/25～	5/23～	6/20～		8/22～		10/24～					

●車両系建設機械（整地・運搬・積込み用及び掘削用）												
兵 庫						9/18～						
鳥 取			6/12～				10/18～					
鳥 根		5/28～				9/18～						
長 崎	4/19～			8/24～				10/11～		1/10～	2/22～	

●車両系建設機械（解体用）												
鳥 取		5/18～										

●不整地運搬車												
鳥 取				7/19～								
鳥 根				7/18～								

●高所作業車												
青 森	4/20～	5/11～	6/1～	7/6～		9/7～	10/27～	11/9～	12/15～		2/23～	3/15～
	4/28～	5/26～	6/23～	7/21～		9/29～		11/17～				3/23～
群 馬		5/12～				9/22～						
福 井	4/18～					9/26～						
滋 賀	4/5～		6/5～	7/4～		9/5～	10/10～		12/4～			
奈 良		5/19～		7/23～		9月		11月				3月
鳥 取	4/18～				8/22～			11/7～				
鳥 根							10/22～					
沖 縄	4/6～		6/1～		7/20～		10/12～	11/16～			2/8～	

●小型移動式クレーン												
兵 庫				7/27～								
鳥 根						9/3～						

●玉掛け												
鳥 根					8/20～							

注1 各講習会日程の最初の日を掲載しています。詳細は該当支部にお問い合わせください。

注2 表中の網掛けは終了した講習を示します。

お知らせ

〔平成30年度〕
各種研修の受講料及び修了証再交付手数料

1 資格取得研修

(A) 事業内検査者研修

研 修 の 種 類	14時間コース		8.5・9.5時間コース		5.5時間コース	
	会員	一般	会員	一般	会員	一般
1 フォークリフト	49,032	54,108	44,712	49,788	43,632	48,708
2 整地・運搬・積込み用、掘削用及び解体用機械	61,128	73,116	56,808	68,796	—	
3 基礎工事用機械	57,672	66,528	53,352	62,208		
4 締固め用機械	51,084	57,456	46,764	53,136		
5 コンクリート打設用機械	64,368	71,604	58,968	66,204		
6 高所作業車	51,624	58,104	47,304	53,784		

(B) 検査業者検査員研修

(単位：円)

35時間コース		21時間コース		18時間コース		13時間コース	
会員	一般	会員	一般	会員	一般	会員	一般
77,112	82,188	55,512	60,588	53,352	58,428	52,272	57,348
93,528	105,516	70,848	82,836	66,528	78,516	—	
90,072	98,928	66,312	75,168	61,992	70,848		
79,164	85,536	57,564	63,936	55,404	61,776		
112,968	120,204	80,568	87,804	78,408	85,644		
85,104	91,584	62,424	68,904	60,264	66,744		

2 能力向上教育

教 育 の 種 類	会 員	一 般
1 フォークリフト	13,176	15,444
2 整地・運搬・積込み用、掘削用及び解体用機械	13,824	16,524
3 基礎工事用機械	11,448	12,960
4 締固め用機械	11,340	12,744
5 コンクリート打設用機械	11,124	12,312
6 高所作業車	11,448	12,960

3 実務研修

研 修 の 種 類		座学コース		実技コース	
		会員	一般	会員	一般
記録表作成コース	フォークリフト	13,176	15,768	18,576	21,168
	整地・運搬・積込み用、掘削用及び解体用機械	14,796	18,468	20,196	23,868
	基礎工事用機械	14,796	18,468	20,196	23,868
	締固め用機械	14,580	18,036	19,980	23,436
	コンクリートポンプ車	14,580	18,036	19,980	23,436
	高所作業車	13,392	16,092	18,792	21,492
月次定期自主検査(フォークリフト)		7,722	8,964	13,122	14,364
検査業者業務点検コース		会 員	一 般		
		9,180	10,044		

4 安全教育

教 育 の 種 類	会 員	一 般
建機付属クレーン部分	7,344	7,884
ショベルローダー等	10,368	11,232

5 資格取得研修 修了証再交付手数料

申請にあたっては、1件につき送料を含む手数料2,160円(税込)を「現金書留」にて同封してください。

- (注) 1. 受講料には、テキスト代及び消費税8%が含まれています。
 2. 当協会会員所属の受講者の受講料は、協会が教材費の一部を負担した額です。
 3. 本表に含まれるテキスト代以外の教材類を追加する等の際は、本表受講料と異なる場合があります。
 4. 受講料は、研修を実施する建荷協・支部に納金してください。

お知らせ

けんにきょう

建荷協発行図書等のご案内

平成30年度版

安全の心を託す特自検



建設荷役車両安全技術協会

ご案内する図書等は公益社団法人 建設荷役車両安全技術協会（略称 建荷協（けんにきょう））都道府県各支部にてご購入いただけます。

■ 特定自主検査制度の入門解説

特定自主検査制度についての入門編

安全と特定自主検査のおはなし

「なぜ特定自主検査が必要なのか？特定自主検査とはどのようなものか？」をご理解いただけるよう、イラストを使いわかり易く解説したものです。

(H25.6改訂C版発行)



品名	品番	会員価格	一般価格
安全と特定自主検査のおはなし	PC-ZC-02-C	216円	324円

特定自主検査の対象機械について

特定自主検査対象機械の概要

特定自主検査を行うべき機械等の代表的なものを写真、図で示し、特徴、用途などの概要をまとめたものです。

また、一部対象外機械についても掲載しています。

(H29.3改訂D版発行)



品名	品番	会員価格	一般価格
特定自主検査対象機械の概要	SC-ZC-01-D	648円	1080円

■ 特定自主検査済標章

特定自主検査 実施年月の明示

特定（定期）自主検査済標章

・ 特定自主検査済標章

労働安全衛生規則に基づき、フォークリフト、不整地運搬車、車両系建設機械及び高所作業車について、年1回（不整地運搬車は2年に1回）実施することとされている特定自主検査を行った年月を明らかにするため、厚生労働省のご指導のもとに作成した標章です。検査業者用と事業内用とがあります。

・ 定期自主検査済標章

労働安全衛生規則に基づき、「建機付属クレーン部分」、「ショベルローダー、フォークローダー及びストラドルキャリアー」について、年1回実施することとされている定期自主検査（年次検査）を行った年月を明らかにするため当該機械に貼る標章です。

品名	品番	会員価格	一般価格
特定自主検査済標章（事業内）	BP-LH-30	324円	972円
特定自主検査済標章（検査業）	BP-LR-30		
定期自主検査済標章	BP-LR1-30		



特定自主検査済標章（事業内）



特定自主検査済標章（検査業）



定期検査済標章

【注記】 検査済標章の色は、毎年1月1日をもって暦年ごとに変更されます。旧年発行の標章は同日以降使用できませんのでご注意ください。

特定自主検査に係る標章等について

標章の使い方から管理まで

特定自主検査を行ったときに貼付する標章等の取扱いについて解説したものです。

(H27.4改訂E版発行)

品名	品番	会員価格	一般価格
標章の使い方から管理まで	BC-ZC-05-E	216円	324円



表記の価格は全て消費税8%込みの価格です。

■ 特定自主検査の実施

検査方法と判定基準

定期自主検査指針

労働安全衛生法、第45条第3項の規定に基づき公示にされた特定(定期)自主検査の検査項目、検査方法および判定基準をまとめたものです。

品 名	品 番	会員価格	一般価格
フォークリフト	SG-LC-01-A	324 円	432 円
不整地運搬車	SG-GR-01	216 円	432 円
車両系建設機械	SG-KC-01-B	1728 円	2700 円
高所作業車	SG-HL-01	540 円	756 円
フォークリフト(月次)	SG-LC-11-A	216 円	324 円

検査項目の判定値

検査・整備基準値表

判定基準の中で「メーカーの指定する基準値内であること」とされている基準値および測定方法を機種・型式別ごとにまとめたものです。

品 名	品 番	会員価格	一般価格
フォークリフト	SS-LC-03-F	1404 円	2052 円
油圧ショベル *改訂	SS-GE-03-D	1944 円	2916 円
トラクター・ショベル *改訂	SS-GE-04-D	540 円	756 円
ブルドーザー *改訂	SS-GE-05-D	216 円	324 円
解体用機械 *改訂	SS-DM-01-B	2592 円	3996 円
締固め用機械	SS-RC-01-C	972 円	1512 円
コンクリートポンプ車	SS-CP-01-C	648 円	972 円
高所作業車	SS-HL-01-C	756 円	1080 円

検査結果の記録

特定(定期)自主検査記録表

特定(定期)自主検査を行った際に、当該機械の検査結果および補修措置等を記録しておくものです。

- ・記録表は3年間の保存義務があります。
- ・記録表は公益社団法人建設荷役車両安全技術協会の著作物です。無断で複製、転用することを禁じています。
- ・記録表は機械性能の向上に伴い随時改訂しています。

記録表の記入方法

特定自主検査記録表の記入要領

特定自主検査記録表は、機械性能の向上により随時改訂されています。

最新の記録表についても正確に記入できる様、記入方法を解説しています。

(H28.3改訂O版発行)



品 名	品 番	会員価格	一般価格
特定自主検査記録表の記入要領	TC-ZC-02-0	1080 円	1620 円

特定自主検査業務を適正に行うための帳簿

特定自主検査台帳

- ・特定自主検査台帳 事業内用
特定自主検査済標章の受払を管理する「標章受払簿」と、保有機械の特定自主検査実施状況管理に使用する「標章貼付簿」を一体にしたものです。
- ・特定自主検査台帳 検査業者用
特定自主検査済標章の受払を管理する「標章受払簿」と、特定自主検査業務を適正に行うための「特定自主検査台帳」、検査料収納の管理に使用する「検査料金収納簿」を一体にしたものです。

品 名	品 番	会員価格	一般価格
特定自主検査台帳 事業内用	BC-ZC-04-A	540 円	810 円
特定自主検査台帳 検査業者用	BC-ZC-07	1620 円	2160 円

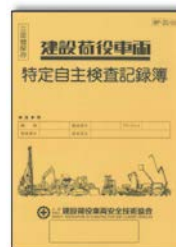


品 名	会員価格	一般価格
特定(定期)自主検査記録表(1セット50枚)	486 円	756 円

記録表の保存

特定自主検査記録簿

省令により3年間保存義務がある特定自主検査記録表をファイリングしておくためのものです。



品 名	品 番	会員価格	一般価格
特定自主検査記録簿	BP-ZC-03	108 円	162 円



表記の価格は全て消費税8%込みの価格です。

■ 検査者標識

検査者標識は、「検査者であることを第3者が識別できる」とこと、「検査者としての意識の高揚」を目的として検査者に着用させるものです。

協会では**腕章**及び**ワッペン**（作業服等にアイロンで接着させる方式）とヘルメット等に貼付できる**シール**を用意しています。

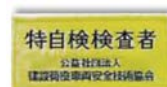
・検査者腕章、特自検腕章

特定自主検査資格者であることを示すため着用するものです。

品名	品番	会員価格	一般価格
検査者腕章	BP-YC-01	1080 円	1620 円
検査者ワッペン	BP-YC-02	324 円	540 円



検査者腕章



検査者ワッペン

・検査者シール（検査業者用、事業内用）

検査者が特定自主検査を行える資格の種類（検査業者、事業内）、機種を示すためのものです。

特定自主検査対象機種	検査業者用	事業内用	会員価格	一般価格
フォークリフト	BP-YC-11-A	BP-YC-21	108 円	162 円
整地・運搬・積込用・掘削用および解体用機械	BP-YC-12-A	BP-YC-22		
基礎工事用機械	BP-YC-13-A	BP-YC-23		
締固め用機械	BP-YC-14-A	BP-YC-24		
コンクリートポンプ車	BP-YC-15-A	BP-YC-25		
高所作業車	BP-YC-16-A	BP-YC-26		
不整地運搬車	BP-YC-17-A	BP-YC-27		



■ 教育資料

当協会で開催する特定自主検査者資格取得研修および能力向上教育等で使用されている図書です。

・特定自主検査マニュアル 特定自主検査の検査方法等を機種、部位別に解説しています。

品名	品番	会員価格	一般価格
検査機器	TQ-ZC-01-D	648 円	972 円
原動機（ディーゼル・ガソリン）※改訂	TQ-KE-01-F	2376 円	3564 円
油圧装置	TQ-KH-01-D	1188 円	1836 円
上部旋回体 下部走行体	TQ-KB-01-D	1836 円	2808 円
ジブ・リーダー・ワイヤーロープ	TQ-KJ-01-C	864 円	1296 円
フォークリフト	TQ-LC-02-G	1296 円	1944 円
不整地運搬車	TQ-GR-01-D	756 円	1188 円
車両系建設機械（整地等用）※改訂	TQ-GC-02-A	3240 円	5184 円
〃（基礎工事用）	TQ-FC-01-D	2916 円	4428 円
〃（締固め用）	TQ-RC-01-D	1188 円	1728 円
〃（コンクリート打設用）	TQ-CP-01-E	1080 円	1728 円
高所作業車	TQ-HL-01-D	1296 円	1944 円
特定自主検査と補修	TC-ZC-01-E	540 円	864 円



・能力向上教育テキスト 機種別に最新の技術等を紹介しています。

品名	品番	会員価格	一般価格
フォークリフト	TL-LC-01-D	3456 円	5184 円
整地・運搬等&ブレイカ※改訂	TL-GE-01-F	3564 円	5400 円
締固め用機械	TL-RC-01-C	1620 円	2484 円
基礎工事用機械	TL-FC-01-C	1188 円	1836 円
不整地運搬車	TL-GR-01-A	540 円	864 円
コンクリートポンプ	TL-CP-01-C	1404 円	2052 円
高所作業車	TL-HL-01-C	1728 円	2700 円



・その他

品名	品番	会員価格	一般価格
フォークリフト安全運転テキスト	TO-LC-02-B	1512 円	1512 円
ショベルローダー等定期自主検査マニュアル 検査・整備基準値表	TQ-SR-02-C	1728 円	2592 円
業務点検コーステキスト	TT-YC-01-B	1080 円	1620 円



表記の価格は全て消費税 8 % 込みの価格です。

■ 特定自主検査業務の管理

事業内検査の適正実施のために

特定自主検査業務マニュアル

—事業内検査—

事業内検査の業務を適正に遂行するための管理のポイントおよび実務の詳細を説明したものです。

(H27.2 改訂 E 版発行)



品 名	品 番	会員価格	一般価格
特定自主検査業務マニュアル —事業内検査—	BP-ZC-02-E	972 円	1512 円

検査業者検査の適正実施のために

特定自主検査業務マニュアル

—検査業者—

検査業者の業務を適正に遂行するための管理のポイントおよび実務の詳細を説明したものです。

(H25.10 改訂 F 版発行)



品 名	品 番	会員価格	一般価格
特定自主検査業務マニュアル —検査業者—	BP-ZC-01-F	972 円	1512 円

特定自主検査の適正実施のために

特定自主検査とその管理

(管理者用マニュアル)

特定自主検査全般を管理する事業者が知っておかなければならない労働災害防止に関する法令や事業者の責務等をまとめたものです。

(H26.12 改訂 D 版発行)



品 名	品 番	会員価格	一般価格
特定自主検査とその管理	BC-ZC-06-D	648 円	1080 円

登録検査業者の諸手続きについて

特定自主検査登録検査業者必携

登録検査業者が、厚生労働大臣または都道府県労働局長に登録申請・業務規程変更等の際に留意すべきポイントを解り易く解説したものです。また、参考となる業務規程例を示してあります。

(H26.4 改訂 J 版発行)



品 名	品 番	会員価格	一般価格
特定自主検査登録検査業者必携	BC-ZC-01-J	540 円	864 円

特定自主検査制度に関する法令、通達

特定自主検査関係法令通達集

特定自主検査制度に関する法の条文ごとに関係する最新の規則・通達等をまとめたものです。

(H28.3 改訂 J 版発行)



品 名	品 番	会員価格	一般価格
特定自主検査関係法令通達集	BC-ZC-03-J	2268 円	3456 円

特定自主検査制度についての疑問を解説

特定自主検査に関する Q & A

特定自主検査制度に関するさまざまな疑問を「Q&A 集」としてまとめたものです。

(H26.10 改訂 A 版発行)



品 名	品 番	会員価格	一般価格
特定自主検査に関する Q & A	BC-YC-01-A	432 円	756 円

特定自主検査の実施経歴の管理

特定自主検査実施経歴書

特定自主検査の実施時期を明確にするとともに、特定自主検査が、いつ、だれが実施したかを記入できるようになっており、機械の履歴管理に活用できます。

品 名	品 番	会員価格	一般価格
特定自主検査実施経歴書 (フォーク)	BP-LC-01	54 円	108 円
経歴書ビニルケース (フォーク用)	BP-LC-02	162 円	324 円
特定自主検査実施経歴書 (建機用)	BP-OH-01	54 円	108 円
特定自主検査実施経歴書 (解体機用)	BP-OH-02	54 円	108 円



表記の価格は全て消費税 8 % 込みの価格です。

※ご紹介致しました図書等は、最寄りの建荷協支部でご購入いただけます。

平成 30 年 4 月

特定自主検査者資格取得者名簿

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 5 月 31 日)

資格の種類ごとに氏名五十音順・敬称略

事業内検査者資格取得者

■フォークリフト

相 川 圭	植 村 壮 利	合 原 靖 隆	鈴 木 教 雄	堂 蘭 茂 樹	深 浦 博 也
安 達 孝 宏	大 嶋 喬 暁	齋 藤 亮	須 田 章	成 田 佑 輝	藤 井 敏
池 上 篤 史	岡 田 基 伸	坂 本 安 功	高 橋 徹	西 岡 勝	松 川 健 太
石 井 大 地	尾 崎 真 也	佐々木 國 光	橘 勇 作	二 宮 達 行	村 上 昇
石 川 誉 光	小 澤 幸 生	佐 治 大 輔	田名部 徹	野 村 晃 司	森 直 樹
石 橋 敬 人	片 山 多 傑	嶋 津 俊 介	谷 本 光 生	野 村 佳 弘	森 部 晃 史
石 橋 勝	菊 池 広 樹	白 井 雄 大	千 原 宏 樹	長谷川 裕 記	横 尾 正 晴
井 関 彩 人	久 保 元	白 川 義 成	塚 原 誠 二	浜 口 忠 雄	若 林 豊 和
板 垣 由 弘	小 林 俊 文	鈴 木 隆 行	辻 中 彰	東 靖 浩	渡 邊 康 宏

■整地・運搬・積込み用・掘削用及び解体用機械

浦 門 洋 一	佐 藤 健 一	鈴 木 正 樹	永 井 誠	緑 川 智 章	山 添 博 幸
神 谷 知 良	佐 藤 天 則	田 邊 英 明	新 田 彬 詞	南 稔	山 田 耕 司
枯 木 裕 次	嶋 田 堅 二 郎	土 屋 貴 紀	西 井 晃	六 車 末 廣	山 本 重 明
川 村 和 久	鈴 木 光 一	東 口 哲 之	樋 口 晴 彦	矢 野 祐 司	吉 田 誠 市
黒 川 慎 太 郎	鈴 木 大 雅	中 山 友 宏	藤 田 礼 三	山 下 大 介	渡 邊 浩 一 郎
齊 藤 一 哉					

■基礎工事用機械

浅 見 亨	片 柳 隼 人	徳 永 哲 也	柳 瀬 知 仁	
-------	---------	---------	---------	--

■締固め用機械

澤 江 洋 平	坪 田 昌 宗	成 山 利 典	山 内 英 樹	
---------	---------	---------	---------	--

■コンクリート打設用機械

佐々木 馨				
-------	--	--	--	--

■高所作業車

新 井 優 介	加 瀬 貞 一	黒 澤 宏 洋	鈴 木 晃 明	野 副 紘 史	森 谷 和 也
江 口 寿 將	金 子 直 太	小 暮 健 介	竹 内 達 也	畑 中 彬 尋	柳 田 和 盛
大 西 恭 平	菊 地 誉	小山石 民 夫	田 中 利 幸	深 堀 徹 也	山 下 大 介
大 村 将 平	工 藤 敏 幸	佐 藤 良 祐	千 葉 北 斗	宮 本 浩 次	湯 浅 啓 輔
岡 田 英 之	工 藤 裕 明	志 村 智	辻 松 誠	向 井 征 二	吉 沢 泰 斗

検査業者検査員資格取得者

■フォークリフト

赤 塚 善 仁	小 川 翔 平	小 嶋 竜 次	相 馬 正 人	内 藤 章	松 浦 泰
漁 克 美	小 倉 修 司	小 袖 博 一	宗 宮 正 文	中 垣 十	松 本 貴 嗣
新 垣 隆 章	小 田 島 元	小 林 直 人	曾 我 部 峻	中 野 玄	松 本 久 志
有 森 英 信	小 野 隆 行	小 林 政 彦	高 田 賢 一	中 村 和 正	松 本 博 行
石 川 正 明	小 野 輝 明	小 松 慎 之	高 橋 圭 一	中 村 健 太	萬 野 貴 昭
石 田 智	影 山 大	子 安 啓 太 郎	高 橋 尚 雅	中 村 幸 太	宮 川 豊
石 塚 航	鍛 治 亮 介	近 明	高 橋 政 春	中 村 徳 孝	宮 崎 大 輔
伊 藤 健 二	片 山 惇	坂 下 蒼	竹 村 康 孝	永 富 晋 一 郎	三代 川 昌 弘
伊 藤 将 志	片 寄 隆 一	嵯 峨 正 俊	田 崎 明	永 野 貴 士	向 畑 善 友
伊 藤 峰 樹	加 藤 昌 平	櫻 澤 陽 介	田 澤 隆 志	成 元 祥 太	村 上 正 義
井 内 聖 也	上 村 行 布	佐々 木 久	田 代 直 也	西 尾 輝 己	村 田 幸 雄
岩 切 辰 樹	河 内 信 幸	佐 藤 伸 彦	立 川 良 一	西 野 浩 之	村 松 祐 輔
岩 谷 博	川 上 貴 弘	澤 井 良 祐	田 中 啓 介	丹 羽 茉 那	矢 羽 田 和 生
上 田 敬 規	川 崎 学	澤 田 英 樹	田 中 崇 徳	野 口 俊 行	山 川 紀 志
内 田 陽 介	川 崎 護	材 木 仁	棚 橋 孝 次	橋 口 将 也	山 崎 維 与
内 山 亮	喜 多 幸 太 郎	莊 司 秀 道	棚 原 克 之	橋 本 卓 也	山 下 愛 博
浦 信 宏	北 川 元 気	柴 田 一 磨	谷 山 道 博	林 田 賢 一	山 中 弘 明
大 石 重 夫	北 嶋 友 作	芝 原 大 輔	田 村 政 己	平 田 翔 也	山 本 明 弘
大 川 和 浩	北 山 宗 克	柴 山 直 也	田 村 優	広 本 昭 夫	吉 澤 透
大 重 和 也	木 村 始	清 水 大 誉	辻 雅 史	深 町 武 広	吉 田 健 治
大 野 康 文	桐 生 正 弘	下 見 世 和 伸	土 谷 力	深 谷 貴 志	吉 田 友 也
大 前 翔 平	工 藤 敬 太	白 井 則 夫	東 城 清 一	福 井 孝 典	吉 成 尚 也
大 前 知 巳	熊 田 琢 磨	杉 浦 裕 之	時 本 郷 史	福 岡 章 高	若 松 勝
大 森 亘	鞍 本 良 平	杉 原 亮 佑	徳 永 貴 士	藤 澤 俊 亮	渡 邊 輝 雄
岡 田 隆 弘	桑 田 明 彦	鈴 木 利 之	戸 田 祐 市	藤 原 英 幸	和 多 竜 一
岡 田 友 博	煙 山 孝 一	鈴 木 裕 二	友 利 泰 典	間 瀬 大 夢	

■整地・運搬・積込み用・掘削用及び解体用機械

石 井 敦	金 井 和 利	佐 藤 将 美	鳥 野 陽 介	平 川 浩 治	村 波 宏 憲
石 川 博	株 木 雅 弘	佐 土 原 重 美	堂 崎 幸 一	福 原 伸 行	森 茂 樹
石 垣 晴 夫	葛 谷 一 幸	澤 田 祥 太 朗	中 島 拳	堀 切 直 輝	諸 星 祐 弥
岩 崎 雄 太	熊 井 秀 樹	白 幡 彰 弘	中 村 文 俊	真 坂 優 介	山 市 匠
江 副 隆 志	坂 井 丈 仁	高 本 達 也	中 村 真	町 田 宙	山 口 淳
大 山 翔	酒 井 寛 幸	竹 内 榮 助	日 登 啓 仁	松 尾 昭 二	山 下 慎 太 郎
岡 澤 真 澄	桜 井 信 一	戸 川 力 俊	八 田 和 也	松 尾 政 和	山 副 幸 一
岡 南 吉 紀	佐々 木 肇	富 田 尚 幸	芳 賀 亮 平	松 本 健 太	吉 田 誠 弘
加 藤 奨	佐 藤 俊 勝	友 利 泰 典	馬 場 潤 一	南 貴 行	渡 辺 隆 亮

■基礎工事用機械

上野栄一	金田篤史	小島学	鈴木宏彰	栃尾勝哉	山田宏幸
植村聡	境蓮勝志	鈴木清治	田沢望	本島洋平	山本保
浦田俊宣	木村友和	鈴木智也	谷内慶太		

■締固め用機械

内山武俊	功刀康司	酒井信裕	篠塚浩一	中村誠	三島英明
落合徹也					

■コンクリート打設用機械

石川悠樹	川満健次	西尾輝己	二村佳三	古田純治	八幡昌道
小田一貴					

■高所作業車

安藤克利	小笠原公平	小林稔生	谷内勇	橋詰和明	村井草平
吉田真也	尾崎泰裕	小林勇雅	田村太一	濱瀬将秀	村上正実
青木正明	尾崎豊	小堀恒幸	津島大輔	早川一成	村上祐輔
秋田政美	開田聖彦	近藤周行	津曲保信	林寛也	持田直也
池田政人	角張亮	近藤政美	遠山陽一郎	兵庫英明	森重修
諫山文博	加藤誠	斎藤将司	渡慶次悠明	廣岡隆浩	谷内宏一郎
井上雄太郎	金城哲明	酒井啓行	中島拓哉	堀内大平	山口聖
今井良己	上畠誠	榊原明	中野雄平	増田伸明	山崎正和
白井則夫	城戸一矢	坂爪範雄	西庵剛	松尾康広	山田慎也
梅野裕平	木村始	島崎公孝	西田慶祐	松本智之	山田直也
海野良介	工藤敬太	下畑和之	菲澤一之	水嶋晃誠	横江和樹
大倉道彦	熊谷誠	平重成	丹羽茉那	水脇幸哉	吉田恵祐
大谷友則	小泉慎也	竹島豊	野澤和也	溝上博康	吉田俊教
岡田隆弘	高野互	田中恭兵	芳賀勇紀	三原隆	六谷基
岡本知弥	小林貴				

平成29年度の考案賞入賞作品の紹介

賞 名	支部名	会 社 名	考案者名 (敬称略)
		考案の名称	
金賞 2件	熊本県	日立建機日本株式会社 九州支社 大津営業所	許斐 勝
		Wi-Fiカメラを用いた安全作業	
	兵庫県	トヨタL&F兵庫株式会社 阪神営業所	井上 賢一
		腰痛軽減いす&寝板	
銀賞 3件	広島県	株式会社アイチコーポレーション 中四国支店 広島中央CSC	竹下 和之
		電動ラジコン式重錘巻取・繰出装置（特定自主検査時測定治具）	
	新潟県	コマツカスタマーサポート株式会社 関越カンパニー 長岡サービスセンタ	渡辺 道浩 他8名
		ホイールローダーバケットピンコードリング取り付け時の安全治具	
	千葉県	トヨタL&F千葉株式会社 サービス部 業務課	内山 晴雄
		フロントハブ脱着用治具	
努力賞 5件	新潟県	トヨタL&F新潟株式会社 中条営業所	杉本 知己
		フォークリフトフロントアクスルハウジング端部保護キャップ	
	新潟県	日立建機日本株式会社 北関東信越支社 長岡営業所	前田 政範
		オイル交換後フィルタ処理	
	福岡県	株式会社筑豊製作所 福岡支店 サービス課	有田 康德
		小型杭打ち機ガイドギブ摩耗限度測定治具	
	青森県	トヨタL&F青森株式会社 サービス本部	成田 司
		フォークリフトの現地作業標準化による 労働災害の防止と作業の効率化	
	青森県	コマツカスタマーサポート株式会社 東北カンパニー 八戸サービスセンタ	下田中 安美 他7名
		ホイールローダーのカッティングエッジ交換作業改善	

平成29年度 公益社団法人 建設荷役車両安全技術協会 考案賞入賞作品

金 賞

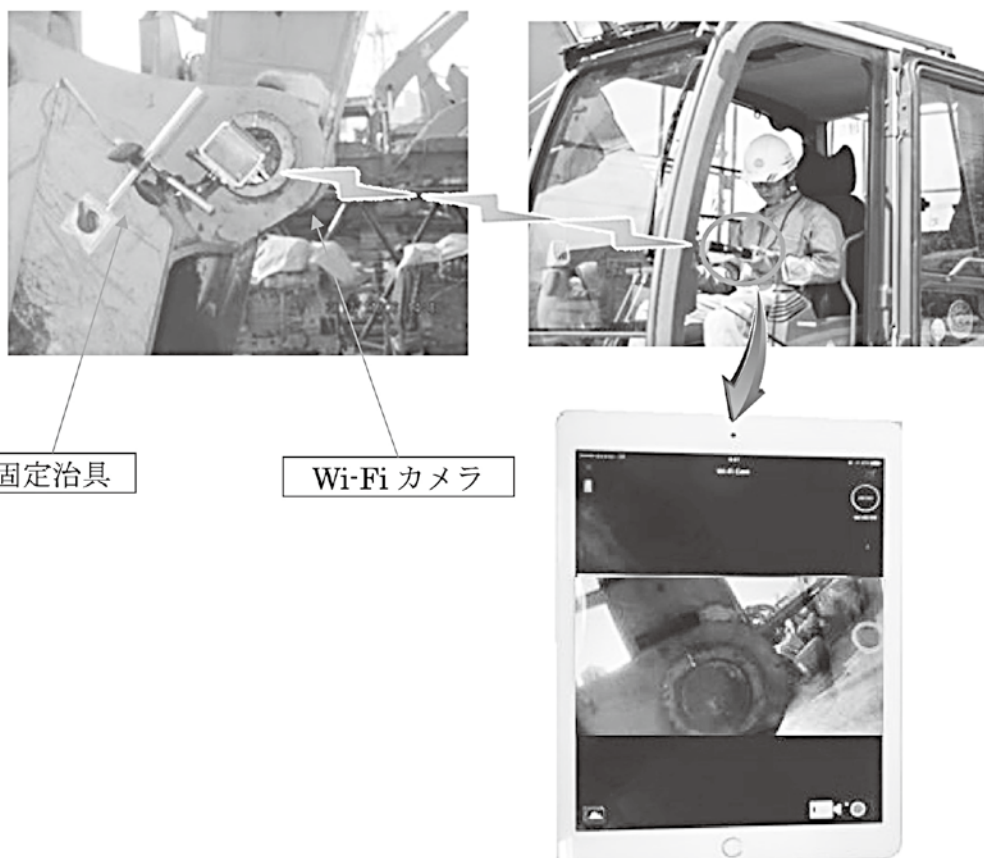
Wi-Fiカメラを用いた安全作業

[熊本県支部] 日立建機日本株式会社 九州支社 大津営業所
許斐 勝

【考案の動機】

バケット交換や高所のピン交換等を一人で行うとき、ピン穴の位置を確認するためにその都度機械から降りたり、高所に何度も上り下りする必要があったため、安全かつ早く作業ができる方法が必要になった。

【考案の内容】



【考案の効果】

- ・ピン穴確認が安全かつ早くできるようになった
- ・ブームシリンダーのピン穴確認では15分⇒5分（△10分）となった

平成29年度 公益社団法人 建設荷役車両安全技術協会 考案賞入賞作品

金 賞

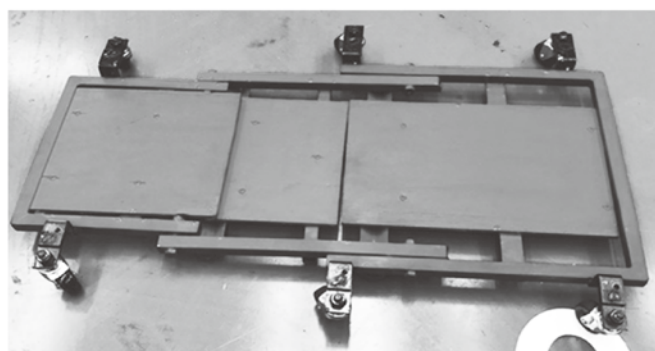
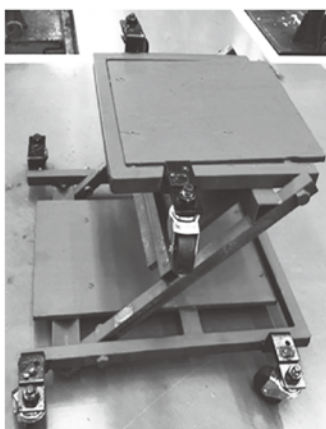
腰痛軽減いす&寝板

[兵庫県支部] トヨタL&F兵庫株式会社 阪神営業所
井上 賢一

【考案の動機】

中腰や無理な姿勢での作業が多いため腰痛が軽減できるいすを検討していた所、車両下部をメンテナンスするときに使用する寝板を兼用できないかと考えて作製。

【考案の内容】



【考案の効果】

作業中の腰への負担もなく、楽に作業できるようになった。

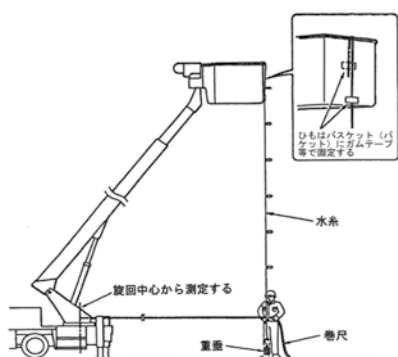
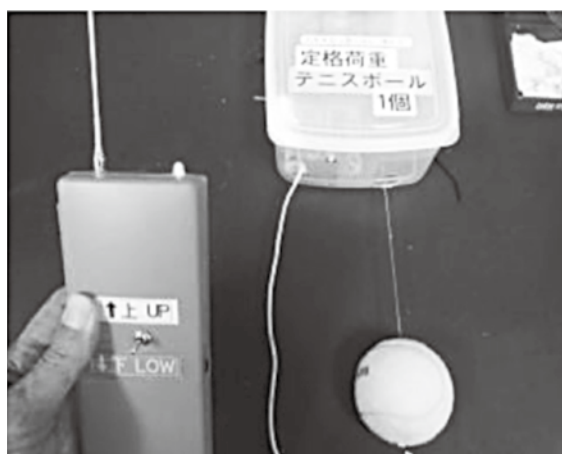
平成29年度 公益社団法人 建設荷役車両安全技術協会 考案賞入賞作品

銀 賞**電動ラジコン式重錘巻取・繰出装置（特定自主検査時測定治具）**〔広島県支部〕 株式会社アイチコーポレーション 中四国支店 広島中央 CSC
竹下 和之**【考案の動機】**

作業半径測定時にバケットから紐に取付けた重錘を垂らし作業半径を測定していたが、作業半径に応じ何度も紐をドラムに巻取り、繰出しをする必要があった。また、風等で紐がもつれた時には修正する時間が掛っていた。旋回時や張幅変更時等で、ブーム作動するたびに紐を巻取る手間が発生していた。

【考案の内容】

- ① 作業半径測定用重錘紐の巻取り繰出し動力化装置を製作、重錘紐巻取り、繰出しに要する工数を低減した。
- ② 測定紐巻取り、繰出しのために繰り返していた往復歩行、紐のもつれ修正時間を低減した。

【従来の方法】**【製作した電動ラジコン巻取・繰出装置】**

使用方法：ブーム操作と同時に繰出・巻取装置の送信機で重錘位置を調整する。

【考案の効果】

重錘糸調整に関わる歩行が不要となり、紐のもつれ発生の防止もできた。
15分 / 1台当りの作業効率化。

銀 賞

ホイールローダーバケットピンコードリング取り付け時の安全治具

〔新潟県支部〕 コマツカスタマーサポート株式会社 長岡サービスセンタ
渡辺 道浩 他8名

【考案の動機】

リフトアームとバケットの接続部には土砂侵入防止のコードリングの取り付けが必要です。取り付け方法はコードリング2本を1本ずつ左右の手で持ち、運転操作者のリフトアームの動きに沿わせて接続部に挿入します（リフトアームは2個有るため、左右で2人必要）。当該接続部は狭く、僅かな不測の動きでも指の切断等の重大災害が発生する恐れのある、非常に危険な作業で、改善が必要でした。

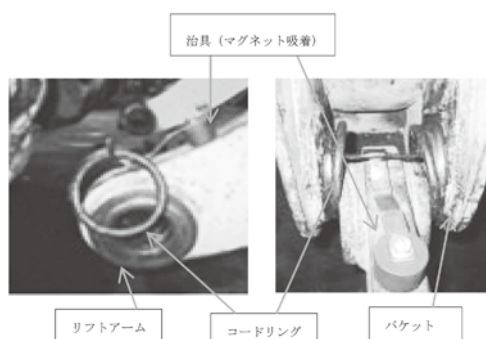


【考案の内容】

〔作製したコードリング取り付け治具〕



マグネットにステーを取り付け、ステーの先端にコードリングを切った円弧状のものを取り付けます。



〔リフトアーム部組付け〕

リフトアームにステーをマグネット吸着し、半円状のリングにコードリングを2個掛けて置く、リフトアームをバケットボス下より上昇させるとリングの下側がバケットボスの凸部下側に当たり位置が固定される、そのままアームを上昇させると所定の位置(バケットボス外周)にコードリングがセットされる。
コードリングを手で持つ必要も無く安全、左右セットし1人で作業完了、リングの切損も無い、治具の取り外しは簡単。

〔ベルクランクロッド部組付け〕

ロッドのピンを通すボス厚さが薄いので、バケットブラケット左右の外側側面にそれぞれ治具を吸着させる。
ロッドをクレーン等で降下させ所定の位置にセット、ピンを挿入し完了する。

油圧ショベルにも応用可能



【考案の効果】

コードリングの手持ち作業不要となり、コードリングの切損も無く、1人で安全・確実・効率的に作業が出来るようになりました。

平成29年度 公益社団法人 建設荷役車両安全技術協会 考案賞入賞作品

銀 賞 フロントハブ脱着用治具〔千葉県支部〕 トヨタL&F千葉株式会社 サービス部 業務課
内山 晴雄**【考案の動機】**

フロントハブの重量が増加（当社比）し、人手での脱着が難しくなった。ドーリーを使用すれば良いが、現地作業等でドーリーを使用できない場合、非常に苦戦するため。

【考案の内容】

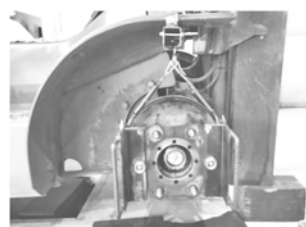
ハブをフェンダーから吊るしフェンダー外へスライドさせる治具を作製。
腰に負担がかかる無理な姿勢での脱着作業（特にダブルタイヤ）を軽減する。



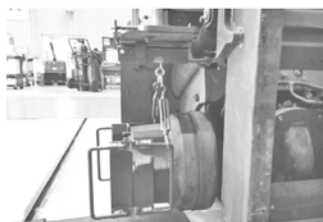
治具全体



吊下げ用治具部分



治具装着状態（正面）



治具装着状態（側面）



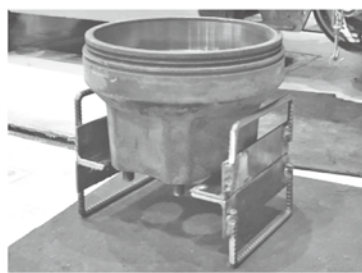
スライド状態



ハンドルを装着しさらにスライド



スライドした治具がお辞儀してハブが着地



ターンバックルを緩めて治具から取り外す

ハンドル部分を広く作製しているの
でハンドルを取り
外さずに作業が可
能

【考案の効果】

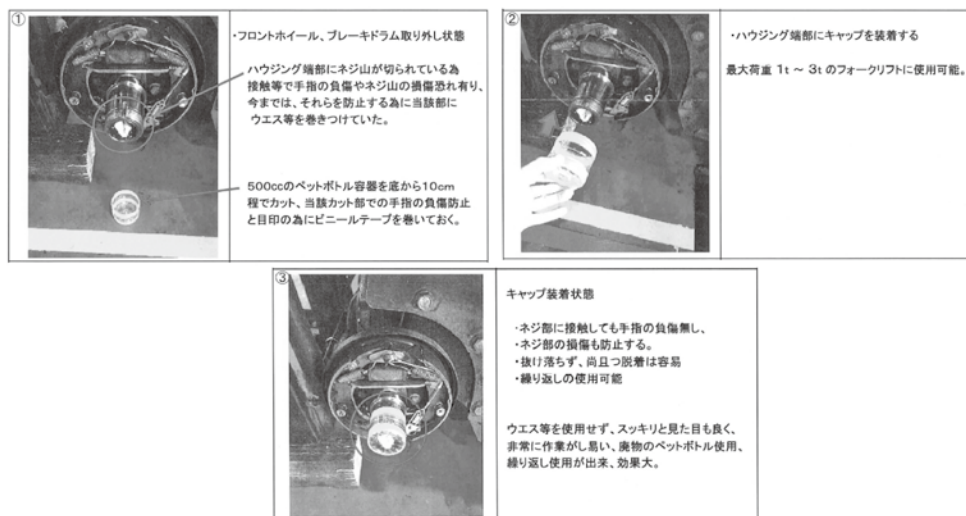
屈んだ姿勢ではなく、腰を垂直に近い状態で脱着できるので、腰にかかる負担が少なくなった。

努力賞 フォークリフトフロントアクスルハウジング端部保護キャップ[新潟県支部] トヨタエルアンドエフ新潟株式会社 中条営業所
杉本 知己**【考案の動機】**

フォークリフトのブレーキ分解整備時、フロントアクスルハウジングの端部がブレーキ中央部に突き出した状態になりますが、ハウジング端部には鋭利なネジ山が切られているため、全国の販売店でも手指の切り傷等の労働災害が発生し、当社でもヒヤリとする事が有ります。ハウジング端部にウエス等の巻き付けや軍手をはめたり、ナットを取り付けたりして災害防止を図っていましたが、見た目も悪く、ウエス等が邪魔になるために作業もやり難く、改善の必要性を感じていました。

【考案の内容】

廃棄品の500ccのペットボトルを底面より10cm位でカットしキャップ状にする、カットした切り口での怪我防止とキャップが目立つように、カット部と中間にビニールテープを張り付け、アクスルハウジング部（ネジ山部分）にかぶせる、ピッタリとはまり脱落の心配は無い。見た目も良く、手指の傷付きやネジ山の損傷も防止できる。（1t～3tのフォークリフトに使用できる様にした。）

**【考案の効果】**

非常に簡単に作製でき安価（0円）。

見た目もきれいで、確実に災害の防止とネジ山損傷防止が図れる。

作業も大変し易くなり、繰り返しの使用が可能。

1t～3tのフォークリフトに使用でき、非常に好評。

平成29年度 公益社団法人 建設荷役車両安全技術協会 考案賞入賞作品

努力賞**オイル交換後フィルタ処理**〔新潟県支部〕 日立建機日本株式会社 北関東信越支社 長岡営業所
前田 政範**【考案の動機】**

出張修理でエレメント交換後、各種フィルタ等を油受けに入れて移動すると油が飛散する。空のペール缶に蓋をして持って帰ると、今度はフィルタが油につかり、帰社後油切りを行った後エレメントの処分をしていた。エレメント交換が多いときは油切り場の網が直ぐに一杯になってしまい、エレメントの処分まで時間が多くなるため、出張修理時に油切りし、帰社後エレメントの処分を早くできる方法を検討した。

【考案の内容】

〔対策前〕



オイルにエレメントがつかり帰社後油切りが必要



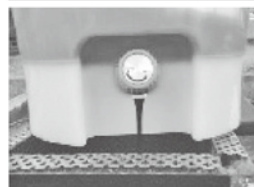
市販のフタ・コック付ペール缶を活用した



エレメントが少ないときの仕切り板設置



足つきメッシュを入れ、移動中油切りができるようにした為、帰社後の油切りが不要となり、処分が早くできるようになった



オイル排出も簡単で周りを汚さない

【考案の効果】

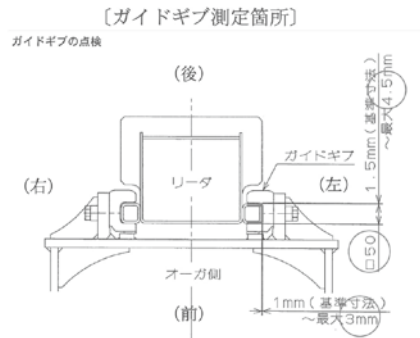
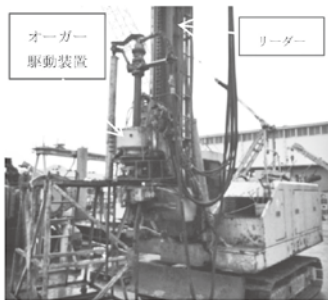
- ・移動中に油切りが出来るようになったため、帰社後エレメントの処分が早く出来るようになり工数削減につながった。20分⇒5分で処分可能
- ・ドレンコックから油を排出する事で、周りを汚さず油の排出が出来る。

努力賞 小型杭打ち機ガイドギブ摩耗限度測定治具

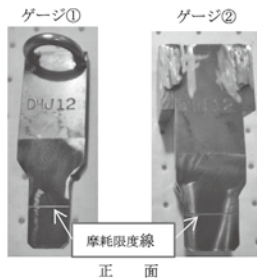
[福岡県支部] 株式会社筑豊製作所 福岡支店 サービス課
有田 康徳

【考案の動機】

ガイドギブの摩耗量測定を、従来はスケール（直尺）を使用していましたが、測定しにくく、また時間も掛かっていました。

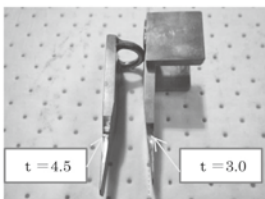
**【考案の内容】**

間違えにくい差込式測定治具を製作しました。（前後方向用－ゲージ①、左右方向用－ゲージ②）テーパ部に摩耗限度である4.5mm、3.0mmの位置にそれぞれ溝を削り分かり易くしました。



正面

〔作製ゲージの使用状況〕



側面



ゲージ①〔前後方向〕



ゲージ②〔左右方向〕

【考案の効果】

短時間で測定できるようになり、また計測ミスも無くなりました。
尚、ガイドパイプの測定も同時に出来るように工夫しました。

努力賞 フォークリフトの現地作業標準化による労働災害の防止と作業の効率化[青森県支部] トヨタL&F青森株式会社 サービス本部
成田 司**【考案の動機】**

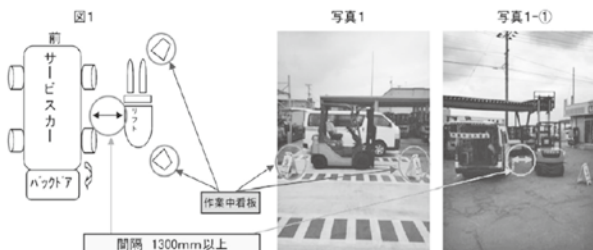
フォークリフトを現地で点検整備する場合の作業手順を標準化し、逸走、激突、転倒はさまれ等の災害防止と作業の効率化を図る。

【考案の内容】

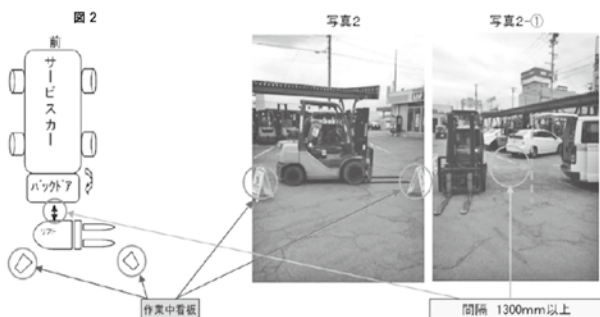
安全用具設置手順と作業条件を定めた。標準化を図るため、実際の作業手順を図、写真により判り易く示した説明書を作成した。

サービスカー・機台の配置及び作業中看板の設置方法とルール**1. 作業時、サービスカーの右側へ機台を配置した場合・・・図1、写真1、写真1-①**

- ① 作業中看板を機台前側及び後側へ斜めに2箇所、設置する事
② サービスカーから機台までは1300mm以上の間隔をとる事

**2. 作業時、サービスカーの後側へ機台を配置した場合・・・図2、写真2、写真2-①**

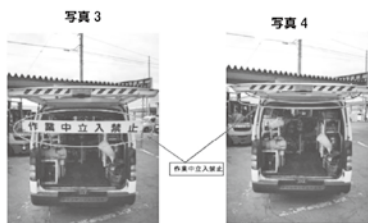
- ① 作業中看板を機台前側及び後側へ斜めに2箇所、設置する事
② サービスカーバックドア開口部から機台までは1300mm以上の間隔をとる事



3. バックドアを開口し作業を行う場合は必ず「作業中立入禁止」の表示を行う事・・・写真3

- ① バックドアを閉める場合は「作業中立入禁止」の表示を元に戻してからドアを閉める事・・・写真4

※強風の場合はバックドアを閉める事

**【考案の効果】**

メカニックのみならず、ユーザーのオペレーター等近隣作業者の注意喚起にもなり安全性及び安心感の向上につながった。

努力賞

ホイールローダのカッティングエッジ交換作業改善

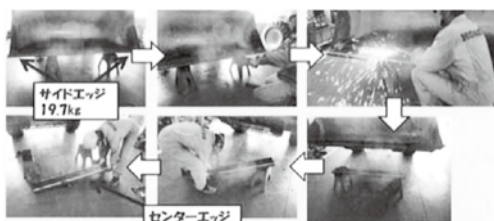
〔青森県支部〕 コマツカスタマーサポート株式会社 八戸サービスセンタ
下田中 安美 他7名

【考案の動機】

4 大類似災害撲滅のテーマの中から、災害頻度が高い重量物取扱のうち当支店の配車台数が多いホイールローダのカッティングエッジ交換作業の改善を選定した。

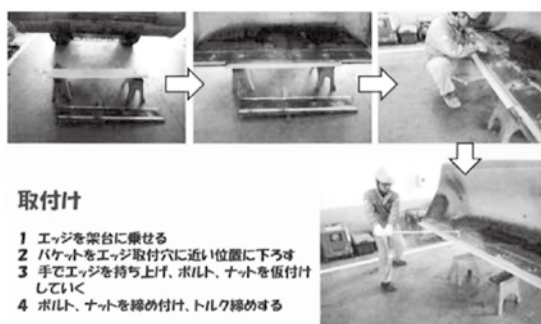
従来方式の問題点

- ・一人でエッジを持つ
- ・カッティング、エッジ交換の作業標準が無い。



取外し

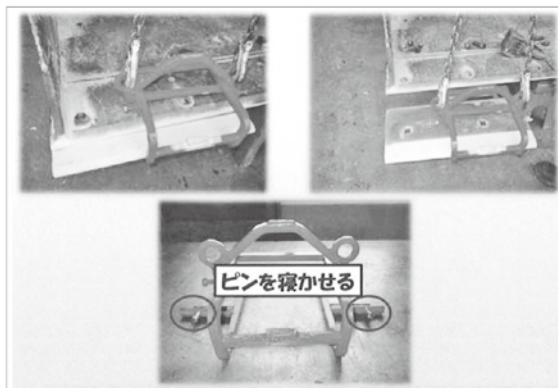
- 1 バケットを架台に設置させる
- 2 取り付けナットを取り外す。又はボルト、ナットをガス切断する。
- 3 バケットを上げて、エッジを取り外す。
- 4 センターエッジは片側ずつ交互に持ち、架台から下ろす
- 5 取り付け面を清掃する。



取付け

- 1 エッジを架台に乗せる
- 2 バケットをエッジ取付穴に近い位置に下ろす
- 3 手でエッジを持ち上げ、ボルト、ナットを仮付けしていく
- 4 ボルト、ナットを締め付け、トルク締める

【考案の内容】



【考案の効果】

安全確保－落としてケガをする危険性の排除
環境管理－エッジ落下による床面傷つけの排除
品質管理－作業中の修理機操作の排除



「考案賞」対象考案の募集について

公益社団法人 建設荷役車両安全技術協会

今年も当協会の顕彰規定に基づく「考案賞」の対象となる改善・考案の募集を次の内容で行います。

1. 募集目的

特定自主検査に係わる労働災害の防止および品質・能率向上に役立つ作業改善や検査技術、機器等の考案を奨励し、特定自主検査推進の意識高揚を図る。

2. 対象の改善・考案

建設荷役車両の特定自主検査および整備作業に関する作業・技術及び機器やその製作についての改善や考案で募集目的に対する効果が認められるもの。

注1)建設機械等の製品そのものの改良・開発は含まない。

注2)他団体に係る賞との重複応募は認めない。

3. 応募対象者

協会の行う事業に貢献し、顕著な功績が認められる企業所属の従業員（個人又はグループ）。

4. 募集条件

- (1) 応募者（グループ）が、自分で改善・考案したものであること。なお、開発・製作を専門に実施している者の応募はご遠慮願います。
- (2) 現在使用しているものであること。
- (3) 汎用品として市販していないものであること。（自社グループ内の利用は可）

5. 応募手続

(1) 応募書類

- ①「考案賞」応募申込書…1通（様式D3）
- ② 考案説明書…1通（様式E3又は同等）

注1)用紙は原則として規定用紙を使用するが、同種のものを自製してもよい。応募申込書及び考案説明書はホームページよりダウンロードできます。

注2)各用紙下欄の作成要領を参照し、必要な略画、写真、図面等を添付すること。

注3)応募用紙を自製する場合は、ワードまたはエクセルを使用し、応募申込書は印刷し、考案説明書はCD及びEメール等の電子データでの提出を認める。その場合貼り付ける写真等はJPGまたはTIF形式を使用すること。

注4)応募書類は返却しない。

(2) 送付先

当協会支部

(3) 提出期限

平成31年1月15日（火）必着

6. 審査

- (1) 審査は、協会本部に設置する顕彰審査会において行う。
- (2) 審査の項目としては、改善・考案の効果のほかに実用化状況等を加味する場合もある。
- (3) 改善・考案の内容が不明確の場合、審査の過程で追加資料の提出を求めることがある。

（平成29年度金賞作品）



「Wi-Fiカメラを用いた安全作業」

「腰痛軽減いする基板」

7. 表彰

- (1) 金賞（賞状及び賞金5万円）：3作品以内
銀賞（賞状及び賞金3万円）：5作品以内
努力賞（賞状及び図書券5千円）：5作品以内
参加賞（図書券2千円）（上記賞は除く）
- (2) 入賞作品は、平成31年3月に決定し、平成31年6月に開催する本部定時総会において公表する。
- (3) 賞状と賞品は、各支部の総会等において支部長から伝達する。

8. 入賞考案の紹介

入賞考案は、協会機関誌「建設荷役車両」及びホームページに企業名、入賞者の個人名及びその概要を掲載します。昨年度の受賞については本機関誌又はホームページをご覧下さい。なお、応募された方に当該年の全応募考案の紹介資料を提供します。

問い合わせ先

公益社団法人建設荷役車両安全技術協会
（担当：牛田 孝史）

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-7-1

ニュー九段ビル9階 ☎ 03-3221-3661（代）

Eメール：t_ushida@sacl.or.jp

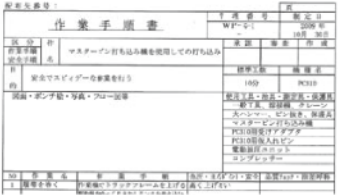
「考案賞」応募対象の解説

この「考案賞」制度は、平成3年からスタートし今回で29回を数えます。平成8年からは「特定自主検査推進の意識高揚を図る。」目的であれば、単に技術的なハード面だけではなく、ソフト面（仕組みの改善等）も考案対象として間口を広げ、応募して頂けるようにしました。

そこで、具体的な応募対象を以下に例示しましたので、参考にして、奮って応募して頂きたいと思います。

傾向として、安全作業と作業効率改善の作品が、毎年審査員の高得点を獲得しています。埋もれている作品とアイデアを発表してみませんか。

【 対象考案の具体例 】

	上段：ハード面説明 下段：ソフト面説明	考案賞応募例
労働災害の防止に係るもの	より安全な作業をするための治工具、用具等の考案。	 ハケット0リング 取付作業(輪ゴム利用)
	より安全な作業をすることができる方法、マニュアル等の考案。	
整備品質の向上に係るもの	特自検、又はその関連作業で点検修理をより確実するための治工具、用具等の考案。	 コンセント焼損感知シート(お知らせさん)
	特自検、又はその関連作業で点検修理をより確実するための方法、マニュアル等の考案。	
作業の効率化に係るもの	特自検、又はその関連作業で点検修理を効率良くするための治工具、用具等の考案。	 腕時計型サーキットテスター
	特自検、又はその関連作業で点検修理を効率良くするための方法、マニュアル等の考案。	
信頼される特定自主検査制度の推進に係るもの	特自検制度がより理解され、信頼されることにつながる計器、用具等の考案。	 作業手順書
	特自検制度がより理解され、信頼されることにつながる方法、マニュアル等の考案。	

- 注 1) 建設機械の製品そのものの改良・開発は含まない。
 注 2) 商品として専門に改良・開発されるものは含まない。

様式 D₃

平成 年 月 日

公益社団法人建設荷役車両安全技術協会 御中

「考 案 賞」応募申込書

企業の名称： _____

所 在 地：（〒 - ） _____

責 任 者： 役職 _____ 氏名 _____ ㊞

平成 ____ 年度の考案賞対象として、説明書を添えて下記を応募いたします。

記

1. 考案の名称： _____

2. 考 案 者：

	所属	氏名	(フリガナ)
①	_____	/ _____	(_____)
②	_____	/ _____	(_____)
③	_____	/ _____	(_____)
④	_____	/ _____	(_____)
⑤	_____	/ _____	(_____)

3. 本件に関する連絡者

(フリガナ)

 所属： _____ 氏名： _____ (_____)

作成要領：1) 応募申込には本用紙を使用して1件について1通を作成し、考案説明書（様式 E₃ 又は同等）と合わせて、当協会支部宛に送付して下さい。

（考案説明書は CD 及び E メール等でも可能）

2) 責任者は、企業の代表者、又はこれに準ずる者（原則として部長クラス以上）とします。

3) 考案者が複数の場合は、全員の名前を記入し、チームリーダーを明らかにしてください。

支部



様式 E₃

平成 年 月 日

考 案 説 明 書

1. 考 案 の 名 称	
2. 考 案 の 動 機 〔 従来方式の 問題点等 〕	
3. 考 案 内 容	[構造、使用状況等の分かり易い写真及び図面を添付して下さい]
4. 考案の効果	
5. 特許・実用新案 〔出願〕 有 ・ 無	名 称 : 出願者氏名 : 出願年月日 : 出 願 番 号 :
6. その他 考案期間、費用 実用化状況等	

作成要領；1）考案説明書は、本用紙と同じ内容（1、考案の名称～6、その他）であれば別紙（A4 又は A3）でもかま

いません。但し、1 件 1 葉とします。考案説明書は CD 及び E メール等でも可能

2）詳細説明文が長い場合は間隔を調整するか別用紙(A3 又は A4 判) を添付してください。

3）考案の内容、構造、使用状況等の分かり易い写真（高解像度）及び図面を添付してください。

4）案の効果は、安全性向上・作業効率・時間・費用低減等、具体的、数量的に記載してください。

5）特許、実用新案は、有、無いいずれかを○ で囲み、「有」の場合は右欄に内容を記入してください。

6）その他は、考案・製作に要した期間・費用とその後の展開等を記入して下さい。

支 部 一 覧

平成30年 6 月 1 日現在

支部名	〒	所 在 地	電話番号	FAX
北海道	060-0004	北海道札幌市中央区北4条西7丁目 NCO札幌ホワイトビル9階	011(271)7720	011(271)7580
青 森	030-0902	青森県青森市合浦1-10-7	017(765)5432	017(765)5433
岩 手	020-0873	岩手県盛岡市松尾町17-9 岩手県建設会館2階	019(626)2616	019(626)2627
宮 城	983-0842	宮城県仙台市宮城野区五輪1-6-9 五輪黄葉ビル201号	022(298)2150	022(298)2151
秋 田	010-0923	秋田県秋田市旭北錦町1-14 秋田ファーストビル210号室	018(823)8258	018(823)8260
山 形	990-8681	山形県山形市流通センター 2-3 山形流通団地組合会館内	023(666)6581	023(666)6582
福 島	960-8035	福島県福島市本町5-8 福島第一生命ビル4階	024(521)8065	024(521)8248
茨 城	311-3116	茨城県東茨城郡茨城町長岡3652-559	029(292)6546	029(292)6547
栃 木	320-0043	栃木県宇都宮市桜1-1-3 プレジール桜2階C	028(636)0102	028(636)0103
群 馬	371-0805	群馬県前橋市南町4-30-3 勢多会館1階	027(223)3448	027(223)3451
埼 玉	330-0062	埼玉県さいたま市浦和区仲町1-12-1 カタヤマビル5階A	048(835)3050	048(835)3055
千 葉	260-0026	千葉県千葉市中央区千葉港4-3 千葉県経営者会館3階303号	043(245)9926	043(245)9927
東 京	102-0072	東京都千代田区飯田橋1-7-10 山京別館4階	03(3511)5225	03(3511)5224
神奈川	231-0011	神奈川県横浜市中区太田町6-87 横浜フコク生命ビル10階	045(664)1811	045(664)1817
新 潟	950-0961	新潟県新潟市中央区東出来島11-16 新潟県自動車会館内	025(285)4699	025(285)4685
富 山	930-0094	富山県富山市安住町3-14 富山県建設会館内	076(442)4358	076(442)6748
石 川	920-0806	石川県金沢市神宮寺3-1-20 コマツ石川(株)レンタル事業部事務所2階	076(208)3302	076(208)3303
福 井	910-0854	福井県福井市御幸4-19-25 広田第2ビル2階	0776(24)7277	0776(24)9507
山 梨	409-3867	山梨県中巨摩郡昭和町清水新居1602 ササモビル2階	055(226)3558	055(226)3631
長 野	380-0872	長野県長野市妻科426-1 長野県建築士会館4階	026(232)2880	026(232)6606
岐 阜	504-0843	岐阜県各務原市蘇原青雲町5-34	058(382)5011	058(382)5120
静 岡	420-0857	静岡県静岡市葵区御幸町11-10 第一生命・静岡鉄道ビル5階	054(205)4580	054(205)4581
愛 知	450-0002	愛知県名古屋市中村区名駅4-23-13 大同生命ビル3階	052(586)0069	052(586)0010
三 重	514-0009	三重県津市羽所町601 アカツカビル4階	059(223)7177	059(223)7180
滋 賀	520-0043	滋賀県大津市中央4-5-33 SKビル2階C	077(521)5260	077(521)5352
京 都	615-0042	京都府京都市右京区西院東中水町17 京都府中小企業会館5階	075(314)0080	075(314)8398
大 阪	540-6591	大阪府大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル8階	06(6944)6611	06(6944)6612
兵 庫	650-0024	兵庫県神戸市中央区海岸通8 神港ビル703号	078(332)4936	078(392)8921
奈 良	630-8113	奈良県奈良市法蓮町163-1 新大宮愛正寺ビル2階(公社)奈良県労働基準協会内	0742(93)5181	0742(36)5715
和歌山	640-8287	和歌山県和歌山市築港3-23 和歌山港湾労働者福祉センター 1階	073(435)3337	073(435)3338
鳥 取	682-0802	鳥取県倉吉市東蔵城町120番地 ブライムスクエアビル2階	0858(22)1400	0858(23)4667
島 根	690-0012	島根県松江市古志原2-20-54	0852(27)0340	0852(27)0556
岡 山	700-0907	岡山県岡山市北区下石井2-8-6 第2三木ビル205	086(222)6039	086(222)4296
広 島	733-0011	広島県広島市西区横川町1-11-24 山田オフィスビル202	082(291)1150	082(291)3413
山 口	753-0083	山口県山口市後河原25 愛山会ビル2階	083(932)1858	083(932)1859
徳 島	770-0808	徳島県徳島市南前川町4-14 船橋設計ビル2階	088(622)8243	088(622)8243
香 川	760-0062	香川県高松市塩上町10-5 池商はせ川ビル113	087(837)3668	087(837)3671
愛 媛	790-0003	愛媛県松山市三番町7-8-1 山本ビル2階	089(941)6740	089(941)7361
高 知	780-0072	高知県高知市杉井流9-11	088(882)5025	088(882)0837
福 岡	812-0013	福岡県福岡市博多区博多駅東2-6-14 正和ビル4階402	092(474)2246	092(474)2312
佐 賀	849-1301	佐賀県鹿島市大字常広139-2	0954(62)6315	0954(62)6368
長 崎	854-0072	長崎県諫早市永昌町10-8-202	0957(49)8000	0957(49)8001
熊 本	860-0845	熊本県熊本市中央区上通町7-32 蚕糸会館3階	096(356)6323	096(356)6325
大 分	870-0844	大分県大分市大字古国府字内山1337-20 大分県林業会館4階	097(540)7177	097(540)7127
宮 崎	880-0802	宮崎県宮崎市別府町2-12 宮崎建友会館3階	0985(23)5061	0985(23)5129
鹿児島	891-0123	鹿児島県鹿児島市卸本町6-12 オロシティーホール内	099(260)0615	099(260)0646
沖 縄	901-2131	沖縄県浦添市牧港5-6-3 南海建設4階	098(879)3744	098(879)3757

編集後記

今回、工事現場見学で訪れた大阪ビジネスパークは、30年近く前、当時大学生だった私が企業説明会として何度か足を運んだ場所でした。その時以来の久しぶりの再訪問でしたが、きれいな街並みとオフィスビルが立ち並ぶ様子は、当時の田舎学生であった私には憧れの場所でもありました。

今回初めて大規模なビルの工事現場を訪問しましたが、読売テレビの新社屋もそうですが、最近では高機能や外装のデザインも洗練されたビルが多く建設されていますが、その中で働く作業員の方々へも働き方改革やITを駆使した生産性の改善、そして様々な安全への工夫が取り入れられていることを実際に見聞き出来、日本の工事現場の改革が進んでいることを実感する事が出来た貴重な経験となりました。

[広報委員：森田 康太郎 記]

委員長

水島 敏文 [清水建設(株)]

兼八 淳 [日本通運(株)]

副委員長

佐藤 裕治 [住友建機(株)]

山本 泰徳 [池田内燃機工業(株)]

室町 正博 [日通商事(株)]

委員

津川 元 [コベルコ建機(株)]

小澤 真一 [事務局：常務理事]

岩崎 茂樹 [コマツ]

廣山 浩 [事務局：広報部]

森田康太郎 [キャタピラー]

遊部 浩司 [同]

関 邦生 [日立建機(株)]

吉田 岳 [同]

田中喜代志 [コマツ]

加藤 彰秀 [株豊田自動織機]

平山 哲也 [大成建設(株)]

(平成30年 6月10日現在)

「建設荷役車両」 VOL. 40 第236号

平成30年 6月25日 印刷

平成30年 7月1日 発行

発行所 公益社団法人 建設荷役車両安全技術協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-7-1 (ニュー九段ビル 9F)

TEL: 03 (3221) 3661 / FAX: 03 (3221) 3665

URL <http://www.sacl.or.jp/>

編集 広報委員会

発行人 小澤 真一

印刷所 株式会社東伸企画

ユーザー名 (U) sac1hp パスワード (P) sac1hp

機関誌「建設荷役車両」広告掲載案内

建設荷役車両に関わるすべての企業のために
私たちの協会があります。

当協会は、建設荷役車両(車両系建設機械、荷役運搬機械)の検査・整備業、リース・レンタル業、ユーザー、メーカーなどから構成された団体です。

これらの企業が協力して、建設荷役車両の性能の保持向上と作業の安全を確保するために定期(特定)自主検査制度の定着化を推進しています。

販売促進の可能性をつむぎ出すために・・・。

B (Business) to B(Business) & H(Heart) to H(Heart)

「建設荷役車両」広告掲載料金
B5版 隔月奇数月発行 発行部数：5,100部

掲載場所	頁／色	掲載料金
表紙2	1頁／1C	42,000円
表紙3	1頁／1C	36,000円
表紙4	1頁／2C	54,000円
前 付	1頁／1C	34,000円
後 付	1頁／1C	30,000円

- 広告原稿締切日：発行前月の7日
- 上記広告掲載料金以外に図案制作、エアーブラシ、トレース及び製版等の制作費及び消費税は別途頂戴致します。

お問い合わせ先 広報部：03-3221-3661



社団法人 **建設荷役車両安全技術協会**

SAFETY ASSOCIATION OF CONSTRUCTION & LOADING VEHICLES

会長 吉識 晴夫

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-7-1 ニュー九段ビル 9F
TEL：03-3221-3661 FAX：03-3221-3665 URL <http://www.sacl.or.jp/>



特定自主検査業者の必需品！

内容明細

- | | |
|-----------------|------------------|
| ● ノズルテスター | ● カラーチェック |
| ● コンプレッションテスター | ● 足廻り測定具 |
| ● デジタル回転計 | ● シックネスゲージ |
| ● サーキットテスター | ● ノギス |
| ● バッテリークランプテスター | ● 油圧測定工具 (40MPa) |
- * 内容の変更についてはご相談下さい。
 * Aセットでは非接触型の回転計となります。
 Bセットではデジタル回転計はディーゼル専用 (燃料高压管検知) となります。
 * フォークリフト用チェーンゲージ、ガソリン車専用回転計も別途承ります。

(アルミ収納ケース付き)

本製品の御問合せ、ご注文は下記東京工場までお願いします。



特定自主検査用計測器

新商品のご案内

ポータブル流量計 (ポータブル油圧テスタ) (英国 WEBTEC社製)

オイルコンポーネントの保守管理

- 建設機械の油圧システムの流量・圧力・温度を簡単に計測できます。
- ポータブルなので、フィールドサービスでの故障診断・保守点検に威力を発揮します。
- 双方向の計測が可能ですので、計測時間が短縮できます。
- 計測能力

モデル DHT401 : 10-400 リッター／分 圧力 : 最大 40MPa

モデル DHT801 : 20-800 リッター／分 圧力 : 最大 48MPa

- 接続口金、ホースも別途ご用意しておりますので、お問い合わせください。
- 詳細は弊社ホームページでご確認ください。



作動油汚染度測定器 オイルコンタミチェッカー (英国MP FILTRI社製)

オイル管理はコンタミ管理から

- 測定油にレーザー光を照射、その透過率から固体汚染物の粒子の大きさと数を測定します。
- 測定結果は「NAS等級」、「ISO4406コードNo」のどちらにも対応、同時にプリントもできます。
- 油圧ラインに直接接続、本体が稼動したままで測定するライン計測と、採取油のサンプリング測定との2通りの測定方法。(別途サンプリングキットを使用)
- 測定結果は本体にメモリー、パソコンへの転送も可能です。
- ディーゼル燃料の汚染度も測定可能です。



オイルコンタミチェッカー LPA-2

New インラインコンタミネーションモニター (英国MP FILTRI社製)

装置組込みタイプ

- 油圧装置への組込みで、オイルの清浄度を常時監視できます。
- USBメモリスティックでデータを簡単にダウンロードできます。(オプション)
- 専用ソフトウェアが付属、お手持ちのPCで容易にデータの取りまとめができます。
- 計測結果は内部メモリーに自動保存できます。
- データの通信はシリアル通信・アナログ通信共に対応しています。
- ICMモニター上で汚染度の等級 (ISO4406/NAS 1638)、粒子分布が確認できます。
- 水分計測 (%RH)、温度計測ができます。



その他、豊富な整備経験により生まれた油圧テスター・特殊工具の製造販売および各種専用機械・工具等の輸入販売を致しております。

マルマテクニカ株式会社

■本社・相模原事業所 SE営業課

〒252-0331 神奈川県相模原市南区大野台6-2-1

TEL 042 (751) 3024 FAX 042 (751) 9065

E-mail: overseas@maruma.co.jp

■東京工場

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘1-2-22

TEL 03 (3429) 2141 FAX 03 (3420) 3336

■名古屋事業所

〒485-0037 愛知県小牧市小針2-18

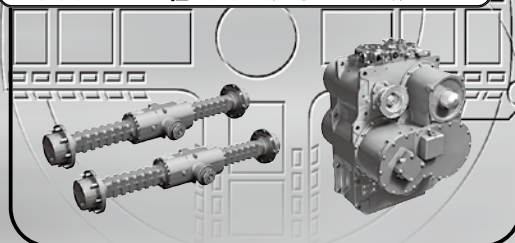
TEL 0568 (77) 3311 FAX 0568 (77) 3719

URL <http://www.maruma.co.jp>

MARUMA

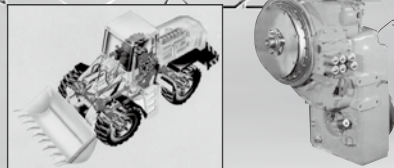
あらゆる建設機械／シールドマシン・・・ 油圧機器の整備・再生

イタリアDANA社のアクスルトランスミッション



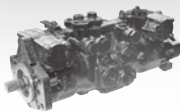
建設機械用ZFトランスミッション

点検・整備は、日本ではマルマのみが対応

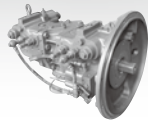


建設機械のあらゆる油圧機器

斜板式ダブルポンプ



斜板式ピストンポンプ



斜軸式ピストンモータ



シールドマシン用油圧機器



シールド用ジャッキ

電動モータ付ピストンポンプ

建機と共に半世紀以上。確かな「信頼」をお届けします！

整備・再生された各Ass'yは、自社独自開発の多機能油圧機器試験機により性能を確認。各テストのデータはデータベースとして保存され、出荷後、マッチング調整や、搬送されてきた同等品の確認テストに活用します。この万全を期した体制がマルマの高い信頼性の由縁です。



MH-R220は従来の油圧ドライブ型油圧機器試験機に比べ、インバータ制御電動モーター駆動、及びエネルギー回路の採用により大幅な消費電力量の削減を実現しました。大型油圧ポンプの試験も可能です。



マルマテクニカ株式会社

本社・相模原事業所 営業部 整備油機課

〒252-0331 神奈川県相模原市南区大野台6丁目2番1号

TEL042 (751) 3809 FAX042 (756) 4389

E-mail:yuki@maruma.co.jp

東京工場 〒156-0054

E-mail:tokyo@maruma.co.jp

名古屋事業所 〒485-0037

E-mail:service@maruma.co.jp

東京都世田谷区桜丘1-2-22

TEL03 (3429) 2141 FAX03 (3420) 3336

愛知県小牧市小針2-18

TEL0568 (77) 3311 FAX0568 (77) 3719

ホームページにおいても油圧機器整備公開中

URL <http://www.maruma.co.jp/>

特定自主検査 お済みですか？

－作業前に検査済標章を確認しましょう－

特定自主検査とは

車両系建設機械、車両系荷役運搬機械及び高所作業車については、労働安全衛生法により、事業者は1年を越えない期間ごとに1回（ただし不整地運搬車は2年を越えない期間ごとに1回）、定期に、有資格者による自主検査を実施しなければなりません。この定期自主検査（年次検査）のことを特定自主検査【特自検】といいます。人間でいうなら年に一度の【人間ドック】や【健康診断】と同じです。



■どんな検査を行うのか

検査は、各機械ごとに定められた検査事項について実施し、結果を記録することになっています。

〔安衛則 第151条の21、第151条の53、第167条、第194条の23〕

■検査の記録は

検査の結果は、所定の特定自主検査記録表（チェックリスト）に次の事項を記録して、3年間保存しなければなりません。

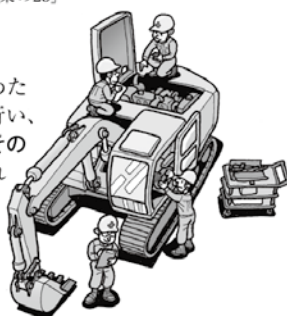
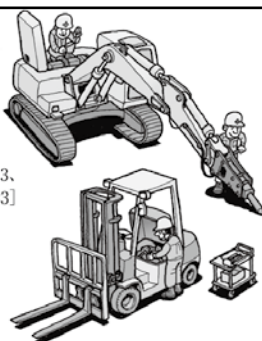
検査年月日 検査方法 検査箇所
検査結果 検査実施者名
検査結果の措置内容

〔安衛則 第151条の23、第151条の55、第169条、第194条の25〕

■異常があった場合は

検査の結果、異常を認めた場合は直ちに補修などを行い、正常な状態に修復させ、その他必要な措置をとらなければなりません。

〔安衛則 第151条の26、第151条の58、第171条、第194条の28〕



■検査する人は

法令で定められた資格を有する検査者、または登録検査業者のいずれかによって特定自主検査を実施することになっています。

〔安衛法 第45条第2項、第54条の3、第54条の4〕

法定検査機器

事業者（ユーザー）からの依頼により特定自主検査を実施する登録検査業者は、次に示す検査機器を最低1セット以上保有することが、法律で決められています。

- 1 圧縮圧力計
- 2 回転計
- 3 シックネスゲージ
- 4 ノズルデスター
- 5 油圧計
- 6 電圧計
- 7 電流計
- 8 探傷器
- 9 摩耗ゲージ



■検査済機械には

検査が済んだ機械には、見やすい箇所（運転席の付近など）に検査を実施した年月を明らかにする標章（ステッカー）を貼付しなければなりません。

〔安衛則 第151条の24第5項、第151条の56第5項、第169条の2第8項、第194条の26第5項〕



■検査や必要な措置を怠ったときは

罰則（50万円以下の罰金等）が適用されます。

〔安衛法 第119条、第120条、第122条〕

特定自主検査や月例検査でお知りになりたいことはございませんか？
当協会支部や協会会員にお気軽にご相談下さい。



公益
社団法人

建設荷役車両安全技術協会

SAFETY ASSOCIATION OF CONSTRUCTION AND LOADING VEHICLES

会長 吉識 晴夫

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-7-1 ニュー九段ビル 9F
TEL : 03-3221-3661 FAX : 03-3221-3665 URL <http://www.sacl.or.jp/>



ちよつと待って

まだ使えます、そのエンジン！



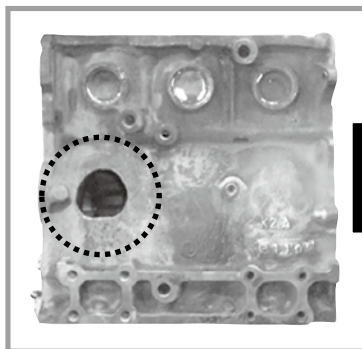
あきらめる前に是非ご一報下さい!!24時間お気軽にお電話下さい

★シリンダーブロック足出し補修再生★

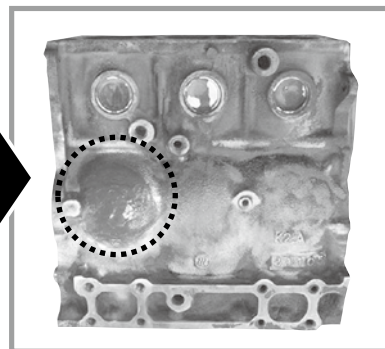


(担当直通: 中川)

E-mail: info@web-krw.com



補修前



補修後

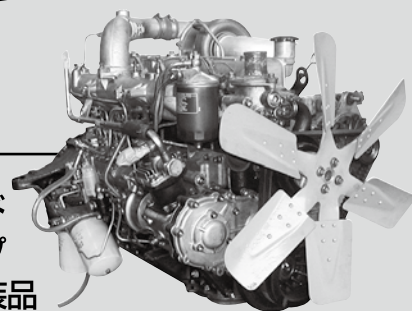
皆さんがお困りの事解決いたします！

リビルト品の活用は 不況脱出の切り札！

★リビルトエンジン、リビルト噴射ポンプ、エンジン付属品リビルト、リビルト電装品のことならおまかせください。

業務内容

- リビルトシリンダーブロック ●リビルトシリンダーヘッド
- リビルトターボチャージャー ●リビルトウォーターポンプ
- リビルト噴射ポンプ ●リビルト噴射ノズル ●リビルト電装品
- 非常用発電機のエンジンメンテナンス ●不良エンジンの買取り・・・まで



お陰様で40周年を迎えることができました。



製品に関するご質問・価格等のお問合せは下記まで。

TEL.076-272-3334 FAX.076-272-3332

詳細はホームページで (☎ URL: <http://www.web-krw.com> E-mail: info@web-krw.com)



ボッシュサービスステーション

株式会社

北日本リビルトワークス 〒920-2132 石川県白山市明島町山142番地1

※ 弊社の全再生品は、整備業者様のみの販売とさせていただきます。(脱着・整備等が困難なため、エンドユーザー様への販売はしておりません。)



解体アタッチメント向け超高耐久カップリング

セインのフラットフェースカップリングに耐久性を極めた
超高耐久**TLXシリーズ**が加わりました。



解体作業を効率よく、クリーンに！

超高耐久

- ブレイカー、鉄骨カッター、小割機、大割機等の圧力変動の大きな各種解体アタッチメントに適應します。

分離時液ダレ無し

- 分離時油モレのないフラットフェースデザインはアタッチメント交換時の環境汚染を防ぎ、作動油の補充量を大幅に削減します。

被圧下分離・接続が可能

- 油圧回路内に圧力が残った状態での分離、接続が可能です。(レンチ等が必要な場合があります)

TLXシリーズ主な特徴

高合金鋼ボディ

- 高い耐圧力性能を実現します。
- 最高使用圧力42MPa/最低破壊圧力168MPa ※接続時

ピンロック採用

- 振動による緩みを防ぎます。
- 接続状態の確認が目視で可能です。

シールプロテクトデザイン

- 接続時、シール材(Oリング)が作動油流路に露出せず、急激な流速変化(サージフロー)が発生した時にシール材をダメージから守ります。



フラットフェースデザイン

- 分離時作動油のモレがありません。
- 作業環境の汚損を防ぎます。
- 異物混入を防ぎ機器の性能を維持、寿命を延ばします。

大きなねじ込みピッチ

- 効率良く接続、分離が可能です。
- 大きなピッチと丸みを帯びたねじ形状により清掃が容易に行えます。

亜鉛ニッケルメッキ採用

- 高い防食性能を実現します。



◀ TLXの動画、製品詳細はこちら。ぜひご覧下さい。